

# 紀 要

第 22 号

茅野市八ヶ岳総合博物館  
茅野市八ヶ岳麓文芸館



## 第 22 号発刊によせて

単純に博物館の評価が入館者数で行われることが多いが、残念ながら当館はここ数年微減傾向である。個人の有料入館者数は増えているが、団体の有料入館者数が減っているためである。この団体有料入館者はグリーン期間に自然体験学習を目的に霧ヶ峰高原に宿泊する学校団体（林間学校）の雨天時の利用である。したがって利用者数は天候に左右される。だが、当館が存在することにより学校は林間学校の計画を立てることができるわけで、当館が存在しなければ霧ヶ峰高原を訪れる計画が立てられなくなる。そういう意味では、実際に利用されなくても当館の存在意義はある。とは言え、雨天でなくとも利用してもらえぬ運営を心掛けねばならないことは言うまでもない。

今年度は特別展示会を 5 回行った。写真展「八ヶ岳 四季の野鳥」、開館 25 周年記念の特別展「八ヶ岳で知る菌類の世界—きのこ・かび・酵母を楽しむ」、文芸館での企画展「俚謡の世界」、市内小中学生の研究・絵画・工作の優秀作品を展示した「研究・創意工夫展」、当館にかかわる市民の活動を紹介する「博物館活動発表展」である。また、各種講演会や講座を活発に開催した。中でも現地を歩いて辿る「新田次郎文学散歩」、「諏訪鉄山の遺跡を歩く」は好評であった。また、初の試みで夏、冬 2 回にわたって行った「星空の環境調査」は、市内の小学 6 年生に調査者として協力してもらい、貴重なデータを収集し残すことができた。従来行ってきた子ども対象の「子ども科学クラブ」は、自然観察学習を主体にした「子ども科学クラブ」と実験工作を体験しながら科学を学ぶ「子ども実験工作クラブ」の 2 講座にした。

博物館の機能として調査研究、資料の収集保管、教育普及があるとよく言われる。地域の博物館においては地域を中心にした研究を行い、データや情報を収集し、保管し、地域理解のための教育普及活動を行うということになる。これらの博物館活動を推進するのは学芸員であるが、地域の小さな博物館はどこでも学芸員が不足しているのが現状である。当館は地域の自然、歴史、文化を扱う総合博物館であるが、その例にもれず学芸員が極端に不足している。その現実を踏まえ、いかに博物館活動を活性化させるかが大きな課題になっている。活動を活発に行うにはどうしてもマンパワーが必要である。そこでそのパワーを市民の持つ力に期待し、市民に協力を求めるために、今年度「市民研究員養成講座」を開講した。詳細については本文を参照していただきたい。とりあえず 3 年間をめどに野外での実習や体験を中心に学習を深めていただき、力を蓄えていただく。そしてその力を博物館の活動に有機的に関わるように発揮していただく。その結果、市民によって支えられ、市民によって高められる、市民のための活発に活動する地域博物館にしていきたいという期待を込めた講座である。今年度は植物、陸水（ミジンコ）、菌類（キノコ）、野鳥、実験工作の 5 つのグループに分かれて活動していただいた。現在その活動と成果を紹介する「博物館活動発表展」を開催しているが、それを観覧した市民が新たに養成講座に参加する姿も見られる。

やがてこの紀要が「市民研究員」の研究発表を伝えられるものになることを願っている。

平成 26 年 3 月

茅野市八ヶ岳総合博物館  
茅野市八ヶ岳麓文芸館  
館長 若宮崇令



## 目 次

茅野市星空環境調査 2013	若宮 崇令	・ ・ ・ ・ 1
八ヶ岳で知る菌類の世界 ーきのこ・カビ・酵母を楽しむー 展示目録	大谷 勝巳	・ ・ ・ ・ 5
宮坂家文書について	柳川 英司	・ ・ ・ ・ 13
市民研究員養成講座		・ ・ ・ ・ 30
植物グループ活動報告		
岩波均 白鳥保美 武居三男（諏訪教育会）名取陽（専門委員）		・ ・ ・ ・ 32
短報 八ヶ岳、御小屋尾根、御柱神社林の年輪解析による遷移について		
八ヶ岳総合博物館専門委員 名取 陽		・ ・ ・ ・ 34
陸水グループ活動報告	花里 孝幸	・ ・ ・ ・ 37
きのこグループの目的と平成 25 年度活動報告について	小山 明人	・ ・ ・ ・ 38
野鳥グループ活動報告	両角 英晴	・ ・ ・ ・ 40
実験工作グループ活動報告	木村 正弘	・ ・ ・ ・ 45
平成 25（2013）年度 八ヶ岳総合博物館の活動の記録		・ ・ ・ ・ 46
茅野ミヤマシロチョウの会 啓蒙活動実績		
ミヤマシロチョウの保護・保全活動等 活動報告		
茅野ミヤマシロチョウの会 福田 勝男 宮下 りよ		・ ・ ・ ・ 54



# 茅野市星空環境調査2013

若宮 崇 令\*

## 1 はじめに

茅野市は諏訪盆地の中央にあり、東は八ヶ岳連峰を境に南佐久郡、佐久市に、北は大河原峠、蓼科山、大門峠等により北佐久郡、小県郡に、西は諏訪市に、南は富士見町、原村に、西南部は杖突峠によって伊那市に接する東西 23.55 k m、南北 20.55 k m、265.88 k m<sup>2</sup>の面積を有している。八ヶ岳の広大な裾野の西側半分を占める標高 700 m から 1200 m にわたる山麓地域である。このように山で囲まれた茅野市は星空の美しい町として、昭和のはじめから半ばにかけて多くのアマチュア天文家が活躍した地として有名である。しかし、近年開発が進み町明かり(光害)により美しい星空が失われつつある。昔はもっとよく星が見えたという声を聞くが、昔は実際何等星まで見えたか、それは何処で見えたかという記録は見当らない。そこで現在の茅野市の星空はどのような状況であるかを年々調査し、記録として残し、未来へ伝えていかなければならないと考え、肉眼で何等星まで見えるか調査するため、「茅野市星空環境調査2013」を夏は白鳥座で、冬はオリオン座を使って実施したので、その結果を報告する。

## 2 実施に当って

### (1) 調査用星図および調査用紙

明るいほうから 1.4 等までの星を 1 等星、2.4 等までを 2 等星、3.4 等までを 3 等星、4.4 等までを 4 等星、5.0 等までを 5 等星、6.0 等までを 6 等星として、オリジナルな白鳥座とオリオン座の星図を作成した。5.0 等と 6.0 等としたのは、6.4 等までにすると星の数が多くなりすぎ、判りにくくなるためである。調査用紙には調査者名、住所、調査年月日、調査時間、調査時の雲の様子を記入してもらうようにし、裏に調査場所をプロットできるように地図を印刷した。

### (2) 調査方法

茅野市には小学校が 9 校ある。学校に協力を依頼し、9 校の 6 年生全員に調査用紙を配布し、6 年の児童生徒に調査者になってもらった。月明かりの無い頃を選び、10 日間ほど調査期間を定め、期間内の好天時に、児童生徒の住宅周辺で 1 日だけ調査してもらった。調査用紙は学校が回収し博物館へ届けてもらった。集結した調査用紙に基づいたデータを 1 枚のマップに落とし込み、何等星まで見えるか、地図上に見え度の等光度線を引き、「茅野市星空環境マップ 2013 夏」「茅野市星空環境マップ 2014 冬」を作成した。その結果は学校を通じて 6 年生全員に配布してもらい周知した。

### (3) 調査期間

2013 年 8 月 28 日～9 月 6 日

2014 年 1 月 24 日～2 月 2 日

### (4) 集計に当って

1 枚の調査用紙に 4 等星以下の暗い星に 2 個以上のチェックが入っていれば、見えたと判断した。1, 2 等星にチェックが入り 3, 4 等星にはチェックが無く、5 等星にチェックがあった場合は、2 等星まで見えたと判断した。博物館職員が行った補間調査の結果も集計した地図に落とし込んだ。また、調査ポイントが

\*八ヶ岳総合博物館館長・学芸員

密集し、調査者により見えた等級が入り混じっている所は1 km メッシュの平均を出し参考にした。本調査は1人の人間が同じ条件で行っているのではないので、ばらつきが出る。このラインからこちら側が暗い星が見えて、向こう側が見えないというようなシビアなものではないので、大体の傾向がわかるように等光度線は大雑把に引いた。

#### (5) 児童生徒に調査を依頼した理由

たとえば市内5 kmおきの格子状に調査ポイントを定め、博物館職員が調査するほうが調査精度も上がるし、まとめがしやすい。調査精度は少々落ち、調査ポイントもばらばらでまとめがしにくいですが、あえて6年の児童生徒に調査者になってもらったのは次の理由による。①子どもたちに星空に関心を持ち、親しんでもらえるように。②未来を担う子どもたちに星空の環境をはじめとして、広く環境問題に関心を持ってもらえるように。③夜に行う調査なので、親子での実施をお願いし、親子の触れ合いの機会の一つにしてもらえるように。

### 3 調査結果

町明かりの影響（光害）は西の諏訪湖周辺、および南の茅野駅周辺の影響を強く受けているが、茅野市の星空は、月明かりの影響の無い夜、夏冬を通じて市内何処でも4等星は見えた。南西の杖突峠のある西山は諏訪湖周辺の明かりが及び、6等星は見えなかった。南東の富士見町、原村方面から八ヶ岳、蓼科山のある北側は光害の影響は少なく6等星まで見えている。その中で夏は白樺湖周辺、冬は白樺湖、車山方面で最微星が見えないのは、ペンションの明かりに加え冬はスキー場の明かりが影響していると考えられる。今年度の調査では、茅野市の星空は町中を抜け少し北東側の山麓に入ると6等星まで見える星空であることと、光害の影響の強いところでも4等星以上の星が見える星空であることがわかった。また、夏より冬の方が暗い星がよく見える傾向があった。

### 4 調査協力者

<夏の調査協力者 138名の6年生とその家族>

玉川小学校 42名、北山小学校 18名、湖東小学校 16名、米沢小学校 24名、豊平小学校 9名、泉野小学校 10名、永明小学校 19名

<冬の調査協力者 285名の6年生とその家族>

玉川小学校 92名、北山小学校 11名、湖東小学校 46名、米沢小学校 20名、豊平小学校 12名、泉野小学校 10名、永明小学校 24名、宮川小学校 62名、金沢小学校 8名

2回目となる冬の調査には全校9校の協力を得ることができ、調査ポイントも格段に増えた。

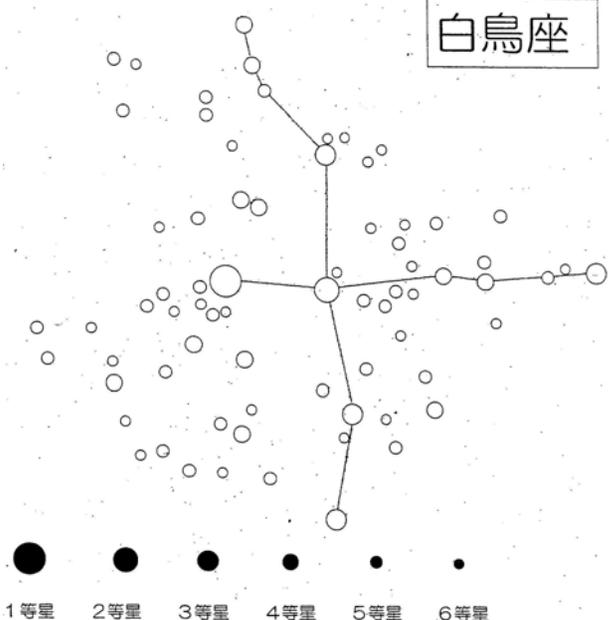
### 5 おわりに

6等星まで見える美しい星空は茅野市民共通の財産であり、宝である。暗い星の見える範囲が現在より狭くならないようにしたいものである。

今回の調査に当っては泉野小学校田中校長には有益なアドバイスを多々いただいた。また校長会、学校職員の協力、そして多くの児童生徒に協力いただいた。ここに感謝申し上げる。

今後、この調査を継続することにより年々のデータを集積し、将来の星空の環境保全に役立てていきたい。

# 白鳥座



## < 星空の環境調査調査用紙 >

### 「2013年度星空の環境調査<夏>について」

星の美しい茅野市の夜空は何等星までの星が見えるかを調査するものです。遠くへ出かけていくのではなく、自宅か自宅付近で調査してください。

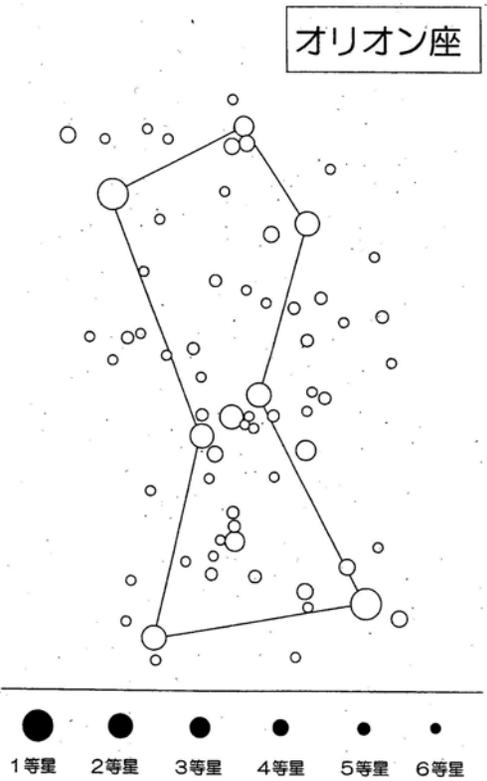
調査用紙、鉛筆、懐中電灯を用意してください。  
 自宅か自宅付近の街灯など、明かりの目に入らない暗い場所で調査してください。  
 白鳥座を見て、見えた星を鉛筆で塗りつぶしてください。  
 8月28日～9月6日の間でよく晴れた日に実施してください。  
 20時から22時の間で実施してください。  
 裏の地図に調査した場所（自分の家）に印を付けてください。

記入してください

調査者名前	
住 所	
学校・学年	小学校 年
一緒に調査した人	
調査した日時	月 日 ( ) 時 分～ 時 分
雲の様子	・無かった ・少しあった ・半分くらいあった ・半分以上あった

2013年夏の調査用紙

# オリオン座



### 「2013年度星空の環境調査<冬>について」

星の美しい茅野市の夜空は何等星までの星が見えるかを調査するものです。遠くへ出かけていくのではなく、自宅か自宅付近で調査してください。

- ★ 調査用紙、鉛筆、懐中電灯を用意してください。
- ★ 自宅か自宅付近で、街灯など明かりの目に入らない暗い場所で調査してください。
- ★ オリオン座を見て、見えた星を鉛筆で塗りつぶしてください。
- ★ 1月24日～2月2日の間でよく晴れた日に実施してください。
- ★ 20時から22時の間で実施してください。
- ★ 裏の地図に調査した場所（自分の家）に印を付けてください。

記入してください

調査者名前	
住 所	
学校・学年	小学校 年
一緒に調査した人	
調査した日時	月 日 ( ) 時 分～ 時 分
雲の様子	・無かった ・少しあった ・半分くらいあった ・半分以上あった

皆さんに調査していただいた結果は、貴重な資料として茅野市ハケ岳総合博物館で永く保管されます。そして茅野市民の財産である素晴らしい星空を保全するために役立てられます。

茅野市ハケ岳総合博物館  
 〒391-0213 茅野市豊平6983  
 Tel. 0266-73-0300

2014年冬の調査用紙

2013年夏

茅野市星空環境マップ

⑥ 6等星まで見える

⑤ 5等星まで見える

④ 4等星まで見える



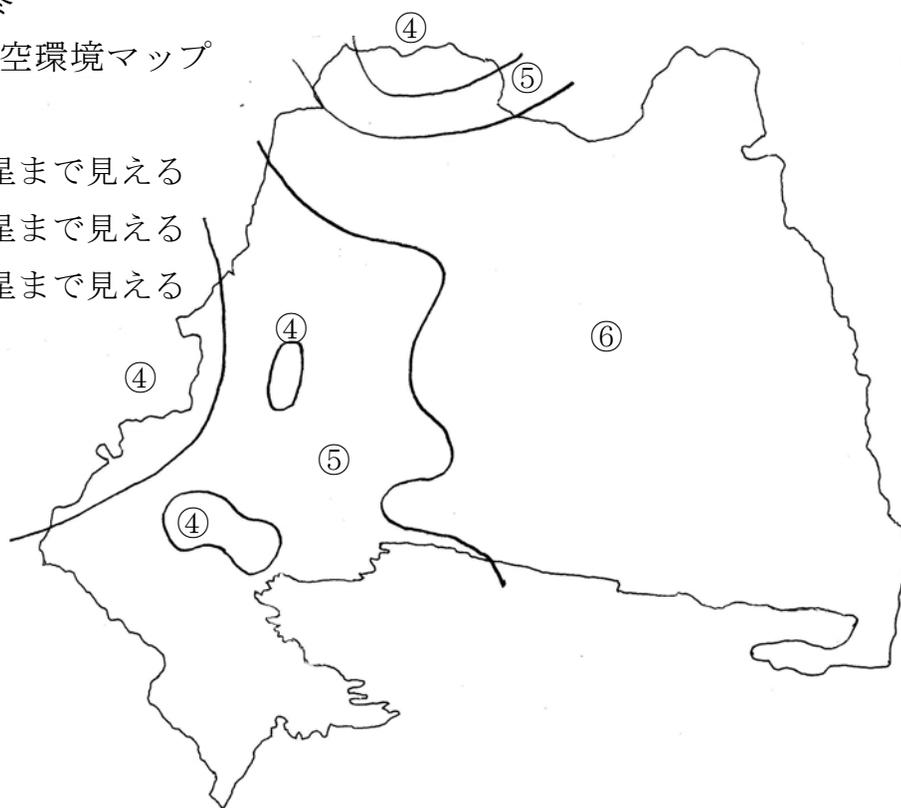
2014年冬

茅野市星空環境マップ

⑥ 6等星まで見える

⑤ 5等星まで見える

④ 4等星まで見える



# 八ヶ岳で知る菌類の世界 ―きのこ・カビ・酵母を楽しむ― 展示目録

大谷勝巳\*\*

開催期間 平成 25 年 7 月 20 日から 10 月 6 日

ロビー展示				
		八ヶ岳で知る「菌類の世界 ―きのこ・カビ・酵母を楽しむ―」	ビデオソフト	当館蔵
		タマゴタケ	ウレタン製キノコの拡大模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		ホンシメジ	ウレタン製キノコの拡大模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		マントカラカサタケ	ウレタン製キノコの拡大模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		ヤグラタケ	ウレタン製キノコの拡大模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		オニフスベ	ウレタン製キノコの拡大模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		ツチグリ	ウレタン製キノコの拡大模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		イタチタケのなかま	孢子モビール	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		オニイグチ	孢子モビール	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		アシナガトマタタケ	孢子モビール	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		水の中のカビ	孢子モビール	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		水の中のカビ	孢子モビール	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
あいさつ		展示グラフィック	B2 版 1 枚	
菌類の世界		展示グラフィック	B2 版 4 枚	
松茸と梅茸：マツタケ				
		展示グラフィック	B2 版 4 枚	
		マツタケがはえる山	シロ部分断面 ジオラマ	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		マツタケがはえる山	ジオラマ	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
八ヶ岳のキノコ		展示グラフィック	A2 版 12 枚 A 3 判 2 枚	

\*\* 八ヶ岳総合博物館係長・学芸員

		アカマツ・コナラ・ミズナラ林に発生するキノコ		
		アミタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ミドリニガイグチ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ツチカブリ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		アイタケ	複製模型	国立科学博物館 蔵
		ショウゲンジ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		アカヤマドリ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		カラマツ林に発生するキノコ		
		コガネヌメリガサ	凍結乾燥標本	当館蔵
		アミハナイグチ	凍結乾燥標本	当館蔵
		アミハナイグチ	小林路子さん彩色 複製	国立科学博物館 蔵
		ウツロベニハナイグチ	凍結乾燥標本	当館蔵
		シロヌメリイグチ	凍結乾燥標本	当館蔵
		キノボリイグチ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ハナイグチ	複製模型	国立科学博物館 蔵
		ハナイグチ	小林路子さん彩色 複製	国立科学博物館 蔵
		ウラジロモミ林、トウヒ林に発生するキノコ		
		キチチタケ	複製	国立科学博物館 蔵
		コメツガ・シラビソ・オオシラビソ・カンバ林に発生するキノコ		
		サクラシメジモドキ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		フキサクラシメジ	凍結乾燥標本	当館蔵
		アイシメジ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ドクツルタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		アカヌマベニタケ	乾燥標本	小山明人 蔵
		ケロウジ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ササクレフウセンタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		カラハツタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		キハツダケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		タマゴタケ		
		展示グラフィック	B2版 1枚	
		タマゴタケの生育過程	ジオラマ	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		樹木や落ち葉を分解する		
		葉の分解の様子	標本	国立科学博物館 蔵
		樹木を分解する		
		ツノシメジ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ナラタケ	凍結乾燥標本	当館蔵

		マツオウジ (つばなし)	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		マツオウジ (つばあり)	乾燥標本	小山明人 蔵
		ムキタケ	複製模型	国立科学博物館 蔵
		ヌメリスギタケモドキ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		ヌメリスギタケモドキ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ハナガサタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ニガクリタケ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		ハナビラタケ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		クリタケモドキ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		マスタケ	乾燥標本	小山明人 蔵
		カンバタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ツガノマンネンタケ	乾燥標本	小山明人 蔵
		落ち葉を分解する		
		ホテイシメジ	凍結乾燥標本	当館蔵
		ハタケシメジ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		オシロイシメジ	乾燥標本	小山明人 蔵
		ニカワジョウゴタケ	複製模型	国立科学博物館 蔵
		サケツバタケ	凍結乾燥標本	当館蔵
		サケツバタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		カラカサタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		カラカサタケ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		ザラエノハラタケ	乾燥標本	小山明人 蔵
		チャナメツムタケ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		チャナメツムタケ	凍結乾燥標本	当館蔵
		チャナメツムタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		シャグマアミガサタケ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		トビイロノボリリュウタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		褐色腐朽と白色腐朽		
		白色腐朽材	標本	国立科学博物館 蔵
		褐色腐朽材	標本	国立科学博物館 蔵
		長野県版レッドデータブック 2005		
		ツガマイタケ	乾燥標本	小山明人 蔵
		ヒメベニテングタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ヤマドリタケ	複製	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		キイロスッポンタケ	乾燥標本	小山明人 蔵
		キシウゲンジ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵

	ちょっと面白いキノコたち			
		アカネアミアシイグチ	乾燥標本	小山明人 蔵
冬虫夏草				
		展示グラフィック	B2版 1枚	
		コブガタアリタケ	標本	小山明人 蔵
		セミノハリセンボン	標本	国立科学博物館 蔵
担子菌と子囊菌				
		チャワンタケ属の子囊孢子	佐藤浩さん制作 模型	国立科学博物館 蔵
		子囊と側枝	佐藤浩さん制作 模型	国立科学博物館 蔵
		ホコリタケ属の担子孢子	佐藤浩さん制作 模型	国立科学博物館 蔵
		ベニタケ属の担子孢子	佐藤浩さん制作 模型	国立科学博物館 蔵
		イグチ類の担子孢子	佐藤浩さん制作 模型	国立科学博物館 蔵
		キクラゲ目の担子器	佐藤浩さん制作 模型	国立科学博物館 蔵
		アセタケ属の担子器	佐藤浩さん制作 模型	国立科学博物館 蔵
		ハラタケ目に一般的な担子器	佐藤浩さん制作 模型	国立科学博物館 蔵
腐生・共生・寄生		展示グラフィック	B2版 2枚	
信州のきのこ栽培				
		展示グラフィック	B2版 4枚	
		ナメコ 生育過程	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
		ナメコ	複製 模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		クリタケ	凍結乾燥標本	国立科学博物館 蔵
ボタニカルアートの世界				
		ウコンハツ	アクリル画	鈴木佳代子 画
		スギヒラタケ	アクリル画	宇留賀美雪 画
		ヒイロチャワンタケ	アクリル画	筒井洋子 画
		シメジ	アクリル画	加藤美智代 画
		ショウゲンジ	アクリル画	深澤二美子 画
		シイタケ	アクリル画	江川秀子 画
		タマゴタケ	アクリル画	井出麗子 画
		コガネタケ	アクリル画	東條初美 画
		ケシロハツ	アクリル画	東條初美 画
		カワリハツ	アクリル画	東條初美 画
		クズヒトヨタケ	アクリル画	岩本正子 画
		マスタケ	アクリル画	岩本正子 画
		マンネンタケ	アクリル画	三澤美知子 画
		ツチグリ	アクリル画	赤尾きよ美 画
		ツチグリ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵

		コムソウ	アクリル画	小坂祐子 画
		マツタケ	アクリル画	小坂祐子 画
		マツタケ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
		ベニテングタケ	アクリル画	山田恭子 画
		クリタケ	アクリル画	山田恭子 画
		クリタケ	複製模型	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館 蔵
カビアートミュージアム		展示グラフィック	B2版 3枚	
カビ図鑑				
		展示グラフィック	B2版 6枚	
		樹液	標本	国立科学博物館 蔵
		エノキうどんこ病	標本パネル	国立科学博物館 蔵
		コナラうどんこ病	標本パネル	国立科学博物館 蔵
		キリうどんこ病	標本パネル	国立科学博物館 蔵
		ヤマモミジうどんこ病	標本パネル	国立科学博物館 蔵
		サクラてんぐ巣病	標本パネル	国立科学博物館 蔵
		キツネノボタンの黒穂病	標本パネル	国立科学博物館 蔵
		イヌタデの黒穂病	標本パネル	国立科学博物館 蔵
		フキサビ病	標本パネル	国立科学博物館 蔵
菌類と私たちの生活				
		展示グラフィック	B2版 5枚	
		マコモダケ	標本	国立科学博物館 蔵
		カマンベールチーズ	標本	国立科学博物館 蔵
		プラバスタチン	分子模型	国立科学博物館 蔵
		トウモロコシ黒穂病(メキシカントリュフといい、メキシコでは食用とする。)	標本	国立科学博物館 蔵
		いもち病にかかった稲	標本	国立科学博物館 蔵
		稲こうじ(イネにできた黒い玉は、菌の胞子が集まったもの。)	標本	国立科学博物館 蔵
		正常な小麦	標本	国立科学博物館 蔵
		アカカビ病にかかった小麦	標本	国立科学博物館 蔵
協会酵母7号の発見と山田正一				
		展示グラフィック	B2版 1枚	
		「酒蔵と銘酒の巡礼」山田正一著 四季社発行 1956	図書	個人蔵
		「吟醸酒の来た道：至高の味わいを生んだ究極の技」篠田次郎著 実業之日本社 1995	図書	個人蔵

		「山田正一先生 追悼記念文集」秋山裕一編集 山田正一先生 追悼記念文集 刊行委員発行	図書	宮坂醸造株式会社 蔵
		酒造米	山田錦 (玄米 60%精米)	宮坂醸造株式会社 提供
		酒造米	美山錦 (玄米 45%精米)	宮坂醸造株式会社 提供
		清酒パック		個人像
川村清一と信州				
		展示グラフィック	B2版 1枚	
		「植物学雑誌」22巻262号 明治41年11月20日発行 1908	雑誌	信州大学附属図書館 繊維学部 図書館 蔵
		原色版日本菌類図説 川村清一著 大地書店発行 1929	図書	小山明人 蔵
		「植物と人生テキスト」社団法人日本放送協会関東支部 中山龍次発行 1933	図書	個人蔵
		「原色日本菌類図鑑」川村清一著 風間書房発行 1954	図書	小山明人 蔵
信州の発酵食品と菌類				
		展示グラフィック	B2版 5枚	
	信州味噌			
		味噌樽	1個	当館蔵
		權棒	1個	当館蔵
		雪ぐつ	2足	当館蔵
		味噌	3種	山高味噌株式会社 提供
		味噌	3種	有限会社 丸井伊藤商店 提供
		塩麴	1瓶	有限会社 丸井伊藤商店 提供
		醤油麴	1瓶	有限会社 丸井伊藤商店 提供
	醤油			
		醤油すまし	1個	当館蔵
		醤油しぼり機	1個	当館蔵
		醤油	5種	JA 信州諏訪 提供
	清酒			
		酒樽	1個	諏訪大津屋本家酒造株式会社 蔵
		麴蓋 (こうじぶた)	3枚	諏訪大津屋本家酒造株式会社 蔵
		酒瓶	一升瓶 12本 木組みのケース入り	諏訪大津屋本家酒造株式会社 蔵
		ビール	模造	国立科学博物館 蔵
	野生酵母とカレントウ			
		カレントウ	3種	米持製菓株式会社 提供
菌類を調べる・集める				
		展示グラフィック	B2版 4枚	
		「菌類研究について聞く」	ビデオソフト	当館蔵

	「日本きのこ図版」日本きのこ同好会 著 日本きのこ同好会出版 1978	図書	小山明人 蔵
	「菌類図鑑 上」宇田川俊一〔ほか〕著 講談社 1978	図書	当館蔵
	「菌類図鑑 下」宇田川俊一〔ほか〕著 講談社 1978	図書	当館蔵
	「長野県のきのこ」上小食品衛生協会 1986	図書	当館蔵
	「信州きのこ百科」信州きのこ研究会 解説、田中豊雄写真、信濃毎日新聞社 発行 1987	図書	当館蔵
	「きのこの利用」川合正允著、築地書 館出版 1988 (きのこの生物学シリー ズ; 1)	図書	当館蔵
	「きのこの実験法：培養を主として」衣 川堅二郎著 築地書館出版 1988 (きの この生物学シリーズ; 2)	図書	当館蔵
	「きのこの遺伝と育種」衣川堅二郎著 築地書館発行 1990 (きのこの生物学 シリーズ; 3)	図書	当館蔵
	「きのこの一生」堀越孝雄、鈴木彰著、 築地書館出版 1990 (きのこの生物学 シリーズ; 4)	図書	当館蔵
	「きのここと木材」高橋旨象著、築地書 館出版 1989 (きのこの生物学シリー ズ; 6)	図書	当館蔵
	「きのここと動物：ひとつの地下生物学」 相良直彦著、築地書館発行 1989 (き のこの生物学シリーズ; 8)	図書	当館蔵
	「日本のきのこ」関六也／〔ほか〕編・ 解説、伊沢正名／〔ほか〕写真 山と溪 谷社出版 1990	図書	当館蔵
	「信州のキノコ」小山昇平解説、小沢 良行写真、信濃毎日新聞社出版 1994	図書	当館蔵
	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野 生生物：レッドデータブック 9：植物 2(維管束植物以外)」環境庁自然保護 局野生生物課・環境省自然環境局野生 生物課編、自然環境研究センター出版 2000	図書	当館蔵
	「菌類の森」佐橋憲生著 東海大学出版 会発行 2004 (日本の森林 / 多様性の 生物学シリーズ)	図書	個人蔵

		「長野県版レッドデータブック：長野県の絶滅のおそれのある野生生物 非維管束植物編・植物群落編」長野県環境保全研究所・長野県生活環境部環境自然保護課編 長野県環境保全研究所発行 2005	図書	当館蔵
		「菌類のふしぎ：形とはたらきの驚異の多様性」国立科学博物館編 東海大学出版会発行 2008	図書	個人蔵
		「カビ図鑑：野外で探す微生物の不思議」細矢剛、出川洋介、勝本謙著，伊沢正名 写真 全国農村教育協会出版 2010	図書	当館蔵
		「菌類の世界：きのこ・カビ・酵母の多様な生き方」細矢剛著 誠文堂新光社発行 2011	図書	個人蔵
		「きのこの不思議：きのこの生態・進化・生きる環境」保坂健太郎著 誠文堂新光社発行 2012 (子供の科学★サイエンスブックス)	図書	個人蔵
		「おさんぼきのこ」石塚倉壽著 信濃毎日新聞社発行 2012	図書	個人蔵
おわりに		展示グラフィック	B2版 1枚	
その他				
		スライドショー	フォトフレーム2台による	
		八ヶ岳で知る 菌類の世界 スマートフォン版		



展示風景

# 宮坂家文書について

柳川 英司\*\*\*

## 1 寄贈の経過

平成 25(2013)年 6 月 23 日に、宮坂典男氏から当館へ、古文書の寄贈申請があった。

これを受けて、7 月 4 日～8 日に当館にて断続的に整理作業を行い、仮目録を作成し、受領書を宮坂氏に送付した。

## 2 宮坂家について

宮坂家は茅野市豊平南大塩にあり、文書の内容から名主を勤め、文化 10(1813)年頃から、文書に「宮坂」と表記する家である。

宮坂家の当主は、吉五郎一市三郎（光重）一吉五郎一吉三郎（三代目）一吉弥一吉久となるだろうか。

## 3 寄贈された古文書の構成

寄贈された点数は、古文書 330 点・教科書 13 点・木箱 1 点・財布 1 点の合計 345 点である。

### (1) 年代別の構成

年代別の構成についてみると表 1 の通りである。

江戸時代と考えられる文書が 311 件 375 点、明治以降が 13 点である。

最古の古文書は、元禄 10(1697)年 4 月 6 日付の検地目録である。江戸時代を通じて、すべての年代で文書があるわけではなく、断続的である。元禄以降、比較的継続的に文書が現れるのは安永 7 (1778)年以降のことであるが、1 点しかない年が多い。文書点数が多いのは、寛政 10 年 (1798)・12 年・文化 12(1815)・14・天保 2(1832)・3・4・5・6 年・安政 3(1856)年・4 年である。

当主の名を、年代別の構成に当てはめてみると、文書が多い年は、名主などの村役人を勤めている年に合致している。

### (2) 内容別の構成

・江戸時代 内容が判明して分類できるのは、表 2 の通りである。

最も多いのは、貢租関係の 151 点で、全体の 49% を占める。村政・戸口が次いで 50 点で 16%、その次は土地（検地）が 22 点で 7% である。基本的には村関係の古文書がほとんどである。

・明治時代以降 明治時代以降の古文書のほとんどは個人の冠婚葬祭に関わるものである。1 点、明治 35(1902)年の御柱に関する文書がある。明治時代以降は、公的な文書がなくなる。

・教科書は、明治 38 年から大正 10 年までのものである。教科は色々であり、系統だって遺されたものではないと考えられる。年代幅から考えて、数人の児童に関わる教科書だろう。

・古文書・教科書の他に、財布と箱がある。箱は木箱であり、「宮坂氏 宮坂吉三郎」と墨書がある。近代になって文書の整理を行ったことがわかる。

---

\*\*\* 八ヶ岳総合博物館・神長官守矢史料館 主査・学芸員

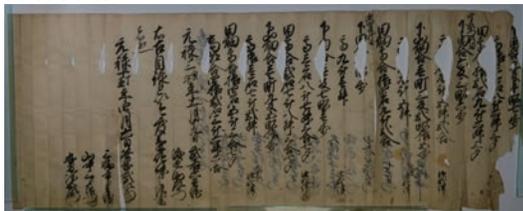
#### 4 宮坂家文書について

23・125・128・315には、「信濃教育会諏訪部会」のカードが貼り付けられている。このことから、以前から知られていた史料であることが分かる。「信濃教育会諏訪部会」は、郡史『諏訪史』の編纂のためである。

文書の年代は非常に断続的ではあるが、検地や年貢関係の史料が多く、南大塩村の基本的な史料が揃っている。



宮坂家文書



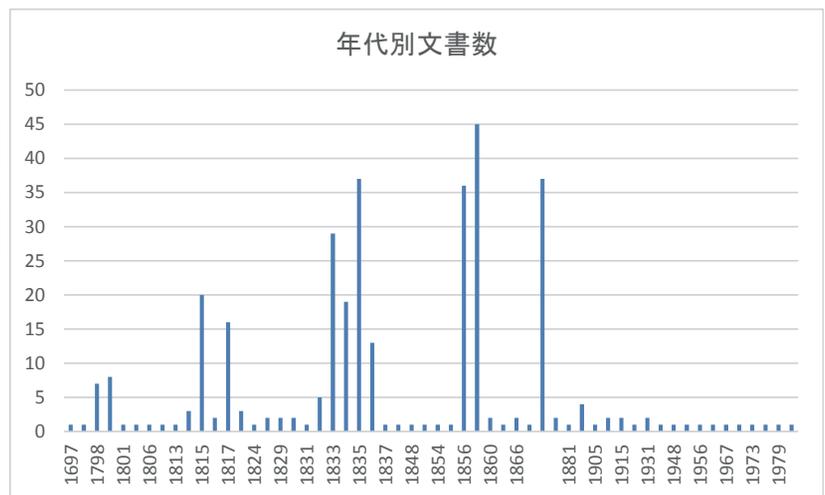
文書番号1 元禄10年(1697)4月6日  
検地目録



文書番号3 寛政10年(1798)2月15日  
「宗門御改并人別帳」

年号	西暦	文書数量	名主	年寄	百姓惣代	宮坂家
元禄10	1697	1				
安永7	1778	1				
寛政10	1798	7	吉五郎			
寛政12	1800	8	吉五郎			
享和元	1801	1				
文化2	1805	1	平右衛門・染右衛門	圓之介・孫左衛門	長次郎 嘉兵衛	
文化3	1806	1				
文化5	1808	1				
文化10	1813	1				
文化11	1814	3				
文化12	1815	20	平右衛門・吉五郎	初三郎・政右衛門	長次・善右衛門	
文化13	1816	2	吉五郎			
文化14	1817	16	吉五郎			
文政元	1818	3	吉五郎			
文政7	1824	1				
文政10	1827	2				
文政12	1829	2	三之丞・左右衛門	久左衛門・伊之助	(役人) 吉五郎	
文政13	1830	2	九郎右衛門			
文政14	1831	1				
天保2	1832	5	九郎右衛門			
天保3	1833	29	九郎右衛門・市三郎	三郎兵衛・吉左衛門		
天保4	1834	19	九郎右衛門・市三郎	平兵衛・吉左衛門		
天保5	1835	37	市三郎・九郎右衛門	吉左衛門・平兵衛	(百姓代) 友右衛門	
天保6	1836	13	市三郎			宮坂氏市三郎
天保7	1837	1				
天保11	1840	1				
弘化5	1848	1				宮坂姓光重
嘉永3	1850	1				宮坂光重
(安政年間)	1854	1				
安政2	1855	1				
安政3	1856	36	吉五郎			宮坂吉弥
安政4	1857	45	吉五郎			
安政7・万延元	1860	2				宮坂吉五郎
元治元	1864	1				宮坂市三郎光重
慶応2	1866	2				宮坂市三郎光重
慶応3	1867	1				
江戸時代(年号未詳)		37				
明治3	1870	2				宮坂吉五郎・宮坂吉三郎
明治14	1881	1				宮坂吉三郎
明治35	1902	4				
明治38	1905	1				
大正12	1912	2				
大正15	1915	2				
昭和14	1929	1				
昭和16	1931	2				
昭和21	1946	1				
昭和23	1948	1				
昭和28	1953	1				宮坂吉弥
昭和31	1956	1				
昭和41	1966	1				
昭和42	1967	1				
昭和43	1968	1				
昭和48	1973	1				
昭和49	1974	1				
昭和54	1979	1				宮坂吉久
昭和59	1984	1				

年代別文書数



# 宮坂家文書目録

## 1 古文書

### (1) 江戸時代

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
1	209	[検地目録]	元禄十丁丑年四月六日	1697	4	6	徳田武左衛門三輪重兵衛 山中三郎右衛門安間弥五左衛門			縦紙	1	裏書あり。
2	131	諸入用拂帳	安永七戌戌年七月四日	1778	7	4	式拾壹ヶケ村惣代 作兵衛 平作 嘉兵衛			横帳	1	
3	1	浄土宗 宗門御改井人別帳	寛政十戌午年二月十五日	1798	2	15	南大塩村			横帳	1	
4	101	①丁巳分序割帳 ②丁巳分歩割帳	①寛政十戌午年二月 ②寛政十戌午年二月日	1798	2	2	①名主 吉五郎 ②南大塩村名主 吉五郎			横帳	1	横帳2冊の綴。
5	162	丁巳分御成ヶ土貢帳 出作	寛政十戌午年二月日	1798	2	2	南大塩村 名主 吉五郎			縦紙	1	
6	169	丁巳分御成ヶ土貢帳 上	寛政十戌午年二月日	1798	2	2	南大塩村 名主 吉五郎			縦紙	1	
7	161	丁巳分御成ヶ土貢帳 下	寛政十戌午年二月日	1798	2	2	南大塩村 名主 吉五郎			縦紙	1	
8	167	丁巳分御成ヶ御勘定帳	寛政十戌午年三月日	1798	3	3	南大塩村 名主 吉五郎			縦紙	1	
9	196	田畑名寄覧	寛政十戌午年十月十四日	1798	10	14	小平吉五郎			小横帳	1	
10	211	賣渡し申田地手形之事	寛政十戌午年十二月日	1798	12	12	須栗平新田賣主 平八	南大塩村 吉五郎殿		縦紙	1	裏書あり。
11	2	宗門御改井人別帳	寛政十二庚申年二月十五日	1800	2	15	南大塩村			横帳	1	
12	99	己未分序割帳	寛政十二庚申年二月日	1800	2	2	南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
13	165	己未分御成ヶ土貢帳 出作	寛政十二庚申年二月日	1800	2	2	南大塩村 名主 吉五郎			縦紙	1	
14	166	己未分御成ヶ土貢帳 下	寛政十二庚申年二月日	1800	2	2	南大塩村 名主 吉五郎			縦紙	1	
15	168	己未分御成ヶ土貢帳 上	寛政十二庚申年二月日	1800	2	2	南大塩村 名主 吉五郎			縦紙	1	
16	126	己未分歩割帳	寛政十二庚申年二月日	1800	2	2	南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
17	163	己未分御勘定帳	寛政十二庚申年三月	1800	3	3	南大塩村 名主 吉五郎			縦紙	1	
18	100	己未分小形請并余米序拂帳	寛政十二庚申年四月	1800	4	4	南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
19	189	居宅普請諸〔 〕	享和元辛酉年五月より	1801	5	5				小横帳	1	表紙破損。
20	176	御高御改付書上帳	文化二乙丑年七月	1805	7	7	南大塩村百姓惣代 長次郎 同断 嘉兵衛 年寄 圓 之助 同断 孫左衛門 名 主 平右衛門 同断 染右 衛門			縦紙	1	
21	125	御頭村江申渡写	文化三丙寅年正月日	1806	1	1	南大塩村			横帳	1	信濃教育会諏訪部会の調査時の資料カードが付されている。
22	224	一札	文化五戊辰年三月	1808	3	3	久久左衛門 松吉右衛門 小涉 口傳兵衛	南大塩村 吉五郎	江戸屋敷類焼のたぬ御賄不足ニ付借書	縦紙	1	裏書あり。
23	210	賣渡し申畑手形之事	文化五戊辰年四月四日	1808	4	4	本人 友右衛門 受人 伊右衛門	同断 留之亟殿		縦紙	1	裏書あり。

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
24	116	①諸事當座出入萬覺帳 ②諸事出入覺帳 ③丙子分 御尊判通答書写	①文化十癸酉年正月 ②文化十三丙子年二月 ③文化十三丙子年十二月 廿日	1813	1	①吉五郎 ③南大塩村 吉五郎				横帳・ 小横帳	1	横帳と小横帳 の綴。
25	205	御尊判通答書写	文化十一年甲戌正月廿四日	1814	1	御射山神戸村 喜左衛門 同所 林右衛門 同所 模右衛門 同所			御射山神戸村等に 関連する山論の書 留	縦帳	1	
26	221	一札	文化十一年甲戌年三月	1814	3	南大塩村 本人 吉五郎 同所 久右衛門 同所 一類 初三郎 四兵衛 同所	金分之進様 柳善左 衛門様		金子借用証文	縦紙継 紙	1	裏書あり。
27	241	乍恐以書付御訴訟奉申上候	文化十一年甲戌年正月十七日 謹写之	1814		野田松三郎 御代官所 甲州巨 摩田上 教来石村 惣代 長 市郎 右衛門 同 訴訟人 同 兵左衛門 同 百姓 代 六郎 右衛門	御奉行様		惣名 釜無山 入会出 入付 訴状	縦紙継 紙	1	者中などの裏 書きあり。
28	123	甲府 歟沢 木間 底板 南大 表様 拾組 附 拂宛帳 南大 塩村	文化十二乙亥年正月	1815	1	名主 吉五郎				横帳	1	
29	114	甲戌分歩割仕立下帳	文化十二乙亥年正月	1815	1	名主 平右衛門				横帳	1	
30	20	宗門御改并人別帳	文化十二乙亥年二月十五日	1815	2	南大塩村				横帳	1	
31	79	①〔諸役書留〕 ②御役儀元請覺帳	文化十二乙亥年二月廿日	1815	2	南大塩村 名主 吉五郎				横帳	1	
32	115	①甲戌分歩割書上帳 南大 塩村 ②甲戌分家並割書上 帳 南大塩村 ③甲戌分草 高割書上帳 南大塩村	①文化十二乙亥年二月日 ②文化十二乙亥年二月日 ③甲戌分草高割書上帳	1815	2	①②南大塩村 惣代 長次 同 善左衛門 年寄 初 三郎 平右衛門 同 衛門 名 丞 ③名主 平左衛門	①②歩割御改 御奉 行所様			横帳	1	
33	103	甲戌分歩割書上帳	文化十二乙亥年二月	1815	2	南大塩村				横帳	1	
34	113	甲戌分歩割帳 南大塩村	文化十二乙亥年二月日	1815	2	名主 平右衛門				横帳	1	
35	171	①甲戌分宮免勘定帳 ②御無尽金請取序拂帳 ③要用 ④寛	①文化十二乙亥年三月日 ②文化十三丙子年十一月 日 ③〔年未詳〕十一月 廿九日 ④文政元戊寅十二月	1815	3	①南大塩村 名主 吉五郎 ②今井水野右衛門 同 殿 渡 幸兵衛 南大塩村 吉 五郎 ④渡邊豊之助	④南大塩村 口右衛 門殿 吉五郎 殿 之口度の		③無尽 付 書簡 ④無尽 金請取証	① 縦帳 ② 小 横帳 ③ ④ 切 紙継紙	1	横帳・小横帳 の綴と、書簡 類が紐に結ば れている。
36	220	一札	文化十二乙亥三月	1815	3	南大塩村 本人 初三郎 受 吉五郎 同所 留吉 初 政右衛門 同所 長次 初 名主	金分之進様 柳善左 衛門様		金子借用証文	縦紙継 紙	1	
37	178	甲戌分内指引帳 下	文化十二乙亥年三月日	1815	3	名主 吉五郎				縦帳	1	
38	122	御用向方ニ様御出節入用帳	文化十二乙亥年三月日	1815	3	名主 吉五郎				横帳	1	
39	222	一札	文化十二乙亥年三月日	1815	3	南大塩村 本人 初三郎 請 吉五郎 同所 留吉 初 政右衛門 同所 留吉 初 名主 長次 同所 吉五郎	御貸方 御代官所様		初三郎 金子借用 付身元保証書	縦紙継 紙	1	
40	175	甲戌分御成ヶ土貢帳 出作	文化十二乙亥年三月	1815	3	南大塩村 名主 吉五郎				縦帳	1	
41	117	甲戌分米大豆米帳 南大 塩村	文化十二乙亥年四月日	1815	4	名主 吉五郎				横帳	1	

文書番号	整理番号	文書名	年月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
42	174	甲戌分御成ヶ土貢帳 式	文化十二乙亥年四月日	1815	4		南大塩村 名主 吉五郎			縦帳	1	
43	118	瀧之湯川頭廣割元帳 南大塩村 塩之目村	文化十二乙亥年六月	1815	6		十八ヶ村惣代			横帳	1	
44	232	乍恐奉願上口上書之事	文化十二乙亥年六月日	1815	6		南大塩村 願人 武右衛門 一類惣代下諏方 又左衛門 栗沢村 年寄 名主	御郡 御奉行所様	心光寺和尚無心二付訴状	縦紙継紙	1	
45	111	①廻文 南大塩村地方七ヶ村 ②高尾戸下横汐女人行例 ③付村々御届帳 ④高尾戸汐端女人御死物入用帳 ⑤地分七ヶ村	①亥七月九日 ②〔年月日未詳〕 ③〔年未詳〕七月十二日 ④文化十二乙亥年六月廿九日	1815	7		③塩之目村 伊兵衛 ④南大塩村	①右村々御役人中 御世話役 中 ③吉五郎様		横帳	1	横帳2冊の綴。
46	68	乙亥分書口諸事覚帳	文化十二乙亥年十二月日	1815	12		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
47	179	甲戌分御成ヶ土貢帳 巻	文化十二乙亥年	1815			南大塩村 名主 吉五郎			縦帳	1	
48	102	①甲戌分御年貢未進書出集共書 ②③覚 ④御未進余米書出覚帳	①文化十三丙酉年正月日 ②③〔年月日未詳〕 ④文化十四丁丑年五月日	1816	1		①名主 吉五郎 ②③〔不明〕 ④名主 吉五郎			横帳	1	横帳2冊の綴。
50	120	①御貸方金覚 ②甲戌分未進口書出帳 ③甲戌分御年貢未進余米書出帳 ④歟澤元米立帳 ⑤甲戌分御年貢未進余米書出帳 ⑥甲戌分御年貢金請取覚帳	①文化十三乙亥年十二月三日 ②文化十二乙亥年三月十六日 ③文化十四丁丑年四月九日 ④文化十二乙亥年四月九日 ⑤文化十三乙亥年三月十一日 ⑥文化十三乙亥年三月十一日	1816	12		②③⑤⑥名主 吉五郎			横帳・小横帳	1	横帳と小横帳の綴。
49	109	甲戌分小形請并余米序拂帳	文化十三乙亥年四月	1816	4					横帳	1	
50	120	①御貸方金覚 ②甲戌分未進口書出帳 ③甲戌分御年貢未進余米書出帳 ④歟澤元米立帳 ⑤甲戌分御年貢未進余米書出帳 ⑥甲戌分御年貢金請取覚帳	①文化十三乙亥年十二月三日 ②文化十二乙亥年三月十六日 ③文化十四丁丑年四月九日 ④文化十二乙亥年三月十一日 ⑤文化十三乙亥年三月十一日 ⑥文化十三乙亥年三月十一日	1816	12		②③⑤⑥名主 吉五郎			横帳・小横帳	1	横帳と小横帳の綴。
51	124	丙子分御役儀ひ路い帳	文化十四丁丑年正月	1817	1		名主 吉五郎			横帳	1	
52	105	御廻状之外小役儀帳	文化十四丁丑年正月吉日	1817	1		名主 吉五郎			横帳	1	
53	22	浄土宗 宗門御改并人別帳	文化十四丁丑年二月十五日	1817	2	15	南大塩村			横帳	1	表紙の前に「上南大塩村」の1枚あり。
54	18	御用ニ付御家中様御書諸事覚帳	文化十四丁丑年二月日	1817	2		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
55	121	丙子分序廻ニ米帳	文化十四丁丑年二月日	1817	2		名主 吉五郎			横帳	1	
56	197	御杖持方帳	文化十四丁丑年三月廿三日	1817	3	23	名主 吉五郎			小横帳	1	
57	172	丙子分内差引帳 巻	文化十四丁丑年三月日	1817	3		名主 吉五郎			縦帳	1	
58	173	丙子分御成ヶ土貢帳 出作	文化十四丁丑年三月日	1817	3		南大塩村 名主 吉五郎			縦帳	1	
59	180	丙子分御成箇勘定帳	文化十四丁丑年三月日	1817	3		南大塩村 名主 吉五郎			縦帳	1	
60	177	丙子分御成箇土貢帳 貳	文化十四丁丑年三月	1817	3		南大塩村 名主 吉五郎			縦帳	1	

文書番号	整理番号	文書名	年月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
61	181	丙子分御成箇上貢帳 一	文化十四丁丑年三月	1817	3		南大塩村 名主 吉五郎			縦帳	1	
62	106	丙子分 小手形請并米序拂帳	文化十四丁丑年四月日	1817	4		名主 吉五郎			横帳	1	
63	119	丙子分米大豆米帳 南大塩村	文化十四丁丑年四月日	1817	4		名主 吉五郎			横帳	1	
64	112	①御鷹野入用覚帳 南大塩村 ②覚 ③御鷹野御入用一付 ④〔郡方様御出之節入用〕 ⑤〔入用覚〕	①文化十四丁丑年七月十三日 ②~④〔年月日未詳〕	1817	7	13	名主 吉五郎			横帳	1	横帳2冊の綴。
65	108	①麻綿上納金割元帳 ②追鳥割 ③笠寺入院入割	①文化十四丁丑年八月日 ②③〔年月日未詳〕	1817	8		①南大塩村 次良吉			横帳	1	横帳2冊の綴。
66	110	丁丑分書拂覚帳	文化十四丁丑年十二月日	1817	12		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
67	50	諸事出越金錢覚帳 組宛帳	文政元戊寅年九月日	1818	9		名主 吉五郎			横帳	1	
68	132	日光御口會川凌金割帳	文政元戊寅年十月廿六日	1818	10	26	南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
69	104	緞沢 甲府 木間奎方 丁元米立覚帳	文化十五戊寅年	1818						横帳	1	
70	203	〔文政八癸巳曆〕	〔文政七年〕	1824			伊勢度會郡山田 箕曲主膳			折本	1	版本
71	207	賣渡甲田地手形之事	文政十丁亥年三月日	1827	3		堀新田賣主 市之丞 同断 受人 佐平 芹ヶ沢村右 同断 林之丞 須栗平新田同断	林口之進様		縦紙継紙	1	裏書あり。
72	136	堀新田市之丞出奉一類償金割帳	文政十丁亥年八月日	1827	8					横帳	1	
73	208	賣渡申無尽證文之事	文政十丁亥年十一月廿三日	1827	11	23	南大塩村 本人 清右衛門 役人 長治	小平口右衛門殿無尽 御連衆中		縦紙	1	裏書あり。
74	234	乍恐奉願上口上書之御事	文政十二己丑年七月日	1829	7		南大塩村役人 吉五郎 年寄 久左衛門 同断 伊之助 名主 三之丞 同断 李右衛門	御勝手方 御奉行所様	上屋敷類焼の借用 金免除願	縦紙継紙	1	
75	225	一札	文政十二己丑年十二月	1829	12		在江戸 中瀬右衛門 上又左衛門 吉平太夫 岩忠右衛門 鶴六右衛門 在江戸 工三助	南大塩村 吉五郎	江戸屋敷類焼のため 普請につき、眞加金受取書。	縦紙	1	裏書あり。
76	133	御宗門入用割元帳	文政十三庚寅年三月日	1830	3		南大塩村			横帳	1	
77	135	大検見引目録并御給所帳	文政十三年九月	1830	9		南大塩村 名主 九郎右衛門			横帳	1	
78		〔天保年間 山論外書上帳〕	〔天保年間〕	1830						横帳	1	信濃教育会諏訪部会の調査時の資料カードが付されている。表題はこれによる。
79	146	本検・新開・起熨り・切次 戌寅分這検地目録写	天保二辛卯年正月	1831	1		南大塩村			縦帳	1	
80	134	丙子分歩割掛帳	文政十四年正月日	1831	1		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
81	151	庚寅分宮免指引帳	天保二辛卯年三月日	1831	3		名主 九郎右衛門			縦帳	1	
82	51	改方役所 村町申付書写帳	天保二庚寅年十二月	1831	12		南大塩村			横帳	1	
83	85	御役儀ひろい出帳	天保二辛卯年十二月日	1831	12		南大塩村			横帳	1	
84	74	天龍歩米割掛帳	天保三壬辰年正月日	1832	1		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	

文書番号	整理番号	文書名	年月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
85	62	御廻状書留帳	天保三壬辰年正月日	1832	1	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
86	27	諸帳面引譲り帳	天保三壬辰年正月日	1832	1	南大塩村 政右衛門				横帳	1	
87	46	御借用品帳	天保三壬辰年二月日	1832	2	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
88	223	宗門請状	天保三年辰二月	1832	2	大門村 常福寺	南大塩村 心光寺 寺丈	大門村庄左衛門 娘、南大塩村丈右 衛門と縁談二付		縦紙	1	
89	52	被仰付井村定名面印形帳	天保三壬辰年三月三日	1832	3	南大塩村				横帳	1	
90	45	米大豆米帳	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
91	67	辛卯分御年貢御未准帳	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
92	75	辛卯分御口金割元帳	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
93	81	辛卯分御高口金割元帳	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
94	149	辛卯分内差引帳 下組	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村 名主 市三郎				縦帳	1	
95	152	辛卯分御勘定帳	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村 名主 市三郎				縦帳	1	
96	156	辛卯分御成ヶ土貢帳 壹	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村 名主 市三郎				縦帳	1	
97	186	辛卯分御成ヶ土貢帳 出作	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村 名主 市三郎				縦帳	1	
98	40	御宗門入用割帳	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村 年寄 三郎兵衛 同断 吉左衛門 名主 市三郎 同断 九郎右衛門	御改方 御奉行所様			横帳	1	
99	76	宗門入用割帳	天保三壬辰年三月日	1832	3	南大塩村				横帳	1	
100	80	御廻状書留帳	天保三壬辰年四月五日ヨ リ	1832	4	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
101	57	山論三付足役日履定帳	天保三壬辰年六月八日	1832	6	南大塩村 地中				横帳	1	
102	84	麻綿上納金割元帳	天保三壬辰年八月日	1832	8	南大塩村				横帳	1	
103	47	當辰秋不作書上帳	天保三壬辰年九月日	1832	9	南大塩村 年寄 三郎兵衛 同断 吉左衛門 名主 九郎右衛門 同断 市三郎	御郡 御奉行所様			横帳	1	
104	77	當辰秋不作名面帳	天保三年九月日	1832	9	南大塩村 年寄 三郎兵衛 同断 吉左衛門 名主 三郎 同断 市三郎				横帳	1	
105	155	抜高役儀高壬辰分米大豆御 借用帳	天保三壬辰年十一月	1832	11	南大塩村				縦帳	1	
106	39	大検見入用割書上帳	天保三壬辰年十一月日	1832	11	南大塩村 年寄 吉左衛門 同断 三郎兵衛 名主 政右衛門 同断 九郎右衛 門	御改方 御役所様			横帳	1	
107	154	辛卯分米大豆御借用帳	天保三壬辰年十一月日	1832	11	上 又左衛門 三 新助 小 嘉右衛門 立 傳五兵 衛 助 正左衛門 工 三 庄 兵衛 三 同助	南大塩村 百姓中			縦帳	1	
108	72	壬辰舊拂覺帳	天保三年十二月廿五日	1832	12	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
109	33	山論一件足役拾出帳	天保三壬辰年十二月日	1832	12	地本 南大塩村 地中				横帳	1	
110	55	釜無川入用割帳	天保三壬辰年十二月日	1832	12	南大塩村 年寄 三郎兵衛 同断 吉左衛門 名主 市三郎 同断 九郎右衛門	御改方 御奉行所様			横帳	1	
111	96	壬辰舊書出し帳	天保三年極月日	1832	12	村ノ平右衛門 角や 平右 衛門	御役所様			横帳	1	
112	202	天保四癸巳曆	[天保三年]	1832		伊勢度會郡山田 箕曲主膳				折本	1	版本
113	64	壬辰舊書出 <sub>レ</sub> 帳	[天保三年办]	1832		奈かや 平兵衛	御役人中様			横帳	1	

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
114	23	浄土宗 宗門御改并人別帳	天保四癸巳年二月十五日	1833	2	15	南大塩村			横帳	1	表紙の前に「上南大塩村」の1枚有。信濃教育会諏訪部の調査時の資料カードが付されている。
115	42	①辛卯分御未進取立帳 ②辛卯分御未進取立帳	①天保四癸巳年二月日 ②天保三壬辰年十一月日	1833	2		①南大塩村 名主 市三郎 南大塩村			横帳	1	横帳2冊の綴。
116	54	山論二付諸事足役帳	天保四壬辰年三月日	1833	3		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
117	139	御役儀其外歩割仮留帳	天保四己未年五月ヨリ	1833	5		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
118	65	被仰付村中米糶子當時諸持調帳	天保四癸巳年七月十七日	1833	7	17	南大塩村 役人	御郡 御奉行所様		横帳	1	
119	53	被盜取候物品書上帳	天保四癸巳年七月	1833	7		南大塩村 當人 常五郎 同断 松左衛門 重次郎 平兵衛 吉左衛門 同断 九郎右衛門	御郡 御奉行所様		横帳	1	
120	98	御廻状書留帳	天保四癸巳年九月十三日ヨリ	1833	9	13	南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
121	63	田畑名寄仕立調方記写	天保四己未年九月日	1833	9		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
122	93	大検見引目録下帳	天保四己未年九月	1833	9		南大塩村 名主 市三郎 九良右衛門 年寄 平兵衛 吉左衛門			横帳	1	
123	94	大検見引畝歩名寄帳	天保四癸巳年十月日	1833	10		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
124	78	癸巳分當引御給所割下帳	天保四年十月日	1833	10		南大塩村 年寄 平兵衛 同断 吉左衛門 九良右衛門 同断 市三郎	御代官所様		横帳	1	
125	58	極貧物名面書上帳	天保四癸巳年十一月十六日	1833	11	16	南大塩村			横帳	1	
126	73	大検見入用調元帳	天保四癸巳年十一月	1833	11		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
127	148	抜高役儀高帳	天保四癸巳年十一月	1833	11		南大塩村			縦帳	1	
128	41	大検見入用割書上帳	天保四癸巳年十一月日	1833	11		南大塩村			横帳	1	
129	145	新開御検地御野帳写	天保四癸巳年十一月日	1833	11		南大塩村 名主 市三郎			縦帳	1	
130	159	本検・新開・起埴り・切次 戊寅分込検地目録写	天保四癸巳年十一月日	1833	11		南大塩村 名主 市三郎			縦帳	1	
131	43	米穀出入書留帳	天保四癸巳年十一月日	1833	11		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
132	142	江戸御府内町人衆有徳志被施候衆名面	天保四癸巳年極月上旬	1833	12		南大塩村 宮坂氏 市三郎 書之 受人 貴法院			横帳	1	
133	212	賈渡申烟證文之事	天保五甲午年正月十二日	1834	1	12	南大塩村 本人 長四良 市三郎殿			縦紙	1	裏書あり。
134	141	諸役儀其外歩割元帳	天保五甲午歲正月日	1834	1		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
135	24	浄土宗 宗門御改并人別帳	天保五甲午年二月十五日	1834	2	15	南大塩村			横帳	1	表紙の前に「上南大塩村」の1枚有。
136	127	癸巳分役儀高無役高割家軒割掛米帳	天保五甲午歲二月日	1834	2		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
137	90	大検見入用割書上帳	天保五甲午年二月日	1834	2		南大塩村 百姓代 友右衛門 同断 三良兵衛 吉左衛門 年寄 市三郎 同断 市三郎 名主 市三郎 良右衛門	御改方 御奉行所様		横帳	1	

文書番号	整理番号	文書名	年月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
138	60	山論諸入用足役帳	天保五甲午年二月日	1834	2	南大塩村 地中				横帳	1	
139	95	癸巳分御役儀落物書上帳	天保五甲午年二月日	1834	2	南大塩村 年寄 吉左衛門 同断 平兵衛 名主 市三郎 三郎 同断 九良右衛門	御改方 御奉行所様			横帳	1	
140	56	山論一件付村中一同以相談定書名面帳	天保五甲午年三月三日	1834	3					横帳	1	
141	227	御證申一札之事	天保五甲午三月日	1834	3	須栗平新田 本人 一類	七ヶ村 御役人衆中様	山論時に相手方へ内通していないこととの申状。	縦紙	1		
142	150	癸巳分御成ヶ土貢帳 貳番	天保五甲午歳三月日	1834	3	南大塩村 名主 市三郎				縦帳	1	
143	157	癸巳分御成ヶ土貢帳 壹番	天保五甲午歳三月日	1834	3	南大塩村 名主 市三郎				縦帳	1	
144	158	癸巳分差引勘定帳	天保五甲午歳三月日	1834	3	南大塩村 名主 市三郎				縦帳	1	
145	187	癸巳分御成ヶ土貢帳 出作	天保五甲午歳三月日	1834	3	南大塩村 名主 市三郎				縦帳	1	
146	147	癸巳分御成ヶ御勘定帳	天保五甲午年三月日	1834	3	南大塩村 名主 市三郎				縦帳	1	
147	216	賈渡、申畑證文之事	天保五甲午年三月日	1834	3	南大塩村 本人 長四郎 受人 貴法院	同村 吉五郎殿		縦紙	1	裏書あり。	
148	69	御未進名面帳	天保五甲午年四月五日	1834	4	南大塩村				横帳	1	
149	88	開作夫食相渡、名面帳	天保五甲午年四月十七日	1834	4	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
150	226	年恐奉願上口上書之御事	天保五甲午年四月日	1834	4	南大塩村 百姓代 三良兵衛 同断 久右衛門 年寄 市三郎 平兵衛 同断 吉左衛門 九良右衛門	御郡 御奉行所様	御情米拝借願	縦紙 紙	1		
151	89	山論付足役拾出、帳	天保五甲午歳六月廿七日	1834	6	南大塩村 地中				横帳	1	
152	48	山論諸入用割元帳	天保五甲午歳六月廿七日	1834	6	南大塩村 地中				横帳	1	
153	38	山論付足役拾出し帳	天保五甲午年六月廿七日	1834	6	南大塩村 地中				横帳	1	
154	31	御年貢未進金名面帳	天保五甲午歳六月日	1834	6	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
155	71	麻綿上納金割元帳	天保五甲午歳八月日	1834	8	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
156	34	口穀留番入用割元帳	天保五甲午歳八月日	1834	8	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
157	86	大検見入用帳	天保五癸巳年十一月六日 ヨリ	1834	11	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
158	192	①婚礼付諸事買物帳 ②蔵建付諸職人并買物帳	①天保五甲午年十一月十九日 ②天保五甲午歳十月九日	1834	11	19 ①宮坂市 三郎 ②南大塩村 宮坂市三郎				小横帳	1	小横帳の綴。
159	87	困窮者御未進名面書上帳	天保五甲午年十一月日	1834	11	南大塩村				横帳	1	
160	36	癸巳米大豆斗庭帳	天保五年十一月日	1834	11	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
161	66	甲午暮拂覺帳	天保五年十二月廿九日	1834	12	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	
162	37	①癸巳未進米書出し帳 ②口貨物未進名面帳 ③開作夫食米金集帳	①②天保五甲午年十二月日 ③天保五甲午歳十一月日	1834	12	①南大塩村 名主 市三郎 ②南大塩村 ③南大塩村 名主 三良兵衛				横帳	1	横帳 2 冊の綴。
163	230	一札	天保五甲午年十二月	1834	12	南大塩村 年寄 善左衛門 同断 平兵衛 名主 市三郎 良兵衛 同断 市三郎	御代官所様	御成ヶ未進分延期願	縦紙 紙	1		
164	235	一札	天保五甲午年十二月日	1834	12	南大塩村 年寄 善左衛門 同断 平兵衛 名主 市三郎 良兵衛 同断 市三郎	御代官所様	御成ヶ未進免除願	縦紙 紙	1		
165	236	一札	天保五甲午年十二月日	1834	12	南大塩村 仁兵衛一類 吉他 26名	御代官所様	癸巳分未進分返済念書。	縦紙 紙	1	235の関連文書。	
166	91	山論諸入用割掛帳	天保五甲午年十二月日	1834	12	南大塩村 名主 市三郎				横帳	1	

文書番号	整理番号	文書名	年月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
167	70	甲午暮拂覚帳	天保五年極月日	1834	12		南大塩村 市三郎			横帳	1	
168	242	一札	[天保五年午年か]	1834					検地目録か	縦紙継紙	1	下部破損。235の関連文書か。
169	243	乍恐願奉口上書之御事	[天保五年午年か]	1834					新組取延書上	縦紙継紙	1	235の関連文書か。
170	160	甲午分御成ヶ〔土貢帳か〕	天保六乙未年三月口	1835	3					縦帳	1	表紙破損。
171	217	賣渡。申畑證文之事	天保六乙未年三月日	1835	3		南大塩村 本人 勝右衛門 受人 権左衛門	同村 市三郎殿		縦紙	1	裏書あり。
172	194	家建。付・御蔵建。付 和土工人足買物覚帳	天保六己未年三月	1835	3		南大塩村 宮坂氏市三郎			小横帳	1	
173	107	山論足役入用帳	天保六乙未年七月日	1835	7		南大塩村 名主 口兵衛			横帳	1	
174	30	御廻状書留帳	天保六甲午年八月廿八日	1835	8	28	南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
175	206	乍恐奉願口上書之御事	天保六乙未年八月日	1835	8		南大塩村 年寄 善左衛門 同断 平兵衛 同断 郎兵衛 同断 市三郎	御勘定御奉行所様	麻綿上納金願継ぎ二付	縦紙	1	包紙あり。
176	82	當秋不作書上帳	天保六癸巳年八月日	1835	8		南大塩村 年寄 善左衛門 同断 平兵衛 同断 市三郎			横帳	1	
177	83	癸巳分未進取立名面帳	天保六乙巳年十一月朔日	1835	11	1	南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
178	201	①乙未暮諸事差引帳 ②金銭指引覚帳	①天保六年十一月日 ②天保五年午年三月吉日	1835	11		①②南大塩村 名主 市三郎			小横帳	1	2冊合本。
179	49	宿齋麦集帳	天保六乙巳年十一月日	1835	11		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
180	97	癸巳分山論入用寄帳	天保六乙未年十二月日	1835	12		南大塩村 役所			横帳	1	
181	59	追鳥金割元帳	天保六乙巳年極月日	1835	12		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
182	61	深山尻新田分 當引御取延割元帳	天保六己未年十二月日	1835	12		南大塩村 名主 市三郎			横帳	1	
183	32	甲午分山論入用寄不足書出帳	天保七丙申年六月日	1836	6		南大塩村 市三郎			横帳	1	
184	204	天保十二癸巳曆	[天保十一年]	1840			伊勢度會郡山田 箕曲主膳			折本	1	版本
185	198	田畑名寄帳	弘化五戊申歳三月日	1848	3		南大塩村 宮坂姓光重			小横帳	1	
186	4	上伊奈郡拾四ヶ村中馬往返出入日記	嘉永三庚戌年十一月廿七日	1850	11	27	南大塩村 宮坂光重			横帳	1	
187	190	[三千石御蔵方日記か]	[安政年間]	1854			信湖 東大鹽郡 小平九右衛門 正教			小横帳	1	
188	231	乍恐奉願口上書之御事	安政二乙卯年正月日	1855	1		中馬惣代 弥平次 中道新田 口右衛門 中村 衛門	御郡 御奉行所様	口銭高騰のため、青梅街道通行願	縦紙	1	
189	277	覚	辰三月朔日	1856	3	1	田野屋 皆右衛門	南大塩村 御役人中	年貢取納世話料等勘定書か	小切紙	1	244の袋に入る。黒印「上諏方裏中町田野屋」
190	263	[手形]	辰四月十五日	1856	4	15	南大塩村 元治郎 松治郎	長崎要左衛門	二駄分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
191	248	[手形]	辰六月廿六日	1856	6	26	河西熊吉	南大塩村 七郎兵衛	一駄分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
192	253	[手形]	辰六月廿六日	1856	6	26	河西熊吉	南大塩村 市兵衛	二駄分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。

文書番号	整理番号	文書名	年月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
193	6	①新組米口金穀留入用割寄七帳 ②仲込一件入用割寄帳 土作	①②安政三丙辰年六月日	1856	6		南大塩村 歩キ 平作			横帳	1	①・②は綴。(赤ペン)
194	251	{手形}	辰七月七日	1856	7		河西熊吉	南大塩村 仁兵衛	二駄分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
195	252	{手形}	辰七月十五日	1856	7	15	河西熊吉	南大塩村 仁兵衛	二駄分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
196	255	{手形}	辰八月二日	1856	8	2	河西熊吉	南大塩村 仁兵衛	二駄分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
197	144	役所諸事差引帳	安政三丙辰年九月十六日	1856	9	16	南大塩 吉五郎			縦帳	1	
198	25	役所諸事日記帳	安政三丙辰年九月十六日 ☒	1856	9	16	南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
199	308	{御成敷替上納手形}	辰九月廿五日	1856	9	25	東御蔵	南大塩村		小切紙	1	244の袋に入る。
200	276	{高役金上納手形}	辰十月十五日	1856	10	15	東御蔵	南大塩村		小切紙	1	244の袋に入る。
201	266	{手形}	辰十月十九日	1856	10	19	河西熊吉	南大塩村 忠八	一駄分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
202	284	覚	辰十月廿一日	1856	10	21	田野屋 皆右衛門	南大塩村 御役人中様	年貢取納世話料等勘定書か	小切紙	1	244の袋に入る。黒印「上諏方裏中町田野屋」
203	247	{手形}	辰十月晦日	1856	10	30	河西熊吉	南大塩村 九郎右衛門	一駄分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
204	260	{手形}	辰十月晦日	1856	10	30	河西熊吉	南大塩村 友右衛門	一駄一朱分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
205	11	御廻米口写帳	安政三丙辰年十月	1856	10		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
206	290	御廻米請取覚	辰十月	1856	10		雨宮与一左衛門 衛	矢嶋三郎左衛門殿			1	244の袋に入る。
207	297	{手形}	辰十一月五日	1856	11	5	矢三郎左衛門			小切紙	1	244の袋に入る。
208	298	{地分餅上納手形}	辰十一月十日	1856	11	10	東御蔵	南大塩村		小切紙	1	244の袋に入る。
209	254	{手形}	辰十一月十九日	1856	11	19	長崎要左衛門	南大塩村 名主 勘左衛門 友之丞	三駄四朱六分六厘七毛の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
210	291	覚	辰十一月廿九日	1856	11	29	永田清左衛門	南大塩村 御役人衆中	小林氏年賦金受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
211	137	①川渡國役金割寄七帳 ②杖突峠一件入用割寄七帳	①②安政三丙辰年十一月	1856	11		①歩キ 平作 南大塩村 名主 吉五郎 ②南大塩村 歩キ 平作			横帳	1	
212	17	①川渡 役金割元帳 ②川渡 役金差引帳	①安政三丙辰年十一月日 ②安政三丙辰年十二月日	1856	11		吉五郎			横帳	1	
213	302	覚	辰十二月六日	1856	12	6	田の屋 皆右衛門	南大塩村 御役人中様	糶子入用勘定書か	小切紙	1	244の袋に入る。黒印「上諏方裏中町田野屋」
214	293	覚	辰十二月八日	1856	12	8	永田清左衛門	南大塩村 御役人中様	小林小太郎年賦金丙辰分請取証	小切紙	1	244の袋に入る。

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
215	289	覚	丙辰〔安政三〕十二月十三日	1856	12	13	菅本木口 又兵衛	南大塩村 御役人中様		小切紙	1	244の袋に入る。黒印「信州上諏訪一本木葛屋」
216	274	覚	丙辰〔安政三〕十二月十四日	1856	12	14	一本木 又兵衛	南大塩村 御役人中	有賀村浅右衛門分御蔵米八俵受取証。	小切紙	1	244の袋に入る。黒印「信州上諏訪一本木葛屋」
217	249	九人出人寒蕎麦玉り	辰十二月十五日	1856	12	15	惣代村	南大塩村		小切紙	1	244の袋に入る。
218	268	〔手形〕	辰極月十五日	1856	12	15	河西熊吉	南大塩村 九郎右衛門 又兵衛	それぞれ一駄分の手形	小切紙	1	244の袋に入る。
219	282	覚	辰十二月十六日	1856	12	16	東御蔵	南大塩村 名主	餅米受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
220	287	覚	辰十二月十六日	1856	12	16	東御蔵	南大塩村 名主	餅米受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
221	299	覚	辰十二月廿四日	1856	12	24	さふや 米吉	南大塩村 御役人中様			1	244の袋に入る。黒印「上諏方裏中町岐阜屋」
222	278	覚	辰十二月廿八日	1856	12	28	たのや 皆右衛門	南大塩村 御役人中	駄賃残金受取証	小切紙	1	244の袋に入る。黒印「上諏方裏中町田野屋」
223	323	吉久婚儀付御祝儀受納帳	昭和三十一年十二月	1856	12		宮坂吉弥			横帳	1	表紙破損。
224	295	覚	辰十二月	1856	12		田野屋 皆右衛門	南大塩村 御役人中様	年貢収納世話料等勘定書か	小切紙	1	244の袋に入る。黒印「上諏方裏中町田野屋」
225	10	大荒付諸入用覚帳	安政四丁巳年閏五月十六日	1857	-5	16	南大塩村	御代官様		横帳	1	
226	8	①〔人足名面帳〕 ②剛臺荒所人足積り書上帳	①〔安政四年〕 ②安政四丁巳年閏五月	1857	-5		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	①・②は綴。(赤ペン)
227	5	荒所人足書上帳	安政四丁巳年閏五月	1857	-5		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
228	305	〔口賃上納手形〕	巳正月十五日	1857	1	15	東御蔵	南大塩村		小切紙	1	244の袋に入る。
229	280	〔追鳥割上納手形〕	巳正月廿五日	1857	1	25	東御蔵	南大塩村 名主		小切紙	1	244の袋に入る。
230	200	金銀出入帳 貳番	安政四丁巳年正月吉日	1857	1		南大塩村 宮坂吉五郎			小横帳	1	
231	272	〔竹高割分納手形〕	巳二月五日	1857	2	5	東御蔵	南大塩村 名主		小切紙	1	244の袋に入る。
232	21	浄土宗 宗門御改并人別帳	安政四丁巳年二月十五日	1857	2	15	南大塩村			横帳	1	表紙の前に「上南大塩村」の1枚有。
233	309	〔口蕎麦上納受取証〕	巳二月十五日	1857	2	15	東御蔵	南大塩村		小切紙	1	244の袋に入る。
234	301	覚	巳二月十六日	1857	2	16	赤沼村 名主 太兵衛	南大塩村 御役人中		小切紙	1	244の袋に入る。
235	262	覚	安政四丁巳年二月十七日	1857	2	17	赤沼村名主 太兵衛	南大塩村 御名主中様	杭三十本の受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
236	14	丙辰分上薪掛米帳	安政四丁巳年二月日	1857	2		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
237	19	丙辰分御宗門割元帳	安政四丁巳年二月	1857	2	南大塩村 名主 吉五郎				横帳	1	
238	259	[丙辰分高口口手形]	巳三月十日	1857	3	10 宮坂口次(正勝)	栗沢村 常次			小切紙	1	244の袋に入る。
239	164	丙辰分御成ヶ指引行司帳	安政四丁巳年三月日	1857	3	南大塩村 名主 吉五郎				縦帳	1	
240	170	丙辰分御成箇御土貢帳 貳番	安政四丁巳年三月日	1857	3	南大塩村 名主 吉五郎				縦帳	1	
241	182	丙辰分御成箇土貢帳 壹番	安政四丁巳年三月日	1857	3	南大塩村 名主 吉五郎				縦帳	1	
242	183	丙辰分御成箇指引帳 貳番	安政四丁巳年三月日	1857	3	南大塩村 名主 吉五郎				縦帳	1	
243	184	丙辰分御成箇指引帳 壹番	安政四丁巳年三月日	1857	3	南大塩村 名主 吉五郎				縦帳	1	
244	185	丙辰分御成箇土貢帳 出作	安政四丁巳年三月日	1857	3	南大塩村 名主 吉五郎				縦帳	1	
245	3	諸役儀其外足役拾出シ帳	安政四丁巳年三月日	1857	3	南大塩村 名主 吉五郎				横帳	1	
246	129	諸御役儀其外歩割元帳	安政四丁巳年三月日	1857	3	南大塩村 名主 吉五郎				横帳	1	
247	15	丙辰分小手形請并余米序拂帳	安政四丁巳年三月	1857	3	南大塩村 名主 吉五郎				横帳	1	
248	153	丙辰分御成箇御勘定帳	安政四丁巳年三月	1857	3	南大塩村 名主 吉太郎				縦帳	1	
249	261	覚	巳四月廿日	1857	4	20 東蔵	南大塩村		白大豆二斗分の受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
250	9	南大塩村地分欄之本新田開發 番領場地替坪割帳	安政四丁巳年五月二日	1857	5	2 南大塩村 地中				横帳	1	
251	283	覚	巳五月五日	1857	5	5 田野屋 皆右衛門	南大塩村 御役人中		年貢取納世話料等勘定書か	小切紙	1	244の袋に入る。黒印「上野屋」
252	288	覚	巳閏(安政四)五月十一日	1857	5	11 玉屋 彦七	南大塩村 御役人中様		勘定書		1	244の袋に入る。
253	281	覚	巳壬五月十三日	1857	5	13 永田清左衛門	南大塩村 御役人中様		小林氏丙辰分年賦金受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
254	264	[口竹割上納手形]	巳五月十四日	1857	5	14 東御蔵	南大塩村 名主			小切紙	1	244の袋に入る。
255	296	[東俣境代金上納手形]	[安政四] 壬五月廿八日	1857	5	28 東御蔵	南大塩村 名主			小切紙	1	244の袋に入る。
256	286	覚	巳壬五月	1857	5	たのや 皆右衛門	南大塩村 御役人中様		年貢取納世話料等勘定書か	小切紙	1	244の袋に入る。黒印「上野屋」
257	246	[丙辰分利金之内上納手形]	巳[安政四] 六月二日	1857	6	2 河西善右衛門	松倉林右衛門		利金受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
258	250	[丙辰分利金之内上納手形]	巳[安政四] 六月二日	1857	6	2 河西善右衛門 松倉林左衛門	南大塩村 龜三郎		金式朱の引替証	小切紙	1	244の袋に入る。
259	304	[俵口賃上納手形]	巳六月五日	1857	6	5 東御蔵	南大塩村			小切紙	1	244の袋に入る。
260	306	[御敷替上納手形]	巳六月廿五日	1857	6	25 東御蔵	南大塩村			小切紙	1	244の袋に入る。
261	307	[御蔵敷替糞上納手形]	巳六月廿五日	1857	6	25 東御蔵	南大塩村			小切紙	1	244の袋に入る。
262	292	覚	巳八月朔日	1857	8	1 横内村 名主 猶右衛門	南大塩村 御役人衆中		大梓貫三十九枚預かり証	小切紙	1	244の袋に入る。

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
263	267	覚	巳八月二日	1857	8	2	横内村 猶右衛門	南大塩村 御役人衆	唐松預り証	小切紙	1	244の袋に入る。
264	215	賣渡申畑證文之事	安政四丁巳歳八月晦日	1857	8	30	堀新田 留次郎 受人 綱五郎	南大塩村 市三郎殿		堅紙	1	裏書あり。
265	7	①荒所竿取名面帳 ②荒所砂押名面之者書上帳 ③荒所砂押名面之者書上帳	①安政四丁巳年九月四日 ②安政四丁巳年閏五月廿日 ③安政四丁巳年閏五月五日	1857	9	4	①南大塩村 名主 吉五郎 ②③南大塩村			横帳	1	①～③は綴
266	318	〔金銭書上〕	丁巳〔安政四〕年九月五日	1857	9	5				小切紙	1	
267	16	丁巳暮在町暮拂取帳	安政四丁巳年十二月	1857	12		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
268	140	丙辰分役儀高無役高成割家軒割掛米帳	安政四丁巳年十二月	1857	12		南大塩村 名主 吉五郎			横帳	1	
269	294	〔丁巳分水口運上錢上納手形〕	巳〔安政四〕	1857			濱禰左衛門	南大塩村 名主 林之丞		小切紙	1	244の袋に入る。
270	199	田畑名寄帳	安政七庚申年正月日	1860	1		南大塩村 宮坂吉五郎			小横帳	1	
271	143	御藏方勤中御用向書留帳	萬延元庚申歳三月	1860	3		三千石 初見 小平九右衛門			堅帳	1	
272	191	三千石御藏方日記	元治元甲子年五月四日	1864	5	4	南大塩村 宮坂市三郎 光重			小横帳	1	
273	26	下筋 三千石 大検見目帳	慶応二丙寅年九月十九日	1866	9	19	宮坂吉五郎			横帳	1	
274	195	三千石村々序目録帳	慶應二乙丑年十月	1866	10		南大塩村 宮坂市三郎 光重			小横帳	1	
275	213	賣渡申畑證文之事	慶應三丁卯年正月日	1867	1		本人 藤右衛門 受人 常右衛門	吉五郎殿		堅紙	1	裏書あり。
276	311	覚	七月十三日	1868	1	13	□□や □兵衛	南大塩村 御役人衆 中様	勘定書		1	244の袋に入る。
277	300	覚	二月十二日	1868	2	12	赤沼村 名主 太兵衛	南大塩村 御役人中様		小切紙	1	244の袋に入る。
278	245	覚	〔年未詳〕三月廿日	1868	3	20	吉田忠兵衛	南大塩村 名主 年寄	大豆式斗受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
279	229	覚	子四月十一日	1868	4	11	内藤新宿 萬屋忠兵衛	南大塩村 市三郎殿 佐兵衛殿 伊五郎殿 鳥三郎殿 馬御連名衆中	見舞金受領証	堅切紙	1	
280	269	村次	〔年未詳〕五月十四日	1868	5	14	矢三郎左衛門	南大塩村 名主 年寄	村岡彦左衛門扶持 分納入命令書。	小切紙	1	244の袋に入る。
281	285	覚	□五月二十四日	1868	5	24	□□村役人	南大塩村	縄請取証	小切紙	1	244の袋に入る。
282	316	村次	〔年未詳〕六月七日	1868	6	7	坂本大藏 五味藤左衛門	南大塩村 名主 年寄	大平境見分のたぬめ、六月八日に南大塩村に泊まるたぬめ、人足や夕飯を注意することの通知。		1	312の袋に入る。
283	238	〔書簡〕	〔年未詳〕六月十一日	1868	6	11	斧右衛門	吉五郎様	紙借用願		1	薄墨紙
284	317	〔覚〕	〔年未詳〕七月廿一日	1868	7	21	小平幸□□	宮坂吉三郎様		小切紙	1	
285	270	覚	〔年未詳〕八月廿一日	1868	8	21	温泉寺 納處	南大塩村	唐松四本の預証	小切紙	1	244の袋に入る。

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦月日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
286	92	大検見引目録写	西九月八日	1868 9	南大塩村	前田弥左衛門様 賀又四郎様		横帳	1	
287	273	覚	(年未詳) 九月	1868 9	川除方筋	南大塩村 名主中	川除中棈道具・橋木山人足着到状	小切紙	1	244の袋に入る。
288	303	覚	十月十二日	1868 10	矢ヶ崎村 名主	南大塩村 御役人中様	中棈柱受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
289	279	覚	十二月二日	1868 12	飯田覚右衛門	南大塩村 名主	餅米受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
290	193	高嶋幡中三千御蔵附	[近世]	1868	南大塩村 宮坂光重			小横帳	1	
291	244	小手形入	[近世]	1868				袋	1	
292	258	[白紙]	[近世]	1868				小切紙	9	244の袋に入る。
293	312	小手形入	[近世]	1868				袋	1	312の袋に入る。
294	130	[歩割覚か]	[近世]	1868				横帳	1	紙背に書かれている。
295	310	[人教書上]	[近世]	1868				小切紙	1	244の袋に入る。
296	228	指出申御詫一札之事	[近世]	1868		村方一統	名主役不埒により村方一統から訴えられたため詫状	縦紙	1	233と同一文書。
297	257	[手形]	[近世]	1868	中河原村 役人	南大塩村 御役人中様	受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
298	188	[庭訓往来か]	[近世]	1868				縦帳	1	版本
299	239	[序入ヶ書上]	[年月日未詳]	1868				断簡	1	
300	265	覚	[年月日未詳]	1868	笹原新田 九十藏	南大塩村 御役人中	受取証	小切紙	1	244の袋に入る。
301	271	[村絵図]	[年月日未詳]	1868					1	244の袋に入る。
302	275	[人足教書上]	[年月日未詳]	1868				小切紙	1	244の袋に入る。
303	240	山寺前道普請名面	[年月日未詳]	1868				断簡	1	
394	315	[御状米附送り受取]	[未・亥年]	1868			[甲州大武川村亀泉(上)諏訪町亀長(先) 薦木宿願屋永基屋、飯沢宿中屋伊三郎、文外へ米ノ領取書](信濃教育会諏訪部会の方下による)	綴	50	312の袋に入る。信濃教育会諏訪部会の調査時に綴られたものと考えられ、資料カードも綴られている。
305	237	①②覚	① [年未詳正月十日～廿五日] ② [年月日未詳]	1868	① 斧右衛門	② 吉五郎様	① 中折等勸定書。② 寺の紙代等勸定書か。	縦紙	1	①と②は貼り付けてある。薄墨紙。
306	256	[手形]	辰年	1868		南大塩村		小切紙	1	244の袋に入る。
307	233	御詫指出申一札	年号月日	1868	本人 ----- 類 --- -----	村方 惣代中	名主役不埒により村方一統から訴えられたため詫状	縦紙継紙	1	228と同一文書。
308	35	[入用書上]		1868			村貸金や訴訟などの入用の書上	横帳	1	横帳 2 冊の綴。

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	西暦月日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
309	44	小書抜		1868					横帳	1	
310	28	[集帳か]		1868					横帳	1	
311	29	[出し越金覺]		1868					横帳	1	

(2) 明治時代以降

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	西暦月日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
312	219	賈渡申畑證文之事	明治三庚午三月廿日	1870	3 20				縦紙	1	
313	218	賈渡申證文添書之事	明治三庚午三月日	1870	3	本人 小平猶左衛門 小平牧左衛門	受 吉五郎殿	売り地に道がないこと の念書。	縦紙	1	219の関連文書。裏書あり。
314	214	地所賈渡證	明治十四年十二月十七日	1881	12 17	豊平村 本人 宮坂喜右衛門 證人 小平利左衛門	宮坂吉三郎殿		縦紙	1	奥書あり。
315	12	御柱祭(付事務日誌	明治卅五年寅第二月	1902	2	取締			横帳	1	
316	138	①全勤入費帳 ②同勤入費簿 ③諸勸定附込支払帳 ④(歩割)	①明治参拾五年参月参日 ②明治参拾五年四月六日 ③明治参拾五年五月十七日	1902	3 3	①②③豊興社取締			横帳	1	横帳の綴。
317	13	綱打并挺木切人足帳	明治三十五年三月十五日	1902	3 15	豊樂社取締			横帳	1	
318	313	[書簡]	明治三十五年三月十八日 大正十二年十月十八日	1923	10 18	信濃教育會諏訪部會長阿蘇温藏	宮坂吉三郎殿	諏訪史編纂事業のため古文書借用礼状		1	312の袋に入る。
319	324	①母りん死去付御音物受納帳 ②二女久子死去付御音物受納帳 ③三男徳召郎死去付御音物受納帳 ④父吉三郎假埋葬付御音物受納帳 ⑤土蔵建築付御音物受納帳 ⑥(不明) ⑦(不明) ⑧(不明) ⑨(不明) ⑩(不明) ⑪(不明) ⑫(不明) ⑬(不明) ⑭(不明) ⑮(不明) ⑯(不明) ⑰(不明) ⑱(不明) ⑲(不明) ⑳(不明) ㉑(不明) ㉒(不明) ㉓(不明) ㉔(不明) ㉕(不明) ㉖(不明) ㉗(不明) ㉘(不明) ㉙(不明) ㉚(不明) ㉛(不明) ㉜(不明) ㉝(不明) ㉞(不明) ㉟(不明) ㊱(不明) ㊲(不明) ㊳(不明) ㊴(不明) ㊵(不明) ㊶(不明) ㊷(不明) ㊸(不明) ㊹(不明) ㊺(不明)	①大正拾貳年拾貳月六日 ②昭和貳拾参年参月貳日 ③昭和拾四年九月拾日 ④昭和拾六年八月二日 ⑤昭和拾六年八月二日 ⑥大正拾四年六月歳秋日 ⑦(不明) ⑧(不明) ⑨(不明) ⑩(不明) ⑪(不明) ⑫(不明) ⑬(不明) ⑭(不明) ⑮(不明) ⑯(不明) ⑰(不明) ⑱(不明) ⑲(不明) ⑳(不明) ㉑(不明) ㉒(不明) ㉓(不明) ㉔(不明) ㉕(不明) ㉖(不明) ㉗(不明) ㉘(不明) ㉙(不明) ㉚(不明) ㉛(不明) ㉜(不明) ㉝(不明) ㉞(不明) ㉟(不明) ㊱(不明) ㊲(不明) ㊳(不明) ㊴(不明) ㊵(不明) ㊶(不明) ㊷(不明) ㊸(不明) ㊹(不明) ㊺(不明)	1923	12 6	①③⑥⑦⑧宮坂吉三郎 ②④宮坂吉弥 ⑤宮坂吉彌		横帳	1	横帳の綴。	
320	321	第三男葬儀付音物受納帳	昭和二十一年十二月三日	1946	12 3				横帳	1	
321	322	諸事付ケ込帳	昭和二十八年	1953		宮坂吉弥			横帳	1	
322	328	母うめの葬儀付受納帳	昭和三十一年十二月	1956	2				横帳	1	表紙破損。
323	329	病氣に付御見舞[ ]	昭和四十一年四月	1966	4				横帳	1	
324	330	諸事付[ ]	昭和四十二年	1967					横帳	1	
325	320	吉久厄払付御祝儀受納帳	昭和四十三年一月十四日	1968	1 14				横帳	1	
326	319	諸事附込	昭和四十拾八年拾貳月	1973	12			音物受納帳	横帳	1	
327	326	御香奠帳	昭和四十九年五月二日午後七時七分死去	1974				宮坂しけ死去二付	横帳	2冊	
328	327	儀理請帳	昭和五十九年度	1979		宮坂吉久			横帳	1	
329	325	諸事儀理受け帳	昭和五十四年度	1979		宮坂吉久			横帳	1	
330	314	[書簡]	丑極月六日		12 6	浅田瀧三郎	宮坂吉五郎様		金子借用二付	1	312の袋に入る。

## 2 教科書

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
1	340	尋常小學校修身書 卷二 學年 兒童用	明治三十八年十一月十八日 翻刻發行	1905	11	18	文部省 會社 所	南江堂書店 株式 會社 國定教科書 同販賣 所			A5 版	1	
2	334	尋常小學校地理 卷一 兒童用	明治四十三年一月三十日 翻刻發行	1910	1	30	文部省 同販賣所	日本書籍株式會社 株式會社 國定教科書 共 同販賣所			A5 版	1	
3	339	尋常小學校修身書 卷一 兒童用	明治四十三年三月十五日 翻刻發行	1910	3	15	文部省 同販賣所	東京書籍株式會社 株式會社 國定教科書 共 同販賣所			A5 版	1	
4	整理 番号	文書名	年号月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考	
337		裁縫筆記帳 尋常科 第六學年	明治四十五年五月廿五日 發行	1912	5	25	渡邊盛太郎 宮坂榮次郎 三井信義 日新堂本店 日 新堂支店			A5 版	1		
338		尋常小學校日本歴史 卷一 兒童用	大正元年九月廿五日翻刻 發行	1912	9	25	文部省 同販賣所	東京書籍株式會社 株式會社 國定教科書 共 同販賣所			A5 版	1	
336		高等小學校地理 卷二 兒童用	大正元年十月十四日翻刻 發行	1912	10	14	文部省 同販賣所	日本書籍株式會社 株式會社 國定教科書 共 同販賣所			A5 版	1	
333		尋常小學校讀本 卷九	大正二年七月卅一日翻刻 發行	1913	7	31	文部省 同販賣所	日本書籍株式會社 株式會社 國定教科書 共 同販賣所			A5 版	1	
331		高等小學校讀本 第 三學年用上	大正三年十二月五日翻刻 發行	1914	12	5	文部省 同販賣所	日本書籍株式會社 大倉保五郎 株式會社 國定教科書 同販賣所			A5 版	1	
342		尋常小學校讀本 卷 四	大正四年六月廿八日	1915	6	28	文部省 同販賣所	日本書籍株式會社 株式會社 國定教科書 共 同販賣所			A5 版	1	
335		尋常小學校修身所 卷 二 兒童用	大正八年一月廿二日翻刻 發行	1919	1	22	文部省 同販賣所	日本書籍株式會社 株式會社 國定教科書 共 同販賣所			A5 版	1	
341		尋常小學校修身書 卷三 兒童用	大正八年十月十九日	1919	10	19	文部省 同販賣所	日本書籍株式會社 株式會社 國定教科書 共 同販賣所			A5 版	1	
343		尋常小學校國語書キ方 手本 第三學年用下	大正九年五月十五日翻刻 發行	1920	5	15	文部省 同販賣所	東京書籍株式會社 株式會社 國定教科書 共 同販賣所			A5 版	1	
332		唱歌集	大正十年三月十五日發行	1921	3	15	田村幾作 宮坂清一郎 日 新堂本店				A5 版	1	

## 3 その他

文書番号	整理番号	文書名	年号月日	西暦	月	日	作製者(発給者)	受給者	内容	形態	数量	備考
1	344	[財布]								布製	1	
2	345	[木箱]							文書入れ	木箱	1	墨書で「宮坂氏 宮坂吉三郎」

## 市民研究員養成講座

### 1 趣旨

言うまでもなく博物館の活動には調査研究活動、資料の収集保管活動、そして教育普及活動という3本の柱がある。その活動に有機的に市民に関わってもらおうのが、博物館とそこに関わる市民の望ましいあり方である。博物館の活動に市民が関わり、そのことによって博物館が支えられ高められる。また、市民には博物館活動への関わりにやりがいを感じていただく。そのような市民とのつながりを持った博物館を目指して市民研究員養成講座を4月に発足させた。この講座は座学中心ではなく、主に観察調査や実験製作等実践的な活動を通して学びを深める手法を取り入れている。市民研究員の認定は1年単位で行うが、養成講座は1期3年間とする。

### 2 分野と指導者

茅野市八ヶ岳総合博物館は自然、歴史民俗、文芸を扱う博物館であるが、科学教育分野の充実も求められている。そこで今回は植物、陸水（ミジンコ）、菌類（キノコ）、鳥類、実験工作の5分野について養成講座を開講し市民を募集した。市民を指導育成するのは本来学芸員の仕事であるが、当館は極端に学芸員が不足している。そこで各分野についての指導を専門家に依頼した。

分野	指導者	
植物	名取 陽 岩波 均 武居 三男 白鳥 保美	植物研究家 諏訪教育会植物部会 諏訪教育会植物部会 諏訪教育会植物部会
陸水（ミジンコ）	花里 孝幸	信州大学教授
菌類（キノコ）	小山 明人	菌類懇話会事務局長
鳥類	両角 英晴	日本野鳥の会諏訪支部
実験工作	木村 正弘	諏訪東京理科大学教授

### 3 参加者

今年度の養成講座参加者は41名だった。参加者の中で余裕のある人は2つのグループに登録し活動した人もいた。各グループの登録者数は、植物グループ19名、陸水グループ5名、菌類グループ12名、野鳥グループ9名、実験工作グループ6名だった。

### 4 事業

原則として各グループに毎月1回以上の活動をお願いした。活動にはできる限り当館職員が同行した。活動は座学だけでなく野外での観察調査や実験等、実践的な活動を通して市民に力をつけてもらえるようにした。また、博物館とは何か、市民はどのように関わればよいのか、そこでの地域研究をどのように進めればよいか等を学ぶ各グループ共通の講演会を市民研究員講座受講生以外にも開放し3回開催した。

4月21日「地域博物館と市民活動」講師 東京学芸大学教授 君塚仁彦先生

6月9日「地域研究のあり方」講師 東京大学名誉教授、飯田市歴史研究所所長吉田信之先生

10月6日「観察の基礎～生態学の思考法 自然を測る～」講師 信州大学名誉教授  
沖野外輝夫先生

また、各グループの観察会や講座についても、数回受講生以外にも開放し多くの市民の参加を促したため、その参加者の中から受講生に加わるものもいた。養成講座の受講参加はいつからでも可能にした。その他に各グループの活動の様子を広く知らせるために、3月1日～3月23日の間、博物館講堂で「活動展」を開催した。活動展では各グループの展示ブースを設け、それぞれの1年間の活動を紹介した。また、最終日の23日はイベントデーとし、13時から2時間、各ブースで趣向を凝らしたワークショップを開催した。その後市民研究員認定賞授与式を執り行い、今年度の対象者に牛山教育長より認定証が授与された。

## 5 専門委員会

平成24年に博物館長より博物館協議会に対し「茅野市八ヶ岳総合博物館の展示更新及び茅野市における科学教育の振興についての基本計画の策定について」の諮問がなされ、答申するために専門部会が設置された。専門部会の部会長に沖野外輝夫先生、副部会長に北沢和男先生が当たられた。まとめられた答申の中で、答申を実効性の高いものにするには、出来るところからどんどん実行していくことが期待された。それを受け、出来ることの一つとして市民研究員養成講座を発足させた。市民研究員養成講座を推進するための組織として事務局を博物館に置く専門委員会を設置した。専門委員会は市民研究員養成講座全体の進捗のかじを取りをとり推進するとともに、市民研究員認定の判断を行う。前述の経緯から専門委員会のメンバーは、各グループの指導者に沖野外輝夫先生と北沢和男先生を加えた。今年度は専門委員会を12月11日、1月31日に開催した。

## 6 市民研究員の認定

市民研究員の認定条件は各グループ共通の講演会3回を受講し、毎回ミニレポートを提出すること。および毎月1回以上行われるグループの活動に7回以上参加すること。この条件を満たした者の中から専門委員の推薦を受けた者に、当初認定証を授与することにした。その後1月31日の専門委員会で、講演会に都合で参加できなかった人でも、グループの活動に毎回熱心に参加した人は、8回目以降の活動参加3回分を講演会1回参加、レポート1本分とみなすことに認定基準を改めた。その結果今年度の市民研究員認定者は19名であった。市民研究員認定者は、今後のグループの活動に積極的に参加し、指導者をサポートしていただくとともに、新たな活動の提案をし、その活動の主体者になることができる。つまり、このような自然観察会を開催したい、このような調査をしたい、このような事業を行いたい等提案し、専門委員会の承諾のもと、可能なものから実施することができる。

## 7 今後

第1期3年の計画であるのであと2年は現在のまま進め、第1期終了時に成果を点検し、見直すところは見直し第2期に発展させたい。第2期では分野の増減を行うが、総合博物館にふさわしいように歴史民俗、文芸の分野の養成も視野に入れたものになる。

## 植物グループ活動報告

岩波均\* 白鳥保美\* 武居三男\* (\* 諏訪教育会) 名取陽\*\* (\*\* 専門委員)

植物グループでは、八ヶ岳を中心とした諏訪の植物について、地域の自然誌研究の基礎となる、植物の分類、植生、生態を広く、観察研究する事を目標とした。

今年度は、まず博物館を中心とした身近な山地に生息する植物について研究を開始した。

第1回 小泉山のスミレを中心にした春の植物観察会 (諏訪教育会と共催 一般公開)

5月11日(土) 13:00~15:00 参加者 15名 指導者 武居三男

春の妖精植物といわれるスミレを中心に、身近な地域の山、小泉山の春咲植物の観察を計画したが、足元最悪の雨天のため、急きょ博物館室内でのスライド写真による学習会に変更した。多数の記録写真による詳しい植生分類学習がなされた。

第2回 守屋山系の植物採集観察調査

6月8日(土) 上社前宮集合 8:00~13:00 参加者 19名 指導者 岩波均

諏訪大社前宮上から杖突峠まで、西山山地帯の植物を採集調査した。

各自が採集した植物を持ち帰り押し葉し、標本作製実習を行った。実地に自生する植物を、生で観察し採集し標本とする、貴重な体験となった。

第3回 八ヶ岳硫黄岳高山植生生態観察調査

7月7日(日) 美濃戸集合 7:00~16:30 北沢赤岳鉱泉經由硫黄赤岩の頭折り返し

参加者9名 指導者 名取陽

美濃戸山荘前から硫黄岳山頂手前赤岩の頭まで、標高差700mの亜高山帯常緑針葉樹帯から森林限界をはさんで高山帯まで、環境による植物生態変化を観察調査した。美濃戸北沢、山の神(標高2000m)に自生するチョウセンゴヨウとシラビソの胸高直径を測定記録した。

亜高山森林の静謐さと、多数の美しい高山植物の花の観察もできた。

第4回 霧ヶ峰八島が原湿原自然観察会(諏訪教育会と共催 一般公開)

7月20日(土) 七島八島駐車場集合 7:00~12:00 参加者19名 指導者岩波均

諏訪教育会自然研究会植物、陸水、鳥・動物、気象の先生方の指導により、八島ヶ原高層湿原の植生や自然について、諏訪地域の多数の児童生徒とその保護者ともども、晴天に恵まれた夏の霧ヶ峰高原のさわやかな雰囲気の中、地域の自然誌を知る良い観察会であった。

第5回 大泉山多留姫滝植物観察調査

8月24日(土) 多留姫神社集合 9:00~13:30 参加者6名 指導者 白鳥保美

多留姫神社北の柳川川原から標高970mの社叢および大泉山南斜面1060mに見られる植物の観察を行った。晴天にめぐまれ耕作地、社寺林、川岸湿地、里山林床原野、車道沿いの草本、木本、シダや特定外来帰化植物の観察を行った。

第6回 八ヶ岳縞枯山高山植物植生生態観察調査(諏訪教育会と共催)

10月12日(土) ピラタス駐車場集合 8:00~16:00 参加者5名 指導者武居光男

ピラタスロープウェイを利用して、秋の紅葉期の高山植生の生態観察を行った。

歩行もままならないほどの強風のなかで、厳しい環境の下に生活する高山植物の生態を実地に即し観察することができた。縞枯れ現象について、その原因となる気象や地質、植生などの要因について生態系を見わたしながら論議し学ぶことができた。

第7回 講演会 諏訪の希少植物について (諏訪教育会共催 一般公開)

11月9日(土) 博物館 13:00~15:00 参加者9名 講演者 岩波均

諏訪地方の植生について、その多様性の特徴やヤツガタケトウヒ、アツモリソウなどの希少性について、多くの写真映像により詳しく紹介された。

諏訪地方の自然についても、植物を通してその特質を学ぶことができた。

第8回 阿弥陀岳御小屋尾根 御柱山の植物生態観察調査

12月1日(日) 博物館集合 8:00~16:00 参加者8名 指導者 名取陽

美濃戸別荘地脇駐車場標高1500mから初冬の山地林の草本や木本の生態を観察しながら標高1600mの諏訪大社御柱林をめざした。休眠期の種名の同定の困難さも実感しながら、ダケカンバの分布下限を確認し巨木に囲まれた大社林に到着した。シラカンバ、ダケカンバなど広葉樹や、ウラジロモミ、トウヒ、シラビソ、コメツガなどの針葉樹の分類や分布を確認し、標高1900mまで尾根筋に沿って御柱の森の生態系を観察した。育林のため伐採された樹木幹材も採取できた。

第9回 講演会 赤道下高山の極限植生と八ヶ岳高山植物の生態について (一般公開)

1月12日 博物館 13:30~15:30 参加者9名 講演者 名取陽

標高の変化による環境作用の影響が良く観察できる、赤道直下のアフリカのケニヤ山(標高5200m)やキリマンジャロ山(標高5900m)、アンデス山地のカヤンベ山(標高5790m)に生育する高山植物の低温や乾燥に対する適応生態のスライド紹介と、八ヶ岳の高山植物の環境適応および、御小屋尾根でのソバの生育実験や生態系での森林限界の重要性について発表された。

第10回 御柱山 樹木幹材標本年輪測定研究会

1月26日(日) 博物館 13:00~17:00 参加者8名 指導者 名取陽

諏訪大社から寄贈された御小屋神社林の樹木幹材の年輪測定記録を行った。シラビソ、コメツガ、ミネザクラ、ダケカンバ、ハクサンシャクナゲの幹片を各自1標本受け持ち、ルーペと定規を用いて年輪の計測を行った。測定値と諏訪測候所の観測気温をグラフ化して、生育環境との関連について考察した。

第11回 講演会 諏訪の植物分布について

2月15日(土) 前日からの記録的大雪のため急きょ中止

第12回 今年度活動のまとめと活動展示発表会準備会

2月23日(日) 博物館 13:00~16:00 参加者7名 指導者 岩波、白鳥、名取

今年度のレポート提出と活動のまとめを行い、活動の展示発表会について企画した。

植物グループ参加者

大塚光子 大塚敏子 猿田陽子 桑垣文子 井村悦子 牛山志穂 上原妙子 小山京子  
宮澤弘宣 小林 豊 奥原 聡 牛山恵一 野崎順子 池澤正秀 田中宏和 矢島三喜子  
上原裕雄 北澤俊弘

短報

八ヶ岳、御小屋尾根、御柱神社林の年輪解析による遷移について

八ヶ岳総合博物館専門委員 名取陽

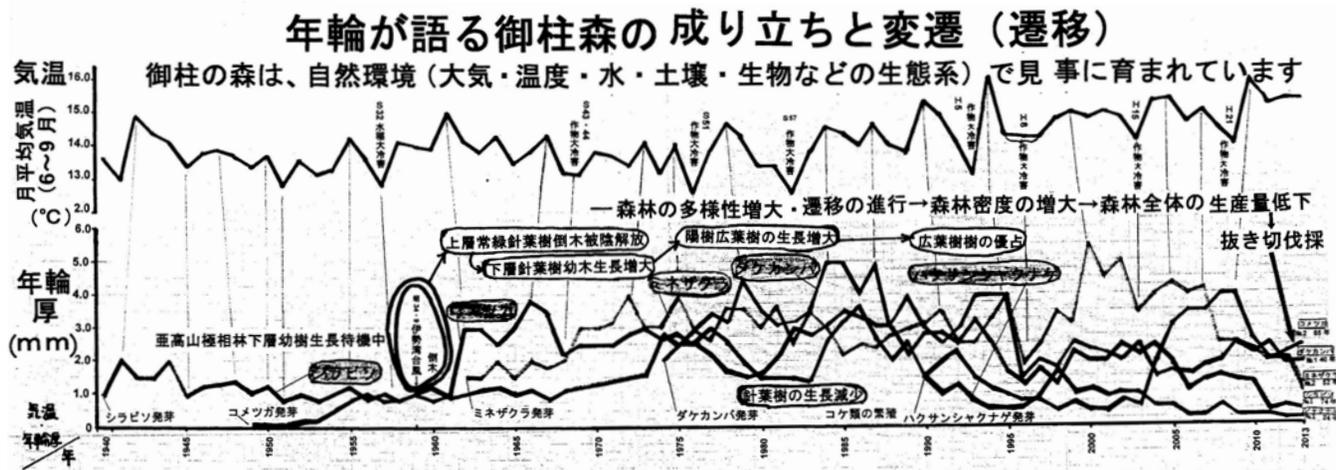
2013年12月1日、八ヶ岳総合博物館市民研究員講座植物観察会が、八ヶ岳御小屋山の諏訪大社神社林で行われた。御小屋尾根筋、標高1900m近辺の神社林最上部の天然林は、1959年9月26日の伊勢湾台風の強風雨で壊滅され、その後自然回復している。たまたま実施されていた御柱用材育成の間伐を見て、亜高山針葉樹林の遷移に興味をもった。

諏訪大社より採集許可を得て、2013年12月22日、抜き切りされていた、シラビソ(8ヶ)、コメツガ(2ヶ)、ダケカンバ(1ヶ)、ミネザクラ(2ヶ)、ハクサンシャクナゲ(2ヶ)の地上約20~30cm部の幹材を輪切採取した。植物講座研究員で、採取標本の幹径および年輪幅を測定研究し、その結果を2014年3月に開催された博物館活動発表展で発表した。

計測は、ルーペと物差しを用いて、1/10mmまで測定した。標高は国土地理院25000分の1地形図とカシオ高度計により推定した。生育地平均気温は、諏訪測候所6~9月の月平均気温を標高による0.6℃/100mの平均気温減率により標高補正して得た。表2の平均年輪幅は、(長半径+短半径)/2の平均半径を年輪数で割りmm単位で算出した。

グラフ1は、各種標本中最多年輪数のシラビソ、コメツガ、ダケカンバ、ミネザクラ、ハクサンシャクナゲの、最外側年輪を、伐採された西暦2013年のものとして、生育期(6~9月)平均気温とともに年代に沿って作成した。年輪中心部を各個体の発芽年として、グラフから御小屋尾根筋、神社林上部の亜高山針葉樹林森林について、伊勢湾台風による林相(極相)破壊後の遷移を考察した。

台風による倒木で上層の常緑針葉樹の被陰が解除されると、それを契機として最下層の陰幼樹として生長待機していたシラビソ、コメツガの生長が大きくなり、同時に陽広葉樹であるミネザクラやダケカンバの発芽・生長が開始された。その後約20年が経過すると、広葉陽樹のミネザクラ、ダケカンバの年輪幅は常緑針葉陰樹のシラビソ、コメツガをうまわり、広葉樹が優占した林相に遷移してきたことがわかる。同時に林床は被陰が増加してコケ類の繁茂が盛んとなり、30年後には、最下層灌木のハクサンシャクナゲの発芽生長が開始されたと見られる。気温と年輪の関係は、個別の標本測定値からは解りにくいですが、森全体の優占



年度	平均気温	シラビソ1	コマツガ2	ミネザクラ2	ダケカンバ1	シャクナゲ2	標本	平均半径	年輪数	平均年輪幅
1940	13.6	1.0					シラビソ1	105.0	74	1.42
1941	13.0	2.0					シラビソ2	90.0	59	1.52
1942	14.9	1.5					シラビソ3	100.0	48	2.08
1943	14.4	1.5					シラビソ4	110.0	45	2.44
1944	14.1	2.0					シラビソ5	119.0	49	2.43
1945	13.4	1.0					シラビソ6	120.0	63	1.90
1946	13.8	1.2					シラビソ7	130.0	44	2.95
1947	13.9	1.3					シラビソ8	146.0	67	2.18
1948	13.7	1.4					シラビソ平均	115.0	56.1	2.05
1949	13.4	1.1	0.1							
1950	13.7	1.2	0.1				コマツガ1	101.0	51	1.98
1951	12.8	0.8	0.1				コマツガ2	106.0	54	1.96
1952	13.6	1.0	0.2				コマツガ平均	104.0	53.5	1.64
1953	13.2	0.8	0.2							
1954	13.3	1.0	0.5				ミネザクラ	197.0	50	3.94
1955	14.2	1.2	0.8							
1956	13.6	0.9	1.0				ダケカンバ	100.0	40	2.50
1957	12.8	1.0	0.8							
1958	14.1	0.8	0.8				シャクナゲ	15.0	24	0.62
1959	14.0	1.0	1.0				単位	mm	年	mm
1960	13.9	1.2	0.8							
1961	15.0	0.9	1.0							
1962	14.1	1.0	3.0	1.5						
1963	13.8	1.1	3.0	1.5						
1964	14.3	1.1	2.5	2.0						
1965	13.5	1.0	3.0	1.5						
1966	13.8	1.1	3.8	2.0						
1967	14.3	0.9	3.5	1.8						
1968	13.2	1.1	2.2	2.0						
1969	13.1	1.2	2.5	3.0						
1970	13.8	1.3	2.5	3.0						
1971	13.7	1.4	2.5	3.2						
1972	13.4	1.5	2.8	4.0						
1973	14.1	1.6	3.0	3.0						
1974	13.2	2.8	2.7	3.0	2.0					
1975	14.1	2.5	2.8	4.0	2.5					
1976	12.6	2.5	2.5	3.0	3.0					
1977	13.9	2.2	3.0	2.6	3.5					
1978	14.7	1.6	2.6	3.6	3.2					
1979	14.3	1.5	2.0	3.6	4.5					
1980	13.4	1.6	1.5	3.0	3.5					
1981	13.4	2.1	1.5	3.7	3.1					
1982	12.6	3.0	1.5	2.5	3.2					
1983	13.8	2.8	1.4	3.5	3.5					
1984	14.6	3.1	2.6	3.0	5.0					
1985	14.4	3.5	3.2	2.2	5.0					
1986	14.0	2.8	3.7	2.5	4.0					
1987	14.7	3.0	2.7	2.4	5.0					
1988	14	3.0	2.0	2.8	3.0					
1989	13.8	2.2	2.5	3.0	4.0					
1990	15.3	2.8	1.5	3.1	3.0	1.5				
1991	14.9	2.8	2.0	3.5	2.5	1.0				
1992	14.1	2.5	2.3	2.5	3.0	1.3				
1993	13.1	3.2	1.5	2.5	4.0	0.8				
1994	16.0	2.5	1.2	3.2	4.0	0.5				
1995	14.3	1.6	1.0	4.0	4.0	0.5				
1996	14.3	1.2	0.8	1.9	1.5	0.6				
1997	14.3	1.8	0.8	2.5	2.0	0.9				
1998	14.8	1.3	0.5	3.5	1.8	1.7				
1999	15.0	2.3	0.7	3.1	2.5	1.0				
2000	14.8	2.0	0.5	5.5	2.3	1.1				
2001	15.0	2.0	0.5	4.5	2.2	0.9				
2002	14.8	2.5	0.8	5.0	2.0	1.1				
2003	14.1	2.2	0.6	3.5	2.5	1.1				
2004	15.3	2.5	2.0	4.0	1.5	0.6				
2005	15.4	2.0	3.1	4.3	1.6	0.6				
2006	14.7	1.1	3.5	4.0	1.5	0.3				
2007	15.0	1.4	3.5	4.2	1.8	0.3				
2008	14.5	1.5	4.0	2.5	2.0	0.6				
2009	14.0	1.4	4.0	2.5	2.5	0.3				
2010	15.9	1.3	1.3	2.3	2.2	0.3				
2011	15.2	0.5	0.5	2.0	2.5	0.3				
2012	15.3	0.6	0.6	2.0	1.8	0.2				
2013	15.3	0.5	0.5	1.0	1.9	0.2				
西暦年	°C	mm	mm	mm	mm	mm				

種を主として比較考察すると、密接な相関がみられた。

伊勢湾台風による森林生態系の破壊と、それに基づく森林更新の開始から 50 年が経過した西暦 2010 年代になると、林相の多様化、安定化、森林密度の増加などにより森全体の生産量は低下し、針葉樹、広葉樹、灌木樹、各種ともに年輪幅の低下が見られた。

今回の間伐は御柱用材としてのシラビソの、優占した生長を得るために、有効な方策であると考えられる。

御柱山年輪測定八ヶ岳総合博物館市民研究員講座者

大塚敏子 桑垣文子 上原妙子 上原裕雄 小山京子 小林 豊  
牛山恵一 野崎順子 池澤正秀



陸水グループの活動



きのこグループの活動



野鳥グループの活動



実験工作グループの活動

# 陸水グループ活動報告

花里孝幸

## 1 今年度の活動

陸水学とは湖や川などを対象にして研究する学問である。信州大学山岳科学総合研究所では主に諏訪湖、白樺湖、白駒池のミジンコを通して自然環境を調べている。この活動に市民も加わり、裾野を広げられればと考えている。

今年度は市民研究員養成講座第1期3年の初年度ということもあり、ミジンコとはどういう生きものか、調査研究はどのように行っているのか、そこから見えてくる自然環境とは何か、われわれはどうすればよいのかについて学習するとともに、市民でも取り組めるミジンコを扱った実験や研究について検討してみた。

<今年度の活動の記録>

5月11日(土) ミジンコの体のつくりについて、ミジンコの生態、湖沼調査について講義

5月18日(土) 田圃(安国寺付近)でミジンコの採集、カイミジンコとタマミジンコ、顕微鏡観察

6月8日(土) 田圃(安国寺付近)でミジンコの採集、顕微鏡観察、湖の生態系について講義

6月22日(土) 物質循環、エネルギーの流れ、富栄養化、諏訪湖の浄化システム等について講義

8月6日(火) 諏訪湖のミジンコ採集調査 定量的解析法の学習

8月7日(水) 白樺湖のミジンコ採集調査 定量的解析法の学習

8月8日(木) 白駒池のミジンコ採集調査、定量的解析法の学習

10月4日(金) グループで行う水槽実験の検討、植物性プランクトンを発生させミジンコを入れる

11月10日(日) 培養したミジンコを持ち寄って今後の活動検討、小学校への出前講座等

12月13日(金) ミジンコ飼育体験報告、来年度の活動内容の検討

2月4日(火) 新年度の活動内容の確認、活動展の準備

3月18日(火) 新年度の活動の具体案提示、主に水田ミジンコの調査

3月23日(日) 活動展イベントデー、市民研究員認定証授与式参加

## 2 新年度の活動について

水田のミジンコ調査を中心に、以下を計画している。

### ①水田のミジンコ調査

水田に水張り後1週間に1回程度、種類と発生数を追跡調査する

### ②小さな池やため池のミジンコ調査

### ③学校への出前授業

### ④その他 博物館玄関前に植物性プランクトン培養水槽を展示

## 3 陸水グループ参加者 5名

飯田 美智子

鵜飼 恭子

桑垣 寛

小池 春夫

大塚 光子

# きのこグループの目的と平成 25 年度活動報告について

小 山 明 人

## 1 菌類の世界

キノコは目に見える大きさのカビ、つまり菌類ですが、菌類は生物において動物や植物とも異なる界、菌界を形づくっています。菌類は小さいことや水中や土壌中など生息環境が観察しにくいいため研究が進んでいません。一説では既知種 72,000 種に対して推定総数 1,500,000 種、既知種の割合は 4.8%と言われ、哺乳類の 96.7%、植物の 84.4%に比べて基本研究が大変遅れています (Sci. Amer. (2001))。このような菌類ですが、生態系において分解者としての役割は以前から知られおり、最近では無葉緑ランや樹木の生長促進など植物との共生関係についても研究が進んでいます。

## 2 キノコの現状

茅野市総合博物館が所在する茅野市や諏訪地方ではどのくらいの菌類、キノコが調べられているでしょうか。諏訪地方のキノコを本格的に調査したのは川村清一博士ですが、明治末期から大正にかけての記録は植物学雑誌や著書「原色日本菌類図鑑」にまとめられています。標準和名となったアケボノアワタケやニシキタケなど 14 属 27 種が記載されています。その後、大谷吉雄博士による八ヶ岳美術館の庭から採集されたクロワンガタノポリリュウ (1990)、千葉県立博物館の吹春博士による八ヶ岳 2000 m 地帯のヒトヨタケ属 3 種 (2005) など合計 13 科 16 属 30 種となります (別表)。

一方、植物ですが長野県植物誌 (1997) では 184 科 729 属 2506 種 320 亜・変種、諏訪の自然誌 (1981) では 1842 種、茅野市史別巻自然 (1986) では雑種を含め 1645 種となっています。

菌類、キノコの調査がいかに遅れているかよくわかります。

## 3 平成 25 年度の活動

市民研究員制度は平成 25 年 4 月に発足しました。きのこグループは諏訪地方のキノコ相の解明、併せて食毒だけではない科学的なキノコの理解と普及を目的とします。本年度は月 1 回の定例会を基本とし、午前は野外観察・撮影・採集、午後は博物館で記録、顕微鏡の扱い方やプレパラート作りも行いました。また、今年度は博物館主催の菌類特別展も開催され、国立科学博物館の細矢博士や千葉県立博物館の吹春博士の講演も聞くことができ大変よい刺激を受けました。現在の会員は 12 人です。

## 4 記録の方法と今後

キノコの調査は野鳥の観察などと違い、微生物ですから顕微鏡的観察が必須です。野外では生態的特徴や自然な色合いを写真撮影します。次に丁寧に採集後、外見的特徴や顕微鏡的特徴を観察記録します。場合により DNA 資料も作成したうえでキノコは熱風乾燥標本にします。すべてがきちんと記録でき、かつ、貴重種と思われるものについては DNA 資料を国立科学博物館に送り解析してもらいます。また、展示に適するようなキノコが多く採集された場合は大阪市立自然史博物館に送り真空凍結乾燥標本を作製してもらいます。標本は基本的に博物館に収蔵します。

平成 26 年度はきちんとした記録を数種残せるようにしたいと考えています。

# 諏訪産キノコ一覽

H26(2014).1.28

No.	和名	科名	属名	現行学名	採集地	採集年月
1	アンズタケ	アンズタケ科	アンズタケ属	<i>Cantharellus cibarius</i> Fr.	長野県諏訪郡永明寺山	M41.8
2	ヒナアンズタケ	アンズタケ科	アンズタケ属	<i>Cantharellus minor</i> Peck	長野県上諏訪	M41.7-8
3	ヤマドリタケ	イグチ科	ヤマドリタケ属	<i>Boletus edulis</i> Bull.	長野県上諏訪唐沢山	M41.7-8
4	ウラボネイロガワリ	イグチ科	ヤマドリタケ属	<i>Boletus luridus</i> Schaeff.Fr.	長野県上諏訪	M41.7-8
5	アカジコウ	イグチ科	ヤマドリタケ属	<i>Boletus speciosus</i> Frost	長野県上諏訪唐沢山	M41.7-8
6	コウシタケ	イグチ科	ヤマドリタケ属	<i>Xerocomellus rubellus</i> (Krombh.) Šutara	長野県諏訪産	M41.7-8
7	アケボノアワタケ	イグチ科	アケボノアワタケ属	<i>Harrya chromapes</i> (Frost) Halling, Nuhn, Osmundson, & Manfr.	長野県上諏訪	M41.7-8
8	アカヤアマドリ	イグチ科	ヤマイグチ属	<i>Lecicium extremorientale</i> (L. Vassilieva) Sing.	長野県上諏訪唐沢山	
9	オオギタケ	オウギタケ科	オウギタケ属	<i>Gomphidius roseus</i> (Fr.) Fr.	長野県上諏訪	
10	サマツ	キシメジ科	キシメジ属	<i>Tricholoma colossus</i> ss. Kawam.	長野県上諏訪	M41.7-8
11	カレバタケ	ツキヨタケ科	モリノカレバタケ属	<i>Gymnopus erythropus</i> (Pers.) Antonín, Halling & Noordel.	長野県上諏訪	
12	ヘラタケ	テングノメシガイ科	ヘラタケ属	<i>Spathularia flavida</i> Pers.	長野県上諏訪	
13	シラガウシグンヒトヨタケ	ナヨタケ科	ヒメヒトヨタケ属	<i>Coprinopsis candidolana</i> (Doveri & Ujjé) Keirle, Hemmes & Desjardin	長野県茅野市(八ヶ岳)	H16.8
14	ツバヒナヒトヨタケ	ナヨタケ科	ヒメヒトヨタケ属	<i>Coprinopsis ephemeroides</i> (DC.) (ined.) = <i>Coprinus ephemeroides</i> (DC.) Fr.	長野県茅野市(八ヶ岳)	H16.10
15	トフンヒトヨタケ	ナヨタケ科	ヒメヒトヨタケ属	<i>Coprinopsis stercorea</i> (Fr.) Redhead, Vilgalys & Moncalvo	長野県茅野市(八ヶ岳)	H16.8
16	ハナイクチ	ヌメリイグチ科	ヌメリイグチ属	<i>Suillus grevillei</i> (Klotz.) Sing.	長野県上諏訪	
17	ヌメリイグチ	ヌメリイグチ科	ヌメリイグチ属	<i>Suillus luteus</i> (L.) Roussel	長野県諏訪産	M41.7-8
18	クロフンガンタノボリリュウ	ノボリリュウ科	ノボリリュウ属	<i>Helvella corium</i> (O. Weberb.) Massee	長野県諏訪郡原村	H2.6,10
19	ヤブレットツチグリ	ヒメツチグリ科	ヒメツチグリ属	<i>Geastrum rufescens</i> Pers.	長野県長野市	M41.10
20	ヒメツチグリ	ヒメツチグリ科	ヒメツチグリ属	<i>Geastrum schmidelii</i> Vittad.	長野県諏訪郡金沢山	M41.10
21	ウグイスタケ	ベニタケ科	ベニタケ属	<i>Russula cyanoxantha</i> (Schaeff.) Fr. f.peltareui Singer	長野県上諏訪	
22	ドクベニタケ	ベニタケ科	ベニタケ属	<i>Russula emetica</i> (Schaeff.) Pers.	長野県上諏訪	M41.7-8
23	ヨヘイジ	ベニタケ科	ベニタケ属	<i>Russula integra</i> (L.) Fr. ?	長野県上諏訪	M41.7-8
24	ムラサキハツ	ベニタケ科	ベニタケ属	<i>Russula undulata</i> Velen. = <i>Russula atropurpurea</i> (Krombh.) Britzelm	長野県諏訪産	M41.7-8
25	アイタケ	ベニタケ科	ベニタケ属	<i>Russula virescens</i> (Schaeff.) Fr.	長野県諏訪産	M41.7-8
26	ニシキタケ	ベニタケ科	ベニタケ属	<i>Russula aurea</i> Pers.	長野県諏訪郡金沢山	M41.7-8
27	ツチカブリ	ベニタケ科	チチタケ属	<i>Lactarius piperatus</i> (L.) Pers.	長野県諏訪産	M41.7-8
28	チチタケ	ベニタケ科	チチタケ属	<i>Lactarius volemus</i> (Fr.) Fr.	長野県諏訪産	M41.7-8
29	ヒロヒダタケ	ボロチレウム科	ヒロヒダタケ属	<i>Megacollybia clitocyboidea</i> R.H. Petersen, Takehashi & Nagas.	長野県上諏訪	
30	クロカワ	マツハハリタケ科	クロカワ属	<i>Boletopsis leucomelaena</i>	長野県上諏訪	

合計 13科 16属 30種

- 5 参加者名  
 井村悦子  
 市川浩久  
 遠山俊祐  
 牛山雄二  
 杉田教夫  
 牛山好友  
 上原裕雄  
 上原妙子  
 鈴木美恵子  
 藤崎弘子  
 富沢愛子  
 中島年雄

## 野鳥グループ活動報告

両角 英晴

平成 25 年 4 月 21 日（日）講演会に引き続き、プレゼンテーションで野鳥グループの平成 25 年度活動予定などを説明し、希望者を募った。予定した活動内容は以下の項目日程で、野鳥に興味の有る方々に参加して頂き一年間活動できた。

講演会	4 月 28 日	中村浩志氏（信州大学教育学部名誉教授）
写真展	5 月 03 日	ギャラリートーク 吉野俊幸氏（日本写真協会 会員）
調査	9 月 23 日	タカの渡り確認調査 北八ヶ岳茶白山山頂
	5 月 18 日、7 月 7 日、11 月 17 日、1 月 12 日	
		スポットセンサス 博物館周辺 4 回
座学	10 月 13 日	長野県環境保全研究所出前講座 堀田昌伸氏
探鳥会	4 月 14 日	運動公園
	5 月 03 日	尖石縄文公園、竜神池周辺
	12 月 22 日	神長官守矢史料館周辺
	2 月 02 日	諏訪湖、上川周辺
観察会	8 月 03 日	野鳥の会諏訪ツバメのねぐら観察会に参加、学習

本年度は 吉野俊幸写真展 『 八ヶ岳 四季の野鳥 』が開催され、色々な関連イベントが行われたので、野鳥グループの活動には大変良いタイミングだった。

講演会 『 信州の鳥 』 中村 浩志さん（信州大学教育学部名誉教授 特任教授）

中村浩志さんの講演会では、カッコウの托卵、ブッポウソウ、アオバズク、サシバ、ライチョウなどの生態について興味深い話を聞くことが出来た。

写真展 ギャラリートーク 吉野 俊幸さん（日本写真家協会 会員）

吉野俊幸さんの写真展ギャラリートークでは、1 枚ずつの写真に関する撮影の体験や生態の話を、目と耳で楽しんだ。

探鳥会 『 訪れた夏鳥たち 』 尖石史跡公園・竜神池周辺 両角 英晴

尖石史跡公園と竜神池周辺の探鳥会では、全体的に数は少ないものの 35 種の野鳥が確認できた。

以上が開催され、研究員の学習の場が作られた。

### ◎ 探鳥会

探鳥会を年間で 4 回計画し、地元の季節、環境、場所の違いによる野鳥の生態をポイントに行なった。この探鳥会は 15 年以上も続けて行なっている。市民の皆さんに身近な環境の中で、野鳥を見て知って頂きたいと開催しているが、市民研究員の方もこの事業に携わる事が出来れば良いと思う。 添付別表「探鳥会出現鳥リスト」

### 探鳥会 運動公園の渡り前の冬鳥と留鳥、夏鳥

4月14日には市街地に近い運動公園で観察した。移動を前にした冬鳥では、ヒレンジャク、シロハラ、ツグミが、渡って来たばかりの夏鳥はツバメ、コムクドリ、クロツグミが居た。多くの留鳥も繁殖準備を始めていた。ここ数年減少気味だったゴジュウカラが多く見え、ウソも近くで見た。29種の確認が出来た。

### 探鳥会 尖石縄文考古館・竜神池周辺の夏鳥

5月3日は早朝より尖石縄文考古館の駐車場からスタートして青少年自然の森への林縁部を進み、史跡公園の草地へ廻った。クロツグミ、サンショウクイ、イカルなどがさえぎり姿も良く見せてくれた。堰沿いを竜神池へ進み池東側の木道散策路内に、そこではキビタキ、オオルリ、ノジコ、アオジなどが居て全部では35種の姿や声が確認できた。スコープでも確認出来た鳥も数多く、皆さんに喜んで頂いた。まだ北へ帰る準備中の冬鳥はマガモ・シメ・カシラダカがいた。

### 探鳥会 神長官守矢史料館周辺の冬鳥

12月22日は神長官守矢史料館周辺の農耕地、人家廻り、林縁部で寒い冬を過ごす冬鳥を観察した。野鳥が減った情報の多く聞かれる最近、出現数の減少は驚くべきものだった。

冬をこの地で過ごすはずの冬鳥ツグミ・カシラダカ・ジョウビタキ・ベニマシコ・シメなどは例年に比べても少ない数だった。亜高山で夏を過ぎたルリビタキ・カヤクグリ・ウソは今回見る事が出来なかった。留鳥ではヒヨドリ・ホオジロ・カワラヒワ・シジュウカラはあちこちで見たが、アオジ・モズ・ヤマガラ・アカゲラなど常連の姿は無かった。下見の時見かけたオオタカは出なかったがノスリが雄姿を見せた。今年の29種より減少し23種が確認できた。

### 探鳥会 上川、諏訪湖周辺の冬の水鳥たち

年が替った2月2日 諏訪市すわっこランドへ集合し水辺の鳥観察を行なった。開始前に上川河口沖で水上にいたオオワシ「グル」(連続15年、毎年諏訪湖へ越冬の為飛来)は観られなかった。雨のため先に諏訪湖ハイツで開催の初飛来から40年経った記念の諏訪湖のコハクチョウ写真展を観てから、横河川河口でコハクチョウやカモを観察した。100羽を超えるコハクチョウの中に1羽のアメリカコハクチョウが居り識別を学んだ。カモの識別も知って頂いた。上川にはカモ類やノスリなどが居た。悪天候だったが28種が確認できた。

### ◎ スポットセンサス

環境省自然環境局生物多様性センター・(財)日本野鳥の会・NPO法人バードリサーチ のモニタリングサイト1000 鳥類調査の方法を利用して、八ヶ岳総合博物館周辺の鳥類生息調査を行いました。 添付別表「2013 センサス集計」

#### 鳥の種と数のしらべかた

博物館から上川、柳川の合流まで1kmのコースを決め、5つの定点(A~Eをおよそ250mおき)を設定する。

- ・1日だけの調査では、渡りの時期の違いによって記録できない種が出てくるため、調査を2日に分けて行う。  
繁殖期・・・さえぎりがさかんな繁殖の前期に1日最盛期1日の計2日  
越冬期・・・冬鳥が揃ってから1日、2週間以上経ってから1日の計2日
- ・1日あたり各定点2回調査する。
- ・AよりEまで各定点で10分間の調査をします。E地点終了後、15分間隔をあけて再びE地点から調査する。

2013年 八ヶ岳総合博物館 探鳥会出现リスト

場 所	茅野市 運動公園	茅野市 尖石・竜神池	茅野市 神長官守矢史料館	茅野市 上川 諏訪、岡谷市諏訪湖	
月	4月	5月	12月	14年 2月	
日	14日	3日	22日	2日	
鳥 名					
キジ	○		○		1
コハクチョウ				○	2
アメリカコハクチョウ				○	3
オシドリ				○	4
オカヨシガモ				○	5
ヒドリガモ				○	6
マガモ	○	○		○	7
カルガモ	○	○	○	○	8
オナガガモ				○	9
ホシハジロ				○	0
キンクロハジロ				○	11
ホオジロガモ				○	2
ミコアイサ				○	3
カワアイサ				○	4
カイツブリ				○	5
カンムリカイツブリ				○	6
キジバト	○	○	○	○	7
アオサギ	○	○		○	8
オオバン				○	9
トビ		○		○	20
オオワシ				○	1
ノスリ			○	○	2
コゲラ	○	○	○		3
オオアカゲラ					4
アカゲラ	○	○			5
アオゲラ			○		6
サンショウクイ		○			7
モズ	○	○		○	8
カケス		○			9
ハシボソガラス	○		○	○	30
ハシブトガラス		○	○	○	1
ヤマガラ	○				2
ヒガラ		○			3
シジュウカラ	○	○	○		4
ツバメ	○				5
ヒヨドリ	○	○	○		6
ウグイス		○			7
エナガ	○	○	○		8
センダイムシクイ		○			9
メジロ	○	○			40
ヒレンジャク	○				1
ゴジュウカラ	○	○			2
ムクドリ			○	○	3
コムクドリ	○	○			4
クロツグミ	○	○			5
シロハラ	○				6
アカハラ		○			7
ツグミ	○		○	○	8
ジョウビタキ			○		9
エゾビタキ		○			50
コサメビタキ		○			1
キビタキ		○			2
オオルリ		○			3
スズメ	○		○	○	4
キセキレイ	○	○			5
ハクセキレイ	○	○	○	○	6
セグロセキレイ	○		○		7
カワラヒワ	○	○	○		8
ベニマシコ			○		9
ウソ	○				60
シメ	○	○	○		1
イカル		○	○		2
ホオジロ	○	○	○		3
カシラダカ		○	○		4
ノジコ		○			5
アオジ		○			6
確認種数	29種	35種 42	23種	28種	66種

平成 25 年度 鳥の種と数の調査 記録用紙 集計

調査コース名：総合博物館周辺（下古田・柳川） 調査者 市民研究員野鳥グループ

調査日時 9時より	2013.5.18		2013・7・7		2013・11・17		2014・1・12		年間総合計		
	①・②回目 総合計		③・④回目 総合計		⑤・⑥回目 総合計		⑦・⑧回目 総合計				
種名	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計			特記事項
キジ	6	10							6	10	
カルガモ	3	3							3	3	
カワアイサ							1	1	1	1	冬鳥
キジバト			2	2			2	3	4	5	
アオサギ	3	3	1	1					4	4	
カッコウ			3	7					3	7	夏鳥
トビ	1	1			3	3			4	4	
ノスリ	1	1	3	4					4	5	
コゲラ	1	1							1	1	
チョウゲンボウ	1	1							1	1	
モズ	14	34	14	20	7	10	4	7	39	71	
ハシボソガラス	3	5	2	3	7	13	2	3	14	24	
ハシブトガラス	4	6	8	14	1	5	5	6	18	31	
カケス					1	1	1	4	2	5	
シジュウカラ	3	7	2	2	5	5	7	16	17	30	
ツバメ	20	41	21	46					41	87	夏鳥
アカゲラ			1	1			1	1	2	2	
ヒヨドリ	11	25	21	58	21	43	16	26	69	152	
ウグイス	3	9	10	26					13	35	
オオヨシキリ	24	84	17	58					41	142	夏鳥
ムクドリ	4	8	1	1	1	2	52	56	58	67	
コムクドリ	13	22	7	14					20	36	夏鳥
カワガラス			1	1	5	18	9	23	15	42	
キビタキ	2	2							2	2	夏鳥
ジョウビタキ					1	1	1	1	2	2	冬鳥
ツグミ					2	2	1	1	3	3	冬鳥
スズメ	1	1			213	378	66	124	280	503	
キセキレイ	7	9	1	1	1	2	2	2	11	14	
ハクセキレイ	4	6	1	1	4	5	1	1	10	13	
セグロセキレイ	2	3			3	3	6	18	11	24	
カワラヒワ	2	2	2	2	20	23	10	10	34	37	
イカル							1	1	1	1	
ホオジロ					1	1	33	86	34	87	
カシラダカ							26	86	26	86	冬鳥
トビ 50 <					4	11	1	1	5	12	
ヒヨドリ 50 <					1	1			1	1	
ハシブトガラス 50 <							1	1	1	1	
ハシブトガラス 50					1	1	2	2	3	3	

・2分ごとに、確認した種、記録方法、個体数を記録します。定点から半径50mの範囲とそれ以遠にわけて記録する。

以上の方法にて5月18日、7月7日、11月17日、1月12日の4回実施した。

確認出来た野鳥は34種だった。夏鳥はツバメ、オオヨシキリ、コムクドリ、キビタキ、カッコウの5種、冬鳥はカワアイサ、ジョウビタキ、ツグミ、カシラダカの4種だった。繁殖期には見なかったスズメが冬には大きな群れで居た。いつでも多くの確認ができたのはヒヨドリである。又5年後にはどう変化するのか解らない。

#### ◎ 観察会開催・参加

8月3日 野鳥の会諏訪のツバメのねぐら観察会に参加した。午後6時40分過ぎ頃から観察地だった、諏訪インター入口の広瀬橋の上空には、ツバメの群れが飛び始め、その数はどんどん増えていった。7時頃には上空がツバメでいっぱい、徐々に橋の上流のヨシ原へ止まっていった。細いヨシにはツバメがいっぱいだった。

9月23日 北八ヶ岳茶白山でタカの渡り調査を行なった。麦草峠より調査地点の茶白山山頂まで針葉樹林帯をミニ登山、5時間ほど観察したが、確認は出来なかった。合間には縞枯山の様子も学習して総合学習が出来た。雲の晴れ間には蓼科山から横岳、縞枯山がよく見え、南八ヶ岳も少しの時間姿を見せた。当日佐久側は雨だった。

#### ◎ 出前講座

10月13日 「鳥類の生態と保全」 県環境保全研究所堀田昌伸氏の講演会が研究所出前講座を利用し行われた。県が行っている様々な調査研究が紹介され、それぞれの生態を話され聴講した。

感覚でない実数のデータが調査により作成できたので、今後の調査で比較検討が出来る、さらに場所などを替え実績が蓄積される事が一つの目標点である。

#### グループ参加者

牛山 志穂	大塚 敏子	小林 喜久一	松澤 勝成	小林 美里
牛山 好友	伊藤 美穂子	樫平 隆史		

# 実験工作グループ活動報告

木村正弘

## 1 今年度の活動

実験工作グループでは、身近な素材を活かした子どもたちにとって興味深い実験と物づくりを主に扱うことにした。また、理論と実践に強い市民研究員を育成しようと、理科大研究室での学習会と、博物館事業に協力する形で各種講座の指導を市民研究員にしてもらい、指導のノウハウを学んでもらった。

### <今年度の活動>

- 4月24日(水) 実験工作作品の紹介、針穴写真機について
- 6月5日(水) 各自自作の針穴写真機持ち寄り検討・講評
- 6月15日(土) 「子ども実験工作クラブ」の子どもたちに針穴写真機製作実験指導
- 7月24日(水) 万華鏡の理論と樹脂ミラーを使った万華鏡2種製作、各種万華鏡の紹介
- 8月9日(金) 「夏休み子ども教室」の参加者にオリジナルな万華鏡づくりの指導
- 8月24日(土) 「子ども実験工作クラブ」東海大三高科学部の指導の見学および補助
- 9月11日(水) 万華鏡づくりの指導の展開についての検討
- 9月16日(月) 「サイエンスフェスタ in ちの」の見学
- 9月21日(土) 「子ども実験工作クラブ」の子どもたちに万華鏡2種製作実験指導
- 10月2日(水) 食べ物電池、備長炭電池の理論と製作、実験
- 10月9日(水) 水車発電実験、LEDを用いた太陽電池、温度差発電の理論と実験
- 10月30日(水) 簡易クリップモーターの実験、「子ども実験工作クラブ」指導内容の検討
- 11月16日(土) 「子ども実験工作クラブ」の子どもたちに食べ物電池の製作実験指導
- 11月27日(水) 食べ物電池指導の反省と検討と備長炭電池の実験製作指導のすすめ方検討
- 12月4日(水) 備長炭電池の理論と製作実験実習
- 1月18日(土) 「子ども実験工作クラブ」の子どもたちに備長炭電池の製作実験指導
- 1月29日(水) 平成26年度の活動についての検討、学習会は毎月第2水曜日、活動展の検討
- 2月12日(水) 市民研究員製作の「カメラオブスクラ」披露、イベントデーワークショップ検討
- 3月21日(金) 「子ども実験工作クラブ」ロケット製作と発射体験の補助指導
- 3月23日(日) 活動展イベントデー、市民研究員認定証授与式参加

## 2 実験工作グループ参加者 6名

根橋 良紀	吉江 俊彦	両角 健
三井田陸郎	山田 勝俊	両角 美恵子

## 平成 25 (2013) 年度 八ヶ岳総合博物館の活動の記録

### 1 企画展・特別展

タイトル	開催期間	内 容	入場者数	備 考
八ヶ岳 四季の野鳥	4/27 ~ 6/9	八ヶ岳山麓の野鳥の写真家、吉野俊幸氏の写真 60 点余りを展示	990 4月 90 5月 582 6月 318	講演会 4/28 探鳥会 5/3 ギャラリートーク 5/3
開館 25 周年記念 八ヶ岳で知る菌類の 世界—きのこ・カビ・ 酵母を楽しむ—	7/20 ~ 10/6	なじみ深いキノコ、カビ、酵母について、パネル、標本、写真、映像を使って、自然界での役割や効能などについて解説した展示会	3092 7月 805 8月 1214 9月 759 10月 314	講演会 7/21 8/4 9/1 観察会 9/14 同定会 10/5 ギャラリートーク 7/27 8/31
八ヶ岳山麓文芸官企 画展「俚謡の世界」	10/12 ~ 12/15	盆踊り等で歌われる七・七・七・五の俚謡の世界について展示	2094 10月 586 11月 1131 12月 377	講演会 10/27
研究創意工夫展	11/2 ~ 12/1	市内小中学生の自由研究、工作、絵画の展示会	1178	審査会 10/29 表彰式 11/24
博物館活動発表展	3/1 ~ 3/23	博物館で活動している市民グループの活動報告展	514	イベントデー 3/23

### <ギャラリートーク>

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
5月3日 (金)	四季の野鳥展ギャラ リートーク	吉野俊幸	各展示写真の撮影時の苦労、工夫等の話	40	
7月27日 (土)	菌類特別展ギャラ リートーク	小山明人	キノコを中心にカビや酵母の世界を紹介	16	
8月31日 (土)	菌類特別展ギャラ リートーク	小山明人	キノコを中心にカビや酵母の世界を紹介	5	

### 2 講演会

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
4月21日 (日)	地域博物館と市民活 動	君塚仁彦	地域博物館とは、博物館への市民の関わり方について平塚市博物館の例をもとに講演	50	東京学芸大学 教授
4月28日 (日)	信州の鳥	中村浩志	カッコウの托卵、ブッポウソウの保全、アオバズクの生態、ライチョウの現状等、講師の携わった研究成果について	28	信州大学名誉 教授
6月9日 (日)	地域研究の在り方＝ 飯田市歴史研究所の 例より＝	吉田伸之	飯田市歴史研究所の取り組みから、市民の博物館への関わり方について講演	31	東京大学名誉 教授 歴史研究所長
7月28日 (日)	菌類と私たちの生活	細谷 剛	菌類とはどういうものをきのこ、カビ、酵母の世界から紹介	35	国立科学博物 館
8月4日 (日)	きのこの不思議	吹春俊光	きのこの生態と植物とのかかわり、菌根菌について	28	千葉県立中央 博

9月1日 (日)	信州の発酵食品を支える菌たち—酒や味噌をつくる—	蟻川幸彦	長野県の酒や味噌を作る酵母の育種、自然界から酵母を取り出す研究について	31	県工業技術総合センター
10月6日 (日)	観察の基礎～生態学の思考法 自然を測る～	沖野外輝夫	自然研究の進め方について生態系形成要素の観察、評価を通じた講義	30	信州大学名誉教授
10月13日 (日)	鳥類の生態と保全	堀田昌伸	現在県で行っている鳥類調査のいろいろと保全の実態	10	県環境保全研究所
10月27日 (日)	俚謡の世界	河西允人	盆踊り等で歌われる7・7・7・5の俚謡の世界について	12	茅野俚謡の会長
11月9日 (土)	諏訪の希少植物について	岩波 均	希少植物とその保護保全について	18	諏訪教育会
1月12日 (日)	世界高山植生極限の植物生態について	名取 陽	高山植物生育の極限に注目して、植物生育の限界について	22	植物研究家
2月15日 (土)	諏訪の植物分布について	白鳥保美	大雪のため中止	0	諏訪教育会
3月16日 (日)	天文講演会 宇宙の果ては？	伊東昌市	宇宙の果ては現在どこまでわかっているかについて	32	国立天文台

### 3 自然観察会

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
4月14日 (日)	探鳥会（運動公園）	両角英晴	運動公園周辺で探鳥	4	
5月3日 (金)	探鳥会（竜神池周辺）	両角英晴	青少年の森、竜神池周辺の野鳥観察	25	兼市民研究員講座
7月20日 (土)	霧ヶ峰の自然観察	諏訪教育会	八島湿原で霧ヶ峰の地形、気象、植物などの観察学習	80	兼市民研究員講座
7月27日 (土)	諏訪湖のミジンコ観察	花里孝幸	ミジンコを採集・観察し、湖の自然生態を考える	0 催行せず	申し込みなし
8月24日 (土)	大泉山多留姫滝の植物観察	白鳥保美	大泉山多留姫滝の植物観察と学習	12	兼市民研究員講座
9月14日 (土)	桜平・夏沢のキノコ観察	小山明人	桜平・夏沢でキノコの観察と学習	17	兼市民研究員講座
10月5日 (土)	キノコ同定会	小山明人	持ち込まれたキノコを鑑定する	30	兼市民研究員講座
12月22日 (日)	探鳥会（守矢史料館周辺）	両角英晴	守矢史料館周辺で探鳥	3	兼市民研究員講座
2月2日 (日)	探鳥会（上川・諏訪湖周辺）	両角英晴	上川・諏訪湖周辺で水鳥を中心にした探鳥	2	兼市民研究員講座

### 4 星空観察会（会場 生涯学習センター屋上 曇天、雨天中止）

開催日	内 容	参加者数	備 考
4月6日(土)	曇天中止	0	
4月13日(土)	星座探訪、木星、土星、M3など観望	8	
5月4日(土)	曇天中止	0	
5月11日(土)	雨天中止	0	
6月1日(土)	曇天中止	0	
6月8日(土)	星座解説、水星、金星、土星、二重星	5	
7月6日(土)	曇天中止	0	
7月13日(土)	曇天中止	0	
8月3日(土)	金星、土星、二重星、球状星団	11	
8月10日(土)	金星、土星、二重星	20	

9月7日(土)	雨天中止		0	
9月28日(土)	$\alpha$ L y r、 $\beta$ C y g、M 13、M 31 等		6	快晴
10月5日(土)	曇天中止		0	
10月26日(土)	曇天中止		0	
11月2日(土)	曇天中止		0	
11月30日(土)	惑星、二重星、星雲、星団		18	快晴
12月7日(土)	月面、惑星、二重星、星雲、星団		7	快晴
1月25日(土)	曇天中止		0	
2月1日(土)	曇天中止		0	
2月22日(土)	積雪のため中止		0	
3月1日(土)	曇天中止		0	
3月8日(土)	申込者なく中止		0	晴れ

### 5 歴史観察会

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
11月10日(日)	諏訪鉄山の遺跡を歩く	宮坂敏郎 松谷	鉄鉱石輸送の索道遺跡を見学し 鉄も産した茅野の歴史散歩	15	

### 6 文学散歩

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
5月26日(日)	新田次郎文学散歩①	職員(伊藤)	新田次郎の作品や生涯からその足跡をたどる	16	晴天、夕立雷雨
6月23日(日)	新田次郎文学散歩②	職員(伊藤)	// (好評につき第2弾実施)	11	

### 7 古文書関係事業

#### <古文書解説講座 全6回>

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
4月13日(土)	古文書解説講座①	職員(柳川)	古文書解説学習	27	
5月18日(土)	古文書解説講座②			17	
6月15日(土)	古文書解説講座③			20	
7月20日(土)	古文書解説講座④			21	
8月31日(土)	古文書解説講座⑤			18	
9月21日(土)	古文書解説講座⑥			12	

#### <古文書研究会 全9回>

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
4月20日(土)	古文書研究会①	職員(柳川)	古文書を解説する	6	
5月11日(土)	古文書研究会②			8	
6月8日(土)	古文書研究会③			8	
7月13日(土)	古文書研究会④			8	
9月14日(土)	古文書研究会⑤			8	
11月16日(土)	古文書研究会⑥			7	
12月14日(土)	古文書研究会⑦			9	
1月11日(土)	古文書研究会⑧			10	
2月8日(土)	古文書研究会⑨			6	
3月8日(土)	古文書研究会⑩			8	

<古文書相談会 年間 10回>

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
4月19日(金)	古文書相談会①	職員(柳川)	持ち込まれた古文書を解説し説明する。鑑定はしない	2	
5月17日(金)	古文書相談会②			0	
6月21日(金)	古文書相談会③			0	
7月19日(金)	古文書相談会④			0	
9月20日(金)	古文書相談会⑤			1	
10月18日(金)	古文書相談会⑥			0	
11月15日(金)	古文書相談会⑦			1	
12月20日(金)	古文書相談会⑧			0	
1月17日(金)	古文書相談会⑨			0	
2月21日(金)	古文書相談会⑩			0	

8 裂き織でランチョンマット

開催日	参加者数	開催日	参加者数	開催日	参加者数	開催日	参加者数
4/13(土)	10	7/13(土)	10	10/12(土)	6	1/11(土)	9
14(日)	10	14(日)	10	13(日)	10	12(日)	9
5/11(土)	10	8/10(土)	10	11/9(土)	9	2/8(土)	4
12(日)	10	12(日)	10	10(日)	9	9(日)	2
6/8(土)	10	9/14(土)	6	12/14(土)	10	3/8(土)	6
9(日)	10	15(日)	10	15(日)	9	9(日)	10

9 講座

<夏休み子ども教室>

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
8月7日(水)	ネイチャークラフト 市民館子ども教室	福田勝男 職員 (若宮)	自然素材で自分の好きなものを作る 針穴写真機を作る	13 10	ミュージアム活性化事業
8月8日(木)	糸電話で自由研究	職員 (若宮)	糸電話を作って自由研究をする	4	
8月9日(金)	変わった万華鏡を作ろう	木村正弘 市民研究員	今までにない面白い万華鏡を作る	15	
8月10日(土)	裂き織りでランチョンマット	ねじばなの会	機織り機でランチョンマットを作る	10	
8月11日(日)	裂き織りでランチョンマット	ねじばなの会	機織り機でランチョンマットを作る	10	

<ロビー体験>

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
12月7日(土)	しめなわ作り	平沢 治	正月用のしめ縄を1つずつ作る	10	午前だけ 10名募集

<子ども科学クラブ 全12回>

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
4月20日(土)	開講式 講演 星の世界	牛山教育長 浜 篤 職員	開講式 太陽系宇宙と彗星の話	76	実験工作 クラブと 合同
5月11日(土)	野鳥観察	野沢進之輔	青少年の森で初夏の野鳥観察	42	

6月1日 (土)	きのこの世界を知ろう	小山明人	青少年の森でキノコの観察と学習	39	
7月13日(土)	水生昆虫学習Ⅰ	茅野靖男	水生昆虫についての学習	25	
8月10日(土)	水生昆虫学習Ⅱ	茅野靖男	音無川で水生昆虫を採集し手学習	33	
9月7日(土)	植物観察	小松正夫 浜 篤	霧ヶ峰の植物観察、御射山遺跡観察	36	
10月12日 (土)	子ども科学クラブ 地層観察Ⅰ	小池春夫	杖突峠から糸静構造線を眺める。 守屋山の化石観察	24	
11月2日 (土)	子ども科学クラブ 地層観察Ⅱ	小池春夫	戸隠化石博物館の見学と化石採集	14	
12月14日 (土)	子ども科学クラブ 動物観察	橋田利幸	運動公園のリスの観察	34	
1月12日 (日)	子ども科学クラブ 電気の基礎	浜 篤	電気についての基礎学習 電気の流れ方	18	
2月8日 (土)	子ども科学クラブ 電気と磁石	浜 篤	モーターを作ってみる	25	
3月8日 (土)	子ども科学クラブ 野鳥観察 閉講式	野沢進之輔	青少年の森で冬の野鳥観察 閉講式	35	

<子ども実験工作クラブ 全12回>

開催日	タイトル	講師名	内 容	参加者数	備 考
4月20日 (土)	開講式 講演 星の世界	牛山教育長 浜 篤 職員	開講式 太陽系宇宙と彗星の話	76	自然科学クラブと合同
5月25日(土)	模型工作	根橋良紀	グライダー作り	31	
6月15日 (土)	科学工作実験	木村正弘 市民研究員	レンズ付き針穴写真機を作 って実験学習	30	
7月20日(土)	ネイチャークラフト	小山京子	自然素材を使って造形工作	35	
8月24日 (土)	わくわくどきどき科 学実験	両角紀子	東海大三高科学部による楽 しい科学実験各種見学	39	
9月21日 (土)	科学工作実験	木村正弘 市民研究員	樹脂ミラーを使った万華鏡つ くり	6	
10月19日 (土)	模型工作	根橋良紀	ゴム動力のスーパーカー作り	26	
11月16日 (土)	科学工作実験	木村正弘 市民研究員	色々な食物・飲み物を使って 食物電池をつくる	19	
12月21日 (土)	模型工作	根橋良紀	オリジナルな凧を作って上げ る	38	
1月18日(土)	科学実験	木村正弘 市民研究員	備長炭電池を作って、直列・ 並列の学習	27	
2月15日(土)	飛行機はなぜ飛ぶか	河村 洋	揚力についての学習。模型飛 行機を飛ばしてみる	大雪のため 中止	理科大学長
3月21日(金)	ロケット作りと発射	河村 洋	小型ロケット製作と発射	41	理科大学長

## 10 市民研究員の活動

項目	月日	内容	講師・指導者
各グループ 共通	講座	4月21日 地域博物館と市民活動 6月9日 地域研究のあり方＝飯田市歴史研究所の例 より＝ 10月6日 観察の基礎＝測るとは＝	君塚仁彦 吉田伸之  沖野外輝夫
	活動発表会 活動発表展 認定証授与式	各グループ 3/1～3/23 イベントデー 23 3月23日	19名授与
各グループ 別	植物グループ	野外での観察調査を通じて、八ヶ岳山麓の植物相について学習を深める。毎月1回以上	名取 陽 諏訪教育会
	陸水グループ	ミジンコ、プランクトンの採集観察実習から自然界の生態系について学習を深める。毎月1回以上	花里孝幸
	きのこグループ	野外での観察調査を通じてキノコについて学習を深める。毎月1回以上	小山明人
	野鳥グループ	探鳥会、センサス調査等を通じて、野鳥について学習を深めるとともに、季節の野鳥の消長を調べる。毎月1回以上。	両角英晴
	実験工作グループ	楽しい科学実験や工作を開発し、子どもたちに体験させる経験を積みながら、実験名人を目指します。毎月1回以上。	木村正弘

## 11 出張事業

項目	月日	出張先	内容	出張者
講演	6月16日	かわさき宙と緑の科学館	天文サポーター養成講座 博物館に関わる市民、天文知識	若宮崇令
星空観察	7月16日	泉野小学校 4年	星空解説と星空観望	若宮崇令
講演	9月8日	望月少年自然の家	諏訪信仰の発祥と発展	柳川英司
講演(話)	9月11日	豊平小学校 4年	宇宙の話	若宮崇令
研究授業	10月1日	永明小学校 6年	教員研修 日周運動について	若宮崇令
星空観察	10月4日	宮川小学校 4年	星空解説と星空観望	若宮崇令
星空観察	11月7日	金沢小学校 4年	星空解説と星空観望	若宮崇令
天文教室	12月5日	北部中学校 1・2年	天文解説と星空観望	若宮崇令 大谷勝己
豆腐作り	12月5日	豊平小学校 2年	豆腐作り実習	柳川英司 矢崎さおり
星空観察会	2月4日	米沢小学校 4年	星空解説と星空観望	若宮崇令
講演	2月9日	諏訪教育会館	諏訪理科研究会 総会・研修会・講演会「星空観察のすすめ」	若宮崇令

## 12 寄贈・寄託

受入日	寄贈・寄託 の別	寄贈・寄託者	内容	点数
7/12	寄贈	宮坂典男	古文書 388点・教科書 13点・木箱 1点・財布 1点	403
7/27	寄贈	百瀬敏雄	リス剥製 1点	1
8/13	寄贈	浅木宏寛	ハネカクシ標本 210個体	210
8/28	寄託	矢島邦信	アルバム 3点・スクラップブック 1点	4
9/1	寄贈	上古田区長 長田佐吉	四ッ肩	1

9/10	寄贈	芦田吉美	実態調査ファイル 12冊・天香の世界 1冊・全国鍔絵めぐり 2冊・鍔絵あれこれ(分布図、左官など) 1冊・調査写真ネガ 66シート・録音取材 SD カード 2個・住宅地図 2冊	86
10/7	寄贈	平島佐一	民具 13点 唐箕兼用米撰機 ほか	13
11/21	寄贈	上原治郎	糲通し(千石どおし) 3点	3
1/26	寄贈	伊藤昭介	図書 251冊・ほか 27冊	278
1/24	寄託	柏原区長 北澤正直	柏原区所蔵資料 民俗資料 221点・教科書 361点・古文書・図書 81点・蝶標本 179点	842

博物館活用学習

大河原汐見学

7/19	湖東小学校 4年生
9/26	豊平小学校 4年生
11/8	四賀小学校 4年生
11/12	米沢小学校 4年生

「昔の暮らし」展示解説

1/30	米沢小学校 3年生
2/7	湖東小学校 3年生
2/19・20・25	永明小学校 3年生
2/26	北山小学校 3年生
2/27	豊平小学校 3年生



八ヶ岳 四季の野鳥



7月27日 菌類特別展ギャラリートーク



八ヶ岳麓文芸館企画展「俚謡の世界」



研究・創意工夫展



研究・創意工夫展受賞者



活動発表展



活動発表展



4月21日 君塚仁彦氏「地域博物館と」 4月28日 中村浩志氏「信州の鳥」市民活動」





6月9日 吉田伸之氏「地域研究の在り方＝飯田市歴史研究所の例より＝



7月28日 細谷剛氏「菌類と私たちの生活」



10月27日 河西允人氏「俚謡の世界」



8月4日 吹春俊光氏「きのこの不思議」



11月9日 岩波均氏「諏訪の希少植物について」



11月10日 諏訪鉄山の遺跡を歩く



5月26日 新田次郎文学散歩



古文書解読講座



古文書研究会



機織り体験



12月7日 しめ縄作り



5月11日 子供科学クラブ 野鳥観察



子供実験工作クラブ



12月5日 豊平小学校 豆腐作り



9月26日 豊平小学校養川見学

## ミヤマシロチョウの保護・保全活動等 活動報告

茅野ミヤマシロチョウの会

福田 勝男 宮下 りよ

### 1. はじめに

「茅野ミヤマシロチョウの会」は、任意団体として平成 20 年 3 月八ヶ岳総合博物館に事務局を置き、4 月より活動を開始して 6 年が経過した。

ミヤマシロチョウ (*Aporia hippie japonica*) は、日本の蝶類約 250 種類の中で八ヶ岳に於いて新種として発見され、唯一のチョウであり、茅野市の文化財として 動物部門に於いて唯一指定され、「茅野市の宝」と考えられるチョウであるが、一般市民の関心度は極めて低いのが現状である。

その上で「生物多様性」となると、チョウの比でないほど、無関心である。これが生物多様性のホットスポットとなると、この先が思いやられる。

さて今年度の当会の活動を振り返ると、今までになく非常に充実した活動ができた 1 年であったと思っている。そのいくつかを以下に記述する。

- ・越冬幼虫の天敵防止ネット架けにより、成虫個体数の増加と越冬巣の増加
- ・日本アワード（イオン財団）の「生物多様性」懸賞募集において、賞はともかく当会の活動が認められたこと。
- ・八ヶ岳と浅間山系湯の丸高原の生息環境視察により、八ヶ岳生息地の今後の指標が多少なりとも見えてきた。
- ・長野県保全研究所主催の環境セミナーでの発表。

これらを昨年同様の活動報告と共に記述する。

昨年度までめ活動経過は、茅野市総合博物館の紀要 17～21 号参照とする。

### 2. 平成 25 年度 活動報告

#### A. 茅野ミヤマシロチョウの会活動

##### イ. 24 年度年度末活動

2 月 6 日 諏訪大社ロータリークラブ 「ミヤマシロチョウからのメッセージ」活動発表

16 日 日本チョウ類保全協会「八ヶ岳のミヤマシロチョウ」の現状と活動発表

22 日 茅野エコツーリズム協議会 活動発表

3 月 2 日～24 日 八ヶ岳博物館活動展 「生物との共生」を考える 活動展示 パネル 40 枚

3 月 9 日 長野県ミヤマシロチョウ保護回復検討会

八ヶ岳のミヤマシロチョウについては、試験的に越冬幼虫を天敵防止ネット架けを行う

##### ロ. 25 年度活動

4 月 14 日 平成 25 年第 6 回 総会

許可申請 長野県環境課 八ヶ岳中央高原国定公園内伐木申請

	林務課	同上	保安林指定地申請	
	茅野市林務課	本町林野組合	所有地伐木申請	
	長野県文化財係	(教育委員会)	天然記念物変更許可申請	
5月12日	ミヤマシロチョウ越冬幼虫天敵防止ネット架け			参加者：12人
	14日～6月19日	幼虫捕獲者監視活動(週4日)		
		19日中15日活動		参加者延：32人
19日	立場旭小屋伐木作業	1000㎡		参加者：10人
21日	美濃戸伐木作業	1300㎡		参加者：4人
30日	美濃戸「ホテイラン」	開花調査ルートセンサス		参加者：3人
31日	日本アワード生物多様性懸賞募集	メ切日(発送済み)		
	結果：別添資料	参照とする		
6月2日	観察会「ホテイラン」			参加者：10人
	20日～7月31日	ミヤマシロチョウ採集者監視活動(毎日)		
		43日中36日活動		参加者延：116人
7月20日	日本自然保護協会観察指導員長野連絡会			
	ミヤマシロチョウ観察と意見交換会			参加者：5人
23日	視察研修会「浅間山系ミヤマシロチョウの生息環境」			参加者：21人
	参加者よりアンケート提出により、八ヶ岳生息環境と対比する			
	結果：10月9日結果検討			参加者：12人
31日	会報第11号発行			
8月25日	観察会「ベニヒカゲ」	悪天候中止		
9月10日	美濃戸伐木作業(片付け)			参加者：3人
14日	立場旭小屋(片付け)・幼虫営巣7確認(内1はクモの巣?)			参加者：7人
10月9日	研修会 検討会「八ヶ岳と浅間山系」と生物多様性教育			参加者：12人
	結果検討 別添資料 参照とする			
11月10日	調査「越冬巣調査」			参加者：11人
	9月の営巣確認6(1は確認不可)・新規1 計7確認			
22日	越冬巣確認再調査			参加者：2人
	10日確認のうち1個観察不可 故に6個			
16・17日	「美濃戸ホテイラン」の調査・保護	活動検討		2人
12月8日	長野県環境保全研究所主催 茅野市環境セミナー	活動発表		
	予定入場者100人 実入場者178人 当会員：約30人			
	主旨報告文書：別添資料参照のこと			
14日	反省会及び懇親会 反省会 博物館			参加者：22人
	懇親会 割烹世界			参加者：19人

予定3月7日～24日 改定「生物との共生を考える」(生物多様性)

ミヤマシロチョウ・生物多様性・茅野ミヤマシロチョウの会の活動内容を踏まえた写真・解説

展示 至：市庁舎 1F ロビー

## B. 個別活動内容

### イ. 学習会

#### a. 観察と調査「ホテイラン」(県特別指定種希少野生生物)

- ①. 観察会 6月3日実施 八ヶ岳に於いて美濃戸から西岳にかけて標高 1,600m ~ 2000m に点在している中の、特に絶滅が危惧されているヶ所で行った。

また、この生育地はホテイランの他に希少植物種が多数あるので、保護・監視活動を強化する必要がある。

- ②. 保護・調査 美濃戸生育地「保護・調査」

昨年ホテイラン保護のためのシカ踏み荒らし防止ネットを設置した「美濃戸」の生育地について、他の保護団体と6月に開花調査時にルートセンサスとコドラートセンサスを行い、7月には当会のミヤマシロチョウ監視活動時に第2回目のコドラートセンサスを実施し、そのデータを他保護団体の首謀者である、新井和也氏の元に送付直後に、北ア剣岳に於いて落石という不慮の事故により、一命を落とすという悲報が入った。

その後、当会により第3回目のコドラートセンサスを実施後、他団体と新井氏の遺志を継いだ活動について、ホテイランの生態の確立を踏まえて調査を継続することとした。当会に於いては、調査の継続を主に活動を行うこととした。



コドラートセンサス 状況写真

#### b. 視察研修会

25年度の視察研修会は、浅間山系湯の丸高原に□□るミヤマシロチョウの生息環境と八ヶ岳の生息環境の効果について点検した。

内容及検討については、次頁以下に記述する。

平成 25 年度 視察研修会 八ヶ岳と浅間山系湯の丸高原 深山の妖精 「ミヤマシロチョウ」  
**生息環境を考える**

視察研修日 7月23日 結果検討会 10月9日

平成 25 年 視察研修会 7月23日 浅間山系



浅間山系生息地環境

「天空の地」砂礫地だよ  
 これぞ 最適の生息地  
 八ヶ岳は森林の中だよ

生態観察

**八ヶ岳・浅間山系 比較対象と今後の課題**

八ヶ岳・浅間山系比較対象まとめ

	八ヶ岳	浅間山系
公園指定	国立公園	国立公園
生息地地形（立地条件）	閉鎖的 森林内空間	開放的（天空の世界） 砂礫・風衝地の尾根筋
生息地環境	樹林内（保安林指定地） 樹林帯は中・高木	天空の地（砂礫地稜線） 樹林帯は喬木で草原に近い



越冬巣数	非常に少ない	非常に多い
幼虫食樹	ヒロハヘビノボラズ樹高	メギ樹高
樹高	2.0～3.50m	1.2～1.5m
数量	多い	多い。但し多産卵の為不足
成虫個体数	非常に少ない	非常に多い
天敵防止処置	ネット架け(羽化25頭)	なし
成虫飛翔環境	林間故に非常に狭く、不適	吸蜜植物が高原・草原故に飛翔環境は広く最適
吸蜜植物	樹林内故に限定	高原・草原故に豊富
	イボタジ最盛期	ハクサンフウロ・ウツボグサ
	クサフジ・イケマ咲はじめ (バイカウツギ終了)	ノアザミ・イボタ
	種数・個体数少ない	ハナチダケサシ他
地球温暖化現象	影響を受け易い	現在のところ最適に近い
その他		
チョウ相	林間故に貧粗	高原・草原のチョウ主体で多種・多様と豊富
		ヒョウモンチョウ類
		(コヒョウモン・コヒョウモンモドキ ギンボシヒョウモン・メスグロヒョウモン・ミドリヒョウモン等)
		ジャノメチョウ類 (タロヒカゲ・ヒカゲチョウ・ジャノメ チョウ・ヒメウラナミジャノメ等)
植物相	林間故に貧粗	高原・草原の花 多種・多様と豊富
	クリンソウ・アカバナ・ミヤマハタザオ・ オドリコソウ他	ハクサンフウロ・クルマユリ・シュロソウ・ シヤクジソウ・クスユキソウノアザミ・ ヤナギラン他
	種数・個体数も少ない	

以上を総合判断する課題

ミヤマシロチョウ他チョウ類、また吸蜜植物他植物についても、浅間山系の環境(生態系)の豊かさが八ヶ岳より飛びぬけて良いことが分かる。



吸蜜植物(1) ハクサンフウロ 八ヶ岳には無いよね。



吸蜜植物(2) ノアザミ 八ヶ岳は少ない その上 シカ害

③ ミヤマシロチョウ 浅間山系視察・研修会に対する

八ヶ岳生息地の施策検討 結果報告

10月9日長野県環境保全研究所の須賀氏にアドバイザーを依頼し、会員12名により施策検討を八ヶ岳総合博物館に於いて以下の6項目について検討を行った。

イ. 八ヶ岳の生息地は森林の中にあり、太陽の陽射しが林床に届く様に、また飛翔空間スペースが狭いので広範囲に伐採する。

- ・八ヶ岳の生息地は八ヶ岳中央高原国定公園内であり、保安林指定地内にある。その為に伐採に対する規制があり、広範囲に伐採行為は不可能である。
- ・遠い昔から生き延びてきたチョウであり、人工的に広範囲の伐採をせず、自然淘汰されることも考えられる。と共に、八ヶ岳が絶滅しても浅間山系が生き延びれば良いのではないか。
- ・当会の理念に於いてはチョウが生息できる環境づくりを行うことであり、広範囲の伐採は考えていない。
- ・カラマツ林の伐採をする。財産区問題と保安林の関連が大きい
- ・2010・2011の間の伐採を行う。2010の残伐採
- ・立場川の沢筋砂防ダムから登山道と川の交差部までの伐採をする。

財産区問題・国有林などの課題が多すぎる。又誰が音頭取りをするかにも問題がある。

ロ. 太陽の陽が林床に届く様にする。

- ・ヘビノボラズの被覆枝について今後伐採を必要とする。

ハ. 標高1800m位の所に生息地を造る

- ・茅野市として行者小屋・鉱泉小屋付近への移動は。標高？(2300mぐらいいかな)高すぎて無理がある。
- ・富士見町西岳西陵(御泉水・酒付き流し付近)及び入笠山はどうか。

ミヤマシロチョウだけを考えると良いとは思いますが、茅野と付く以上手を挙げるだけの余裕はない。

- ・生息地を移動は考えることもいいが現在の活動と並行できるかが大きな問題である。

ニ. 吸蜜植物の育成・増殖を図る

- ・H20年に行われた伐採に於いて、吸蜜植物「オドリコソウ」が半日陰植物であることを理解しなかったために絶えた。
- ・吸蜜植物の不足は目に見えている。どのように育成・増殖するか今年度の越冬巣数にもよるが、外来生物法の関係もあり、頭痛の種である。
- ・H10除伐ヶ所にイボタなどの吸蜜植物の移植をする。
- ・ノアザミをシカ害から防止する。ネット養生をする必要がある。

ホ. 地球温暖化に対する対応はできるか

- ・H20からのモニタリングにより、年3から5mぐらい標高の高い方に移行している。あと直高20~25mその後どうなるのか？

ヘ. 幼虫天敵防止ネット架けの効果と今後の課題は

- ・今年のネット架けは効果があった。しかし、が今秋の幼虫巣の調査によるが、巣数に問題を残す。

成虫と吸蜜植物の関係。

- ・血縁障害について何頭までならいいのか？ 50 個体以下の場合障害が発生するというが、今後の重要問題の一つである。

ト. 保護活動 越冬幼虫天敵防止ネット架け

平成 25 年度

長野県天然記念物 「ミヤマシロチョウ」

現状変更許可申請に伴う

(平成 25 年 11 月まで)

完了 報告 書

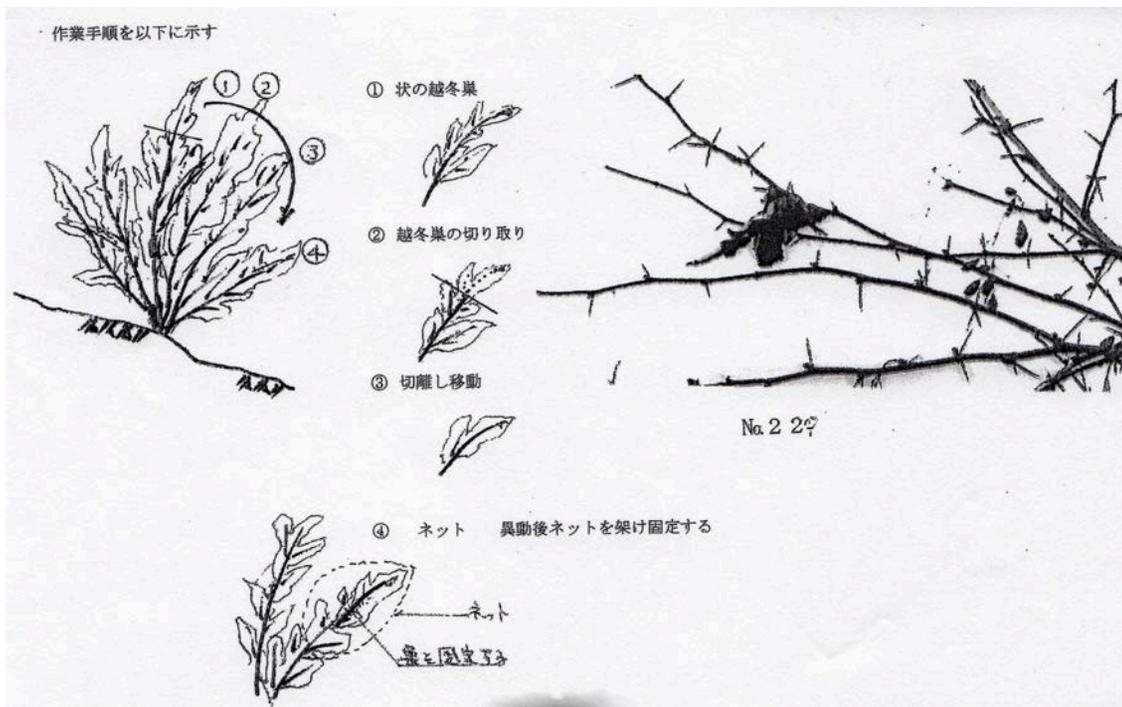


報告年月日

平成 25 年 (2013 年) 11 月 20 日

詳細実施手順

現地の現状は、幼虫食樹であるヒロハヘビノボラズ(Hiruhahibinoborazu)の樹高が 3.0 ~ 4.0m の中木・林立ちであり、越冬巣は樹木の上部の細い枝にある。



林床の起状も大きく脚立・梯子を複数使用し、高枝バサミを使用し慎重に越冬巣の枝を切断する必要がある。切除した枝は手の届く枝に移動する方法で行う。

作業上特に注意する点は

枝の固定:針金又は麻ひもで固定し、重みにより枝が折れたり落下しないように十分注意する。

場合により添え木も考える。

幼虫に損傷を与えないように慎重に扱う。

## チ. 保護監視活動

### a. 越冬幼虫保護と監視活動

5月14日～6月19日活動実施 週4日2～3名体制で実施

#### 監視活動記録

月日	天候	監視者	立ち入り者	備考
5・12	晴	「ネット架け作業」 福田・緑川(統・千)・松影・浜・矢崎・ 北沢・藤森・馬場・宮下・小林・須坂 12人		
14				
16	晴	松影・吉江 2人		235 幼虫 20 ?
18				
19	晴	「伐木作業・監視」 福田・浜・斉藤・矢崎・ 北沢・山崎夫妻・三浦・馬場・小林 10人		249 幼虫 2～3
21				
23	晴	緑川・斉藤・小林 3人		235 糞多い 249 糞 少ない
25	晴	福田・宮下・斉藤・小林 4人	登山者 1 採集者 1	(川横断部上チャマダラセセ リ採集者)
26	晴	馬場・斉藤 2人	登山者 2 植物写真 2	235 幼虫 10 以上 249 幼虫 2 確認
28	曇 雨	「ネット移動 235 から 234 へ」 福田・北沢・松影 3人	植物観察 4	
30		悪天候 中止		
6・1	晴	小林・斉藤・山崎 三浦 4人	自然観察 2	
2	晴 曇	斉藤 1人	自然観察 2	
4	晴 雨	福田・斉藤 2人	自然観察 2	(会員+ 1)
6	曇 晴	福田・吉江 2人		
8	晴	松影・斉藤 2人	植物写真 3 自然観察 21	富士見小
9	晴	福田・斉藤 2人		
11	曇	福田 1人		249 幼虫 影なし
13	雨	福田・吉江・三浦 3人		幼虫前蛹の気配

15	曇	悪天候 中止		
16	晴   雨	川横断部増水の為中止		
18	曇   雨	福田・斉藤・松影	3人	234 蛹 2 確認 ネット外し 7・5 頃

1次(幼虫期) マトメ 5月14日～6月18日 週4日  
 ネット架け 1日 12人  
 監視日数 15日(19日中)  
 監視者数 42人(伐木作業10人含む)  
 管理地立ち入り者 登山3人  
 植物観察 31人  
 植物写真 8人  
 計 42人



ネット架け後 監視パトロール 6月18日

b. 終齢幼虫から成虫終息までの保護・監視活動

6月20日～7月31日活動 毎日3～4名体制で実施

月日	天候	監視者	立ち入り者	備考
6・20	雨   曇	悪天候 中止		
21	曇   雨	松影・斉藤 2人	登山者1人	234 蛹 3 確認 (累計 5)
22	晴 / 曇	福田・小林 2人		ダムサイドより侵入
23	晴   曇	福田・吉江・西原・藤森 4人		234 蛹 8 確認 249 蛹 3 確認 合計 11 確認
24	曇	仙石・両角・北沢 3人		
25	曇 / 晴	福田・小林 2人		
26	雨	悪天候 中止		
27	雨 / 晴	福田・小山・高橋・浜 4人		A M引き返し下流部で
28	雨	悪天候中止		
29	晴	松影・伊藤・小平	イチゴ採 1 希少監視 1	
30	曇	小林・西原 2人		
7・1	曇	矢崎・小林 2人		バイカウツギ未開花
2	曇   晴	福田・緑川(統・千) 3人		羽化4日頃?
3	曇	松影・永田・藤森 3人	植物写真 1	
4	雨 / 晴	福田・斉藤・小山 3人		「ネット外し」7日予定
5	雨	悪天候中止		
6	曇   晴	福田・小平・竹内 3人		249 *羽化1確認・放蝶
7	曇   晴	「ネット外し」 福田・斉藤・小林・ 伊藤・緑川(統・千)・浜・宮下 8人		234 *羽化2蛹14 249 蛹 2

8	晴	松影・吉江・大橋	3人		234 *羽化4 飛翔1 = 5
9	晴	福田・小林・北沢	3人		234 *羽化5 飛翔6 = 11
10	晴   曇	緑川 (統・千)・竹内土田	4人		249 *羽化9 飛翔10 = 交尾2
12	晴	松影・浜・堀	3人		234 *羽化5 飛翔10 = 15
13	曇 / 雨	馬場・伊藤・小平	3人	当会「こども探険隊」 7人+会員3人	飛翔7
14	曇	小林・竹内・西原・福田	4人		飛翔10
15	晴 / 曇	三浦・小林・吉江・藤森	4人		飛翔10 (交尾拒否2P)
16	曇 / 晴	福田・斉藤・両角	3人	登山者2人	飛翔8 (交尾拒否2P)
17	曇 / 晴	松影・土田	2人		飛翔9 *オオイチモンジ1観察
18	雨 / 晴	福田・仙石・小山・北沢	4人		飛翔7 (交尾拒否1P)
19	晴	松影・吉田・高橋・吉江	4人	写真棟影2 (内1危険者尾行)	飛翔7
20	晴	馬場・吉田・伊藤	3人	登山者4 観察会「日本自然保護協会長野連絡会」 8 会員：福田・斉藤・ 小林・須坂・吉江 5	飛翔7
21	晴 / 曇	斉藤・伊藤・西原	3人		飛翔4
22	晴 / 曇	緑川 (統・千)・松影・大橋	4人		飛翔7
23	曇   晴	福田・伊藤・平林	3人	会：研修会浅間山系ミヤマシロ生 息地 (24人参加)	交尾1P (交尾拒否2P) 同上含み6
7・24	雨	悪天候中止			
25	雨 / 晴	福田・浜・三浦	3人	釣り1 植物写真1 登山1	AM雨中止 PM 晴 河川横断部にて監視
26	晴   曇	斉藤・千石・吉田	3人	写真撮影2	飛翔1
27	晴   曇	斉藤・馬場・小平	3人		飛翔1
28	晴 / 曇	福田・山川・小林・西原	4人	キノコ3	飛翔0
29	雨	悪天候中止			
30	曇   雨	福田・小林	2人		飛翔0
31	晴	小林・永田・両角	3人		飛翔2

\* 31日に飛翔2が観察されたが新鮮個体故に、原村広河原からの飛翔と考える

\* 8月1日～10日まで監視予定編成を組み込んでいたが、今年度は7月31日をもって終了とした。

2次（終齢幼虫～成軸）マトメ 6月20日～7月31日毎日

監視活動

監視日数 36日（43日）

監視者数 116人

管理地立ち入り音数

登山 8人

観察 23人

写真撮影 6人（内1人危険人物）

キノコ 3人

希少種保護 1人

釣り 1人

その他 1人

チョウ个体発生数

羽化个体数 27頭

交尾確認 6P

最高日当たり个体数

7/11 19頭

計 43人



同上 6月23日



同上 6月27日 雨にもめげず!!

c. 監視活動

保護清動として成虫吸蜜植物が少ないので、ノアザミ・バイカウツギ・ミヤマイボタの苗植え付けを行った。監視活動の中で記述している。

保護監視活動は、ネット架け後5月14日～6月18日まで週4日（火・木・土・日曜日）、6月20日～7月31日までは、終齢幼虫・サナギ・成虫の違法採取者の監視活動を毎日実施した。



7月6日 成虫の羽化確認



ネット内の成虫羽化



ネットから出し放蝶する



サナギあるよね 成虫の羽化は？

d. 監視活動 まとめ 1・2次活動トータル

監視活動	チョウ発生個体数		
監視日数	52日(62日中)	羽化個体	27頭
監視者数	158人	交尾観察	6P
管理地立ち入り者数			
登山	11人		
植物等観察	54人		
写真撮影	14人		
その他	6人		

(キノコ3・釣り1・希少P1・その他1)

e. ネット架けの効果の確認

今年度は、昨年越冬巣2個に幼虫天敵防止ネット架けを実施した。

その結果、成虫27頭が羽化させることができた。故に、ネット架けの効果が十分現れたものと考えられる。

しかしながら、効果があったと喜んでばかりいられない事情として、成虫の吸蜜する花の不足が心を痛める。過去6年間モニタリングの結果、バイカクツギが先行しミヤマイボタ・クサフジと移行し、成虫生息終末ぎりぎりにノアザミ・ウツボグサが開花する。吸蜜の種は以上5種であるが、いかなせん種の個体数も非常に少ない。

ミヤマシロチョウの保護監視活動からのモニタリングを以下に示す。

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
前年巣数	14	34	45	18	6	2	6
越冬後巣数			3	12	0	2	
成虫発生個体数	12	26	18	29	(5)	27	

\* 25年の27頭は羽化確認個体数

f. 26年度天敵防止ネット架け数量の課題

当会において10月9日に、浅間山系ミヤマシロチョウ生息環境視察会における八ヶ岳との相違について検討した中においても、このネットの数量について検討したが結論は出せず、26年3月に開催される県ミヤマシロチョウ保護回復検討会に委ねる方向で結論づけた。

なお、参考資料として八ヶ岳・浅間山系生息環境についての検討結果を添付する。

リ. 保全・整備活動

保全・整備(除伐)は、立場旭小屋については八ヶ岳高原国定公園内並びに保安林故に、諏訪地方事務所環境課並びに林務課に除伐許可申請を行い許可後に除伐作業を行う。

また美濃戸については公園外であり土地所有者を経由し、茅野市に除伐許可申請し、許可後除伐作業を行う。

a. 立場旭小屋

今年度面積 1000㎡ 累計 14000㎡

(累計 20年～30・32・25・20・23・10)

5月19日 参加者 福田・矢崎・浜・斉藤・山崎(2)・北沢・馬場・三浦・小林  
・穴山財産区2名 合計：12人

9月14日 参加者 福田・浜・斉藤・三浦・吉江・小平・小林 7人

(16日 立ち入り禁止柵一部撤去 参加者 福田・浜・松影・小林)

\* 5月19日 次年度の除伐予定ヶ所について、穴山財産区と協議した結果、登山道湧水ヶ所であり保全整備として施工依頼をした。場所は20年施工地と22年施工地を接続することにより、ミヤマシロチョウの飛翔空間を確保する除伐を行なう。登山道保全整備と2点で了解を得る。

(なお、植生調査は26年5月に実施し、県に除伐申請を行い、9月完了目標として計画する)

b. 美濃戸

今年度面積 1300㎡ 累計 6400㎡ (累計 22年～15・18・18・13)

5月21日 参加者 福田・松影・浜・矢崎 4人

9月10日 参加者 福田・北沢・小林 3人

\* 9月8日 林野組合との現地協議として、次年度の除伐予定は無し。その上で、今後の活動は維持管理として行うむね口頭にて伝達。詳細については次年度役員と打ち合わせる。

c. 保全・整備活動

立場川 旭小屋周辺 「保全整備活動」



春の作業



秋の作業



美濃戸 「保全整備活動」



春の作業



秋の作業



作業完了

ヌ.「こども自然探検隊」活動

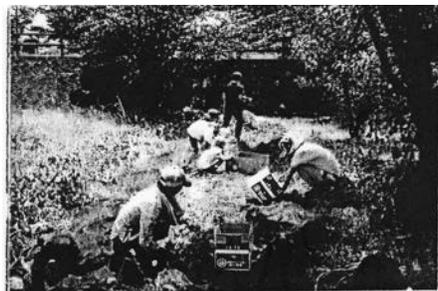
4月13日	入会説明会及び事業	退会者4家族こども5人
		入会者3家族こども4人 参加者：11人
18日	博物館畑の耕運	2人
20日	体験「ジャガイモ植え付け」と「春 見つけた」	参加者4家族こども6人 参加者：13人
5月11日	観察・体験「山菜採りと料理」	参加者9家族こども12人 参加者：26人
18日	体験 多留姫神社「田植え」	参加者7家族こども10人 参加者：20人
6月1日	同上 「稲虫追い祭」・サツマイモ苗植え付け	
	「オオキンケイギク」駆除	
	稲虫	参加者8家族こども11人参加者：21人
	サツマ	参加者6家族こども10人 参加者：18人
	オオキ	参加者5家族こども 8人 参加者：15人
29日	観察・体験「川辺の昆虫・魚」	参加者6家族こども 8人 参加者：12人
7月13日	観察「ミヤマシロチョウ」	参加者4家族こども 6人 参加者：12人
8月10日	観察・体験「ザリガニ釣り」と「ジャガイモ堀り」	参加者4家族こども 7人 参加者：14人
17日	観察「アサギマダラと初欲の蝶」	参加者3家族こども 5人 参加者： 9人
9月28日	体験 多留姫神社「稲刈り」	参加者7家族こども11人 参加者：22人
10月5日	観察・体験「キノコ採りとキノコ汁」	悪天候中止
12日	体験 多留姫神社「脱穀」	参加者8家族こども11人 参加者：21人
19日	体験「サツマイモ収穫」	参加者8家族こども11人 参加者：21人
11月2日	観察「紅葉と木の実・草の実を探す」	参加者7家族こども9人 参加者：18人
17日	体験 多留姫神社「餅つき」	参加者9家族こども14人 参加者：27人
12月7日	体験・創作 ネイチャークラフト「リースづくり」	参加者8家族こども12人 参加者：23人
1月18日	観察「諏訪湖の冬鳥」	参加者7家族こども9人 参加者：19人
2月1日	体験「雪あそび」	
3月8日	体験・創作 ネイチャークラフト「木の実・枝で何作る」	

山菜とりと天ぷら料理



おいしそうだね

ジャガイモの収穫



田植えだよ



ぬるぬる気持ちが悪いが植えたよ

「ミヤマシロチョウ」観察会



羽化成虫がいるよ

サツマイモの苗植え付け



舟形にしてしっかりと植えてよ



妖精の羽化だよ

秋の昆虫観察



双子山山頂にて



双子山にベニヒカゲが

収穫祭だ「稲刈りだよ」



脱穀だよ 手をきらないようにね



稲刈りが終わって「ごくろうさん」

### 特定外来生物の 拡大を防ぐために

私たちにできること  
外来生物の中には、繁殖力が強く、あっという間に増えてしまう種類があり、いつの間にか増えてしまった外来生物を駆除するには、たくさんの労力や時間、またお金がかかります。このため、外来生物を「入れない、増やさない、広げない」の3原則を守る必要があります。

自然生態系保護活動の留意点  
1 入れない → 駆除を怠らず、もたらさない外来生物の侵入を防ぐこと  
2 増やさない → 駆除している外来生物を自然のなかに戻さないこと  
3 広げない → 駆除のなかでいる外来生物の駆除に協力すること

③. 特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除活動  
25年9月の市議会において特定外来生物「オオハンゴンソウ」の駆除についての質問に対し、市長は「26年度にプロジェクトを立ち上げ対応する」と答弁されたことに対し、当会として期待している。しかし、当会に於いては、同じ特定である「オオキンケイギク」の駆除活動は、すでに実行していることを報告する。

特定外来生物「オオキンケイギク」の除去

これがオオキンケイギク

根から抜き取るんだよ

フレネウリ

奥野日報 2018年(平成30年) 6月2日 日曜日

### 地元の生態系守れ

茅野ミヤマシロチョウの会  
オオキンケイギク駆除

特定外来生物のオオキンケイギクを駆除する会員ら

茅野市道安地区のミヤマシロチョウの生息地を守るため、故郷の在来種や自然保護を行っている「茅野ミヤマシロチョウの会」が、オオキンケイギクの駆除活動を行っている。オオキンケイギクは、繁殖力が強く、あっという間に増えてしまう種類があり、いつの間にか増えてしまった外来生物を駆除するには、たくさんの労力や時間、またお金がかかります。このため、外来生物を「入れない、増やさない、広げない」の3原則を守る必要があります。

が駆除し、地元の生態系を守るため、故郷の在来種や自然保護を行っている「茅野ミヤマシロチョウの会」が、オオキンケイギクの駆除活動を行っている。オオキンケイギクは、繁殖力が強く、あっという間に増えてしまう種類があり、いつの間にか増えてしまった外来生物を駆除するには、たくさんの労力や時間、またお金がかかります。このため、外来生物を「入れない、増やさない、広げない」の3原則を守る必要があります。

オオキンケイギクは、繁殖力が強く、あっという間に増えてしまう種類があり、いつの間にか増えてしまった外来生物を駆除するには、たくさんの労力や時間、またお金がかかります。このため、外来生物を「入れない、増やさない、広げない」の3原則を守る必要があります。

ル. 企画・広報・啓蒙活動 成果報告

a. 企画

①. 会報発行

第11号 7月31日 発行

第12号 3月31日 発行

b. 広報

①. 長野県保全研究所セミナー発表 12月8日 茅野会場

茅野ミヤマシロチョウの会と「生物との共生」を考える

このセミナーは保全研究所の主催で、茅野市・茅野市教育委員会が共催となり、実施された。

主催者側の予定入場者数は100名として開催されたが、約180名と多くの自然に関心のある人が参加された。(P71 参照)

②. (予定) 日本アワード懸賞募集「生物多様性」内容解説 + 25年度活動 追加・改定展示

深山の妖精からのメッセージ

改定「生物との共生」を考える

3月10日～24日 茅野市庁舎 1F

ロビー展示を行う。

(P72・73・74 参照)

③. 視察研修会

八ヶ岳と浅間山系湯の丸高原

ミヤマシロチョウ生息環境を考える

(P57～60 参照)

④. 長野県天然記念物「ミヤマシロチョウ」

現状変更（幼虫越冬巣ネット架け行為）

報告

(P61 参照)

⑤. 特定外来生物の拡大防止

「オオキンケイギク」の駆除活動

広報文書の詳細については、後に記述されている各項欄の成果報告書を参照とする。



「深山の妖精」からのメッセージ

生物との共生を考える  
未来に生きる子ども達の為に  
福田勝男  
茅野ミヤマシロチョウの会

2010年名古屋市で開催された国際会議「COP10」の主題であった「生物多様性」という言葉。最近よく聞くようになってきましたが、理解している人は少ないのが現状であります。故に理解しやすい言葉に変えることにより理解されると考え、私は上記の「生物との共生を考える」として活動展示などに使用しています。

人間は多くの生物から恩恵を受けています。衣食住・薬品・酸素、化石燃料、そして文化も。この恩恵がなければ人間という生物も生きることができません。ここに未来の子ども達の為にも他の生物と共生できる自然環境を保全・保護することが必要です。これが生物多様性の原点と考えます。

生物の生息環境を破壊・阻害し生物を絶滅に追いやり、自然破壊を行っている原因を生物多様性国家戦略では「4つの危機」と捉えています。COP10では、「愛知目標20」が制定されて目標数値も明記されています。

1. 人間活動や別荘・レジャー施設等を含む開発・盗掘・採集などの危機
2. 人間活動の縮小と変化による危機（森林・田畑管理放棄、農業従事者の高年齢化、化石燃料への転換）
3. 人間による外来生物の持ち込みによる危機（固有種の絶滅、交雑種化）
4. 温室効果ガス（CO2）の激増による地球温暖化、生態系の影響

以上について環境省、長野県ともに2012年に「生物多様性戦略」を制定し、現在地方自治体に戦略策定が投げかけられています。茅野市では、昨年は「希少野生動植物」、今年「外来生物」に関する市議会質問があり、来年度「特定外来生物の駆除への取り組み」に力を入れるとの市長答弁がされています。

今回は「深山の妖精からのメッセージ」ということで、「深山の妖精すなわちミヤマシロチョウの現状と「茅野ミヤマシロチョウの会」の活動について、COP10に触れながら発表していきます。

1. ミヤマシロチョウとその現状  
ミヤマシロチョウは「茅野市の宝」

ミヤマシロチョウは日本の蝶約250種の中で八ヶ岳において明治34年に発見された唯一のチョウです。茅野市の文化財の動物部門で唯一指定されている、「茅野市の宝」であり、現在八ヶ岳の諏訪側では3ヶ所、茅野市側で2ヶ所と局地的に生息しています。しかし、生息個体数は減少し自然状態ではほぼ絶滅状態になっています。



c. 啓蒙活動「生物多様性」関連

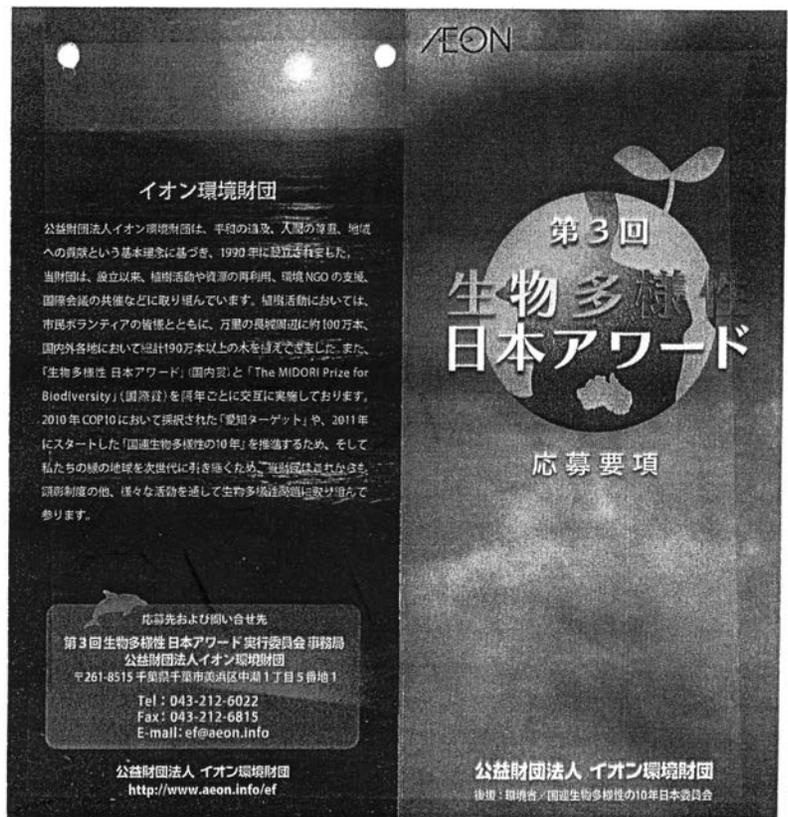
① 日本アワード（イオン財団）「生物多様性」懸賞募集

投稿結果のコメントについて 検討

25年3月博物館活動展示として発表した「深山の妖精のメッセージ『生物との共生を考える』と題した展示を解説書と参考資料を付け募集に投稿した。

民間の1任意団体が無謀などと思つての投稿であったが、活動に対し審査員から活動に対し賞賛のコメントを頂き、満足したのが現状である。コメントの最後にPR活動の不足を指摘されたが、行政・地域団体・土地所有者・一般市民の参画は、当会の力では動かしがたいと結論付けた。

そのコメントと検討結果を以下に記述する。



さて、審査委員会にて、厳正な選考を行いました結果、今回応募戴いた取組につきましては大変に有益で貴重なものと思料致しましたが、今回は受賞には到りませんでしたことをご通知申し上げます。

今後とも生物多様性に関わる活動におけます一層のご活躍を祈念いたします。

敬具

第3回生物多様性日本アワード  
実行委員会 事務局

尚、貴団体の活動につきまして、審査に関わりました有識者2名よりコメントを預かっておりますので、ご参考までにお送りいたします。

貴団体の今後一層のご活躍をお祈り申し上げます。

敬具

甦れ、深山の妖精 「ミヤマシロチョウ」  
チョウからのメッセージ  
活動写真展「生物との共生」を考える



展示観覧者風景



コメント1

・生物多様性の保全に係る精力的な活動に敬意を表します。  
・貴会の取組は、ミヤマシロチョウをシンボルとして、その種・個体の保護のみならず、生息環境の保全や、活動を通じた自然体験・学習の場の提供に至るまで幅広く、多角的に取り組まれていることは、高く評価されるものと思います。  
・会を設立されてから6年目ということで、現在の活動が長い年月にわたり継続的に取り組まれること、また、今後は茅野市周辺での本取組の意義や手法、効果について、長野県全体、中部地方全体、そして、日本全国に波及するよう、多様な主体との連携をより一層進められ、積極的な情報の送受信がおこなわれることを期待しています。  
・「生物多様性の保全への貢献」「社会への貢献」「地域性・地域への貢献」といった面から、他の模範となる優れた事例として評価されます。

コメント2

はじめに、皆様の日頃の自然保護の取り組みに敬意を表したいと思います。長野県は、古くから広大な草地を必要とする放牧の盛んな歴史から多様なチョウ類の重要な生息地とであり、貴会の取り組みは、ミヤマシロチョウという地域の象徴的な種の生息環境と一体となった保護活動、パトロールなどの地道な取り組み、次世代育成のための環境学習などが一体となった、日本の生物多様性を支える素晴らしい活動と思います。今後のさらなる発展と継続に期待しております。

イオン生物多様性アワードに限らず、表彰において高く評価される活動は、表彰し多くの人の目に留まることによる生まれる価値、すなわち波及性（別地域の人が自分達も頑張ろうと思う）やメッセージ性（例示ですが「自然保護って趣味の世界と思っていただけ、そうではないんだと理解してもらおう」といったこと）という点も評価されます。世界のレッドリストを作成しているIUCNも、「自然の価値を見出し（理解してもらい）、保全する（Valuing and Conserving Nature）」ことに注力していくべきとして近年いうようになってきました。それは、個人の力では、周囲を巻き込み、それが次の世代の巻き込みにもつながっていかないと、真に保全・共生は成し得ないという世界的な認識から来ているのではないかと個人的には理解しています。

といった背景の中で、活動内容詳細を読み感じたことを列挙します。

・貴会の活動の広報・広がりという点でPRが弱いように感じました。密猟されぬよう場所を特定されない形で広報することは大変難しいと思います。しかし、どうしてこの活動が重要なのかを伝えること、地域住民やより多くのボランティアが集まるような支援者の広がっていることは、6年の実績の中であらうかと思っています。支援者が拡大しているということは、貴会の活動が社会に評価されている証ですし、ミヤマシロチョウを象徴とする地域の価値が伝わっている証といえます。団体のPRというのは控えめに書かれる傾向がありますが、もっとPRして良い点のように思います。

・一点目と近い点なのですが、自治体や地域社会、場合によっては企業などの支援者との関わりがあれば、そちらもアピールされると良いと思います。立場を越えて多くの人・団体に応援されるというのは、活動の素晴らしさを実証するものとなります。

・T地区とM地区での素晴らしい事例を、点から面へと広げていくお考えがあれば（あると思うのですが）それもPRされると良いと思いました。記述からだ、2か所“だけ”の取り組みを続けていくように読めてしまい、素晴らしい取り組みがこれから面的に広がり、発展する可能性をPRすることも大事と思います。

今後のPR活動の対応

・ホームページの更なる確立を。現在の活動に対し非常に評価されている。

・PR活動として地域のビジョンの立ち上げによるボトムアップによらなければ県行政は動かない。

ビジョンは、ミヤマシロチョウのみならずあらゆる自然環境を考えた上で多くの住民・市民・団体行政・

また自然保護団体をも巻き込み、八ヶ岳周辺全体の大きな枠組みとして対応することが大切であり PR 活動として求められる。

この時のキーポイントが自然であり、古い地図から文化（人関わり）を含め生態に注視する必要がある。

誰がどのように関わり・考える必要があり、現行政別のミヤマシロチョウの会だけを考えたとしても、その枠組みの形成は不能に近く、会がたとえ可能であっても土地所有者・各行政の利の争いとなり、まとめることは非常に難問であるとする。

## 蝶からのメッセージ

### 平成 24 年度八ヶ岳総合博物館活動発表展 展示解説 「生物との共生を考える」（生物多様性）

#### ミヤマシロチョウについて

ミヤマシロチョウは、中部山岳地帯の亜高山帯に分布するシロチョウ科のチョウである。

そして、その呼称として、我々は「深山の妖精」と呼び、その名にふさわしい可憐なチョウであるといえる。

このミヤマシロチョウは、「茅野市の宝」

- ・幻のチョウ「シナノシロチョウ」の由来
- ・日本の蝶約 250 種の中で、唯一八ヶ岳で新種として発見された
- ・昭和 47 年茅野市の天然記念物指定種

以上を考えると「茅野市の宝」であると言っても過言ではないと思う。

しかし、市民は「知る人ぞ知る」という状況にあるのは事実。

左上 アザミに吸蜜するミヤマシロチョウ

左下 ミヤマシロチョウの分布図

P12 参照

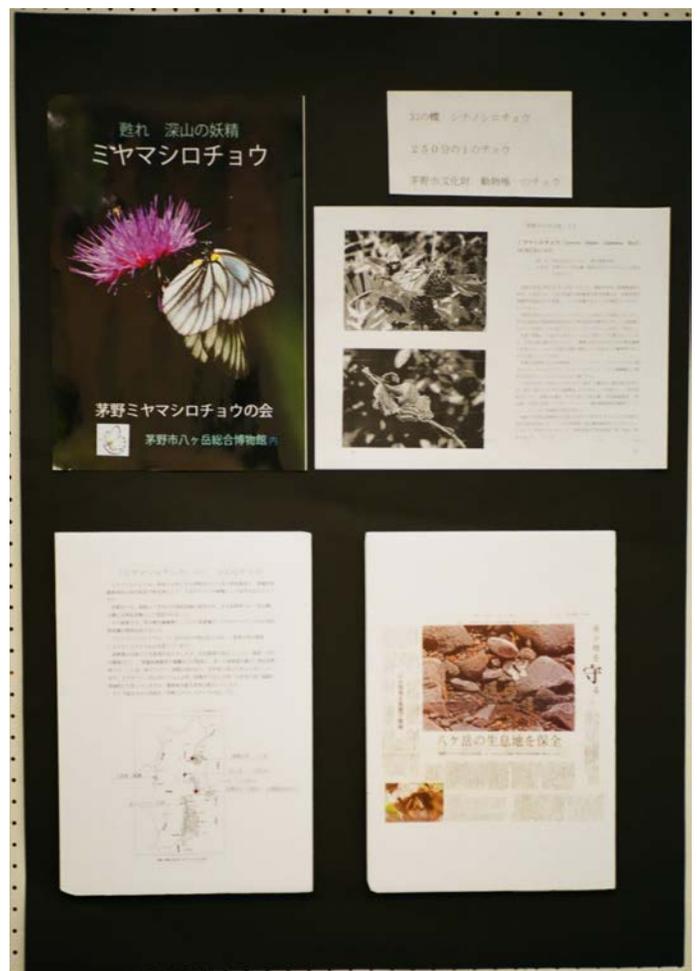
右上 「茅野市の文化財」冊子の

ミヤマシロチョウの記述文書

p11 参照

右下 「希少種を守る」の新聞記事

p12 参照



## 平成 26 年度の課題

- イ. 26 年度は会設立より 7 年が経過するに当たり、7 年間の活動記録を文書として後世に残すための原案を創りたい。そして、この記録文書の支援先も探索する。
- ロ. 八ヶ岳・浅間山系湯の丸高原の視察・研修の結果を踏まえた、「生物多様性 3 + 1 の危機」である地球温暖化による、八ヶ岳の生息情報について検討をする。
- ハ. 県特別希少野生動植物（維管束植物）であるホテイランについて、他団体との協力によりモニタリングを行う。
- ニ. 越冬幼虫の天敵防止ネット架けについて、県ミヤマシロチョウ検討会と連携し、ネット架けの継続と監視活動並びに成虫のモニタリングを継続する。
- ホ. その他生物多様性についてセミナー・シンポジウムなどに積極的に参画する。

## D. 謝辞

「茅野ミヤマシロチョウの会」の活動に対し、支えて頂きました長野県をはじめ各行政各位・信州大学農学部 AFC 昆虫生態学教室・日本チョウ類保全協会・チョウ生息地土地所有者他関係者・支援企業各位ならびに、ボランティアとして事業活動に参加されている、当会の会員各位に心より御礼申し上げます。





---

---

## 紀 要 第 22 号

発行日 平成 26(2014) 年 3 月 28 日  
編集発行 八ヶ岳総合博物館  
〒 391-0213 長野県茅野市豊平 6983  
TEL .0266-73-0300 Fax.0266-72-6119

印刷

---

---

















